

3月14日(土)

13:30～15:00



東北大学川内萩ホール

1

我が国の防災の展望：究極の防災対策を目指して ～兵庫から仙台、そして未来へ～

日本では、これまでも阪神・淡路大震災などの数々の大規模災害による被害を受けて防災対策の強化・改善を進めるとともに、東日本大震災を契機にさらなる防災対策の強化等を図ってきた。

これらの経験と兵庫行動枠組（HFA）での取り組みを踏まえつつ、我が国が中心となりポスト兵庫行動枠組に向けてどのような取り組みを行っていくかについてパネルディスカッションを行い、本会議での議論について広く市民の皆様にもご理解いただけるよう紹介した。

●オープニングセッション

開会挨拶

- ・松本 洋平(内閣府大臣政務官)
- ・三村 申吾(青森県知事)
- ・達増 拓也(岩手県知事)
- ・若生 正博(宮城県副知事)
- ・内堀 雅雄(福島県知事)

・杉本 明文(兵庫県防災監)

- ・田村 圭子(新潟大学危機管理本部危機管理室教授)
- ・濱田 政則(アジア防災センター センター長)

●パネルディスカッション

- ・大西 隆(豊橋技術科学大学学長 東京大学名誉教授 日本学術会議会長)
- ・柄澤 康喜(日本経済団体連合会 防災に関する委員会共同委員長 三井住友海上火災保険株式会社取締役社長)

◆主催／内閣府

3月14日(土)

15:30～17:30



東北大学川内萩ホール

1

地震、津波、土砂災害時等における消防団、地域住民の役割

近年の日本においては、東日本大震災という未曾有の大災害をはじめ、地震、局地的な豪雨等による災害が各地で頻発し、住民の生命、身体および財産の災害からの保護における地域防災力の重要性が増大している。平成25年12月、議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立したが、この法律は、住民の積極的な参加の下に、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、住民の安全の確保に資することを目的としている。本フォーラムでは、東日本大震災をはじめ、地震、津波、土砂災害時において、消防団や地域住民等が行った対応の事例について発表があり、会場との意見交換が行われた。最後に、これらの活動事例発表を踏まえて、総括が行われた。

●主催者挨拶 坂本 森男(消防庁長官)

●ビデオメッセージ 高市 早苗(総務大臣)

●総括

・室崎 益輝(神戸大学名誉教授)

●活動事例発表

- ・佐々木 由真(宮城県南三陸町役場)
- ・長澤 初男(福島県南相馬市消防団 団長)
- ・菊池 のどか(岩手県立大学 総合政策学部1年)
- ・鎌倉 宏(長野県白馬村 堀之内区自主防災組織 会長)
- ・太田 史彦(長野県白馬村 三日市場区自主防災組織 会長)
- ・羽根 高明(東京都大島町消防本部 次長)

◆主催／消防庁

3月15日(日)

10:00～12:00



東北大学川内萩ホール

1

メディカルフォーラム in 仙台 ～東日本大震災時の医療活動の実践と今後の展望～

被災地域の再生を支援する東北大学の役割と今後の展望等について発信するとともに、東日本大震災において医療関係者が取り組んだ医療救護活動を振り返り、そこから得た知見・教訓等を基に、将来起こりうる巨大地震・津波等の自然災害発生時とその後の医療活動のあり方について世界に発信した。

- パネルディスカッション(10:00～11:15)
[東日本大震災時の医療活動の実践と今後の展望]
○コーディネータ
・辻 一郎(東北大学大学院医学系研究科教授)
○パネリスト
・永井 幸夫(仙台市医師会会長)
・長田 純一(仙台歯科医師会会長)
・北村 哲治(仙台市薬剤師会会長)
○コメンテータ
・北波 孝(厚生労働省地域医療計画課長)
- 基調講演 (11:20～12:00)
[東北大学病院の震災時における医療活動と
東北大学の今後の役割]
・里見 進(東北大学総長)
- ◆主催/仙台市(健康福祉局保健医療課)

3月15日(日)

13:30～15:30



東北大学川内萩ホール

1

東日本大震災からの復興の現状と取組～“新しい東北”の創造～

東日本大震災の特徴と、復興における民間との連携に焦点を当てた基調講演が行われた。続いて、被災地の現場で活躍する官民の代表による講演として、復興まちづくり、なりわい、心のケア、福島復興、民間セクターとの連携など、各テーマごとの先進的な取組事例の紹介を行った。併せて、震災後、積極的に国際的な発信を行っている被災地の学生が、新しい東北の創造に向けたスピーチを行った。

- 基調講演 竹下 亘(復興大臣)
- 優良事例① 感謝を包む手仕事で、幸せを世界に繋ぐ
引地 恵((一社)WATALIS代表理事)
- 優良事例② 企業の新たな存在意義とは
藤沢 烈
((一社)RCF復興支援チーム代表理事)
- 優良事例③ 生きがいと役割を取り戻すために
清原 桂子(神戸学院大学現代社会学部教授)
- 優良事例④ 川内村の帰還に向けた取組と課題
遠藤 雄幸(福島県川内村村長)
- 優良事例⑤ 子どもたちの思いを、教育復興に/
世代を超えたふたばの未来へ
竹内 敏英
(双葉郡教育長会会長(双葉郡子供未来会議))
- 優良事例⑥ 木村 元哉
(福島大学行政政策学類1年生(双葉郡子供未来会議))
- 優良事例⑦ 気仙沼ニッティングの挑戦
御手洗 瑞子((株)気仙沼ニッティング代表取締役)
- スピーチ:「新しい東北の創造」から「新しい日本の創造」へ
青柳 光昌((公財)日本財団ソーシャルイノベーション推進チーム チームリーダー)
- 優良事例⑧ 東松島市の復興まちづくり
阿部 秀保(宮城県東松島市長)
- 若者メッセージ “東北の”中高生の役割とは?
佐藤 陸(福島県いわき市出身)

◆主催/復興庁

3月15日(日)

16:30～18:30



東北大学川内萩ホール

1

激甚化する巨大自然災害にどう立ち向かうか ～命を守り、社会経済の壊滅的被害を回避するために～

我が国の防災対策は、一定程度の頻度で発生する現象を対象として、施設整備を着実に進め防災安全度を高めてきたところであるが、近年、これまでの防災施設の設計外力を大きく上回るような、これまで経験したことのない地震、津波、大雨や高潮も発生している。

我々は、着実な施設整備を継続しつつ、このような巨大災害に対しても少なくとも命を守り、社会経済活動の壊滅的な被害を回避することを目指す必要がある。

本フォーラムでは、各国が被った甚大な災害を振り返り、これを教訓として、今後いかに備えていくのかについて、各国の経験、取り組みなどについて共有し、学びあって、来るべき巨大災害に立ち向かう戦略を世界に発信した。

●主催者代表挨拶

北川 イッセイ(国土交通副大臣)

●基調講演

ハン・スンズ(国際連合防災と水に関する事務総長特使 元大韓民国国務総理(首相))

河田 恵昭(関西大学教授)

●パネルディスカッション

◎コーディネーター

磯部 雅彦(高知工科大学副学長、土木学会会長)

◎パネリスト

徳山 日出男(国土交通省技監)

ロヘリオ・シンソン(フィリピン公共事業道路大臣)

ファット・オクタイ(トルコ首相府災害緊急事態対策庁長官)

ジェームス・ダルトン(アメリカ陸軍工兵隊技術監)

クース・ウィリクス(オランダインフラ環境省戦略アドバイザー)

◆主催/国土交通省、公益社団法人土木学会、水と災害ハイレベル・パネル

3月16日(月)

10:00～13:00



東北大学川内萩ホール

1

国土強靱化～私たちは次の世代に何を残すべきか～

本フォーラムでは、発生の可能性が指摘されている南海トラフ巨大地震や首都直下地震、巨大台風などの自然災害による我が国の人命・財産・社会的機能の壊滅的な被害から免れるため、自助・共助・公助それぞれの施策の担い手となるあらゆる者に国土強靱化について正しく理解されるとともに、我が国の国土強靱化に対する諸外国の理解を深めることを目指した。

●第一部 開会挨拶・来賓挨拶・基調講演

◎開会挨拶 山谷 えり子(代読)(国土強靱化担当大臣)

◎来賓挨拶 二階 俊博
(自由民主党総務会長・国土強靱化総合調査会長)

◎基調講演 藤井 聡
(ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会座長)

●第二部 パネルディスカッション「防災・減災思想の主流化とよりよい復興のための文化の伝承」

◎コーディネーター

ナショナル・レジリエンス(防災・減災)懇談会座長 藤井 聡

◎パネリスト

熊谷 幸三(徳島県副知事)

望月 正彦(三陸鉄道㈱代表取締役社長)

国崎 信江(危機管理教育研究所代表)

山本 志織(気象予報士)

●第三部 パネルディスカッション「アセアン及び東アジア地域の国土強靱化に向けて」

◎オープニング

二階 俊博(自由民主党総務会長・国土強靱化総合調査会長)

西村 英俊

(東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)事務総長)

◎モデレーター

澤田 康幸(東京大学大学院経済学研究科教授)

◎パネリスト

ジャック・ラディッシュ(経済協力開発機構(OECD)ハイレベルリスクフォーラムプロジェクトマネージャー)

柴崎 亮介(東京大学空間情報科学研究センター教授)

サイド・ファイサル(アセアン防災人道支援調整センター(AHAセンター)長)

◎クロージング

ラリー・マラムス(アセアン事務局分野横断協力局長)

◆主催/内閣官房国土強靱化推進室

3月16日(月)

15:00～18:00



東北大学川内萩ホール

1

持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開 ～より良い子どもたちの未来に向けて～

多くの中高生を含む1,000人を超える市民や専門家が参加し、防災・減災における持続可能な開発のための教育(ESD)が果たす役割について理解を深めた。防災・減災はESDの中心的なテーマの一つであり、特に東日本大震災以降、防災に対するESDの役割が注目されている。平成26年11月には、愛知県で開催された「ESDに関するユネスコ世界会議」において「あいち・なごや宣言」が採択され、今後、ESDのコンセプトをいかに防災・減災に取り入れるかを考える必要性がさらに高まっている。本セッションでは、ESDの効果的な展開を図るため、被災地での実施事例の発表を行うとともに、国連、国内や海外の研究機関、メディアの関係者などが参加したパネルディスカッションを通して、ESDによる防災教育への貢献について議論した。

- 開会挨拶 山脇 良雄(文部科学省国際統括官)
- 趣旨説明 見上一幸(宮城教育大学長)

●東日本大震災被災地における実践事例発表

- 大学による防災・復興教育プロジェクト
 - 東北大学
 - 東北大学減災「結」プロジェクト
 - 保田 真理(災害科学国際研究所 助手)
 - 市民協働による仙台107万人の防災人づくり
 - 佐藤 健(災害科学国際研究所 教授)
 - 宮城教育大学
 - 震災を伝える、宮城大生の活動とその思い
 - 渡辺 涼子(初等教育教員養成課程 言語・社会系 英語コミュニケーションコース 3年)
 - 八木沼 賢悟(初等教育教員養成課程 芸術・体育系 音楽コース 3年)
 - 宮城県多賀城高校 災害科学科開設に向けた歩み(ユネスコスクール加盟を目指して)
 - 小泉 博校長、生徒2名
 - 気仙沼市階上地区コミュニティ防災の10年(ユネスコスクール活動を通じたESDと防災・復興)

- 及川 幸彦(日本ユネスコ国内委員会委員 宮城教育大学国際理解教育研究センター協力研究員)
- 吉田 智美(気仙沼市立階上中学校 教諭)、生徒2名
- 菊田 篤(気仙沼市立階上中学校PTA 元会長)

●パネルディスカッション

- コーディネーター:
 - ショウ ラジブ(京都大学大学院地球環境学 教授)
- 登壇者:
 - アレクサンダー・ライヒト(国連教育科学文化機関本部ESD課長)
 - アモレー・デトレス(キャピトル大学(フィリピン) 副学長)
 - 今村 文彦(東北大学災害科学国際研究所所長・国連防災世界会議防災教育日本連絡会会長)
 - 菅原 昭彦(気仙沼商工会議所会頭・仙台広域圏ESD・RCE運営委員)
 - 武田 真一(河北新報社論説委員会副委員長)
- コメントーター:
 - 角地 スヴェンドリニ(インタープレスサービス特派員・日本外国特派員協会理事)

◆主催/文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、宮城教育大学

3月17日(火)

10:00～12:00



東北大学川内萩ホール

1

天災は忘れたころにやってくる ～BOSAI でつながる日本と世界 - 防災国際協力～

本フォーラムは、我が国の防災経験および国際防災協力を振り返りつつ、より良い国際防災協力について議論することを目的に開催した。フォーラム前半ではスリランカ災害管理センターのマーク長官、JICA柳沢理事による基調講演が行われ、途上国における予防防災能力強化、防災の主流化等の事例が紹介された。後半のパネル討論では、防災に関連する国内行政、自治体、大学、NGO関係者が登壇し、阪神淡路大震災および東日本大震災に関わる国内での取り組みおよびその経験を生かした国際防災協力の事例が紹介され、国際防災協力では相手国への押し付けにならないよう協議をするプロセスそのものが重要である点について登壇者が合意した。

- 開会挨拶 伊藤 敬幹(仙台市 副市長)
- 基調講演 「JICAによる防災協力とその戦略」
 - 柳沢 香枝(独立行政法人 国際協力機構 理事)
- 基調講演 「スリランカにおける災害管理体制と防災事前投資の実践」
 - L. B. R. マーク(スリランカ 災害管理センター長官)
- パネルディスカッション 「よりよい防災・減災へ向けて～日本の知見を世界へ～」
 - ファシリテーター:
 - 西川 智(独立行政法人水資源機構 理事)

- パネリスト(五十音順):
 - 五百旗頭 真(ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長)
 - 小池 俊雄(東京大学大学院工学系研究科 教授)
 - 齋藤 富雄(公益財団法人兵庫県国際交流協会 理事長)
 - 高橋 宗也(東松島市復興政策部復興政策課 課長)
 - 西川 智(独立行政法人水資源機構理事)
 - 不破 雅実(独立行政法人国際協力機構地球環境部長)
 - 村井 雅清(特定非営利活動法人 CODE 海外災害援助市民センター 理事)
- 開会挨拶 五百旗頭 真(ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長)

◆主催/独立行政法人国際協力機構

3月17日(火)

14:30～18:00



東北大学川内萩ホール

1

巨大災害発生時における災害廃棄物対策 ～事前の備えと官民連携による迅速な復旧～

将来の巨大災害における災害廃棄物対策に向けて、東日本大震災における仙台市の経験・教訓等を世界へ発信するとともに、官民連携による事前の備えと早期復旧活動などの具体的な取り組みについて、議論を深めた。

- 序 事例発表
「東日本大震災における災害廃棄物の処理について」
◎がれき等の撤去
深松 努((一社)仙台建設業協会副会長)
◎損壊家屋等の解体撤去
佐藤 正之(宮城県解体工事業協同組合理事長)
◎がれき等のリサイクル・処理
鈴木 昇(宮城県産業廃棄物協会仙台支部支部長)
- 第1部 基調講演
「巨大災害発生時における災害廃棄物対策の取り組みについて」
小里 泰弘(環境副大臣)
- 第2部 パネルディスカッション
「災害廃棄物対策に関わる事前の備えと官民連携による迅速な復旧」
◎コーディネーター
・吉岡 敏明(東北大学大学院環境科学研究科教授)
◎パネリスト
・小里 泰弘(環境副大臣)
・ムラリー・スマルクディ
(国連環境計画(UNEP)シニアプログラムオフィサー)
・オロフ・リンデン(世界海事大学(WMU)教授)
・深松 努((一社)仙台建設業協会副会長)
・伊藤 敬幹(仙台市副市長)

◆主催/仙台市災害廃棄物等処理フォーラム実行委員会

3月18日(水)

14:30～17:00



東北大学川内萩ホール

1

復興と防災を支える市民のちから

総合フォーラムを締めくくるこのシンポジウムでは、多様な主体が参加したパブリック・フォーラムでの議論を市民と共有するとともに、東日本大震災の被災地である仙台で開催された意義や成果を振り返りながら、市民のちからによる今後のまちづくりや世界の防災文化の未来について考えた。

- 第1部 パブリック・フォーラムでの議論および報告
◎コーディネーター
一カ 雅彦(河北新報社代表取締役社長)
◎報告者
里見 進(東北大学総長)
大山 健太郎(仙台経済同友会代表幹事)
阿部 欣也(仙台市連合町内会会長会長)
- 第2部 パネルディスカッション「復興と防災を支える市民のちから」
◎コーディネーター
紅邑 晶子(防災からまちづくりを考える実行委員会委員長)
◎パネリスト
石塚 直樹(みやぎ連携復興センター)
合田 茂広(2015防災世界会議日本CSOネットワーク(JCC2015))

宗片 恵美子
(特定非営利活動法人イコールネット仙台代表理事)
木須 八重子
(公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長)

◆主催/仙台市、第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)



マチノワ つながる想いを、マチのチカラに。

市民協働と防災

会場／仙台市市民活動サポートセンター(仙台市青葉区一番町四丁目1-3)

※一部、東京エレクトロンホール宮城(宮城県民会館)

期間／3月14日(土)～17日(火)

運営／防災からまちづくりを考える実行委員会

出展団体／34団体

ホームページ <http://www.machinowa.net/>

3月14日(土)

開始時間／9:30

23～26

仙台市市民活動サポートセンター

「市民協働と防災」

テーマ館企画①「ひきだす」

「ひきだす」をテーマに、従来地域とつながりがなかった住民が地域活動を始めた事例の紹介・提供を行った。

テーマ:災害から尊い命を守るために／支援力と受援力～あなたにも“ちょこっと”できることがきっとあるはず～／TOMODACHIから宮城へ、宮城から世界へ／防災・減災ワークショップ～命を守る～「東日本大震災を未来へ」／人と地域に元気を／小さな命の意味を考える～あの日の大川小学校の校庭から学ぶもの～／わが家の災害対応ワークショップ／国際NGOの東北支援談話ナイト～地域とつくるコラボレーション～／伝える学校の発表会／「市民防災世界会議」テーマ別セッション

●主催者／防災からまちづくりを考える実行委員会

3月15日(日)

開始時間／9:30

23～26

仙台市市民活動サポートセンター

「市民協働と防災」

テーマ館企画②「支える」

「支える」をテーマに、独居者などへの見守り活動や地域の困りごとを協力して解決した事例の紹介・提供を行った。

テーマ:しあわせの黄色いハンカチプロジェクト／防災教育の取り組み「防災エンスショー」と「ドキュメンタリー映画」／「まちと防災と資金調達」を考える／「仙台発そなえゲーム」～仙台市市民協働事業提案制度により開発～／3.11から未来へ～10年スパンで取り組む福祉・防災学習実践～「仙台市災害応急用井戸」の市民へのお知らせは町内会で／「分譲マンションの防災」～分譲マンション管理組合の防災への取り組み～／多様な人々が互いに尊重しながら暮らしていくには～多様な性の当事者たちと東日本大震災～／命をまもり、未来を守るためのモノとコト／伝える学校の発表会／「市民防災世界会議」テーマ別セッション

●主催者／防災からまちづくりを考える実行委員会

3月16日(月)

開始時間／9:30

23～26

仙台市市民活動サポートセンター

「市民協働と防災」

テーマ館企画③「つながる」

「つながる」をテーマに、複数の団体や当事者が支援対象と協働して課題の解決にあたった事例の紹介・提供を行った。

テーマ:「笑顔でつながる」[杜の子まつり]報告と「心のケア講座」／ペットハウスをつくらう!セルフビルド建築ワークショップ／大規模災害からの復興における広域連携コーディネートのありかたを考える～いわて・みやぎ・ふくしま 3県連携復興センターの取組から～／自然体験をつうじたNPOの連携による子どもの支援事業／まちづくり情報誌「038プレス」の挑戦～食糧備蓄アンケートから見える都市部の防災意識の実態と方策～／現地報告 復興まちづくり・コミュニティづくりの現状と課題／Thinking of NPO～加藤哲夫氏資料から東日本大震災後のNPOを考える～／このまちで、いのちと暮らしを考える／「市民防災世界会議」テーマ別セッション

●主催者／防災からまちづくりを考える実行委員会

3月17日(火)

開始時間／9:30

23、25、26

仙台市市民活動サポートセンター

「市民協働と防災」

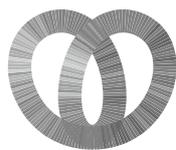
テーマ館企画④「ひろげる」

「ひろげる」をテーマに、コミュニティFMなど地域密着のメディアで取り組みを可視化していく事例などの紹介・提供を行った。

テーマ:災害後も人と動物がともに幸せに過ごすために／みつけよう!地域から。つなげよう!私たちのそれぞれの復興と防災／東日本大震災における塩竈市とNGOの連携／被災地から伝える思い(展望室&FM放送局付き発電風車の紹介)／復興に関わる学生ボランティアと大学の役割／避難所運営トーク～こうしてよかった～。／このまちで、いのちと暮らしを考える

●主催者／防災からまちづくりを考える実行委員会

3月17日(火)	開始時間 / 12:15	11
東京エレクトロンホール宮城 大ホール		
セカイと学ぼう。市民のための防災会議へ! 『市民防災世界会議』 最終日メインイベント		
<p>日本のCSO約100団体のネットワーク「JCC2015」と、国連防災世界会議NGOメジャーグループが共同で行う市民会議。メインイベントでは、国際ゲストらが、ポスト兵庫行動枠組における市民防災の役割やコミュニティと人に焦点を当てたシンポジウムを実施した。東日本大震災を乗り越え繋がられてきた伝統芸能のパフォーマンスも併せて実施。</p>		
●主催者 / 2015防災世界会議日本CSOネットワーク (JCC2015)		



女性と防災

東日本大震災被災者支援センター 仙台市男女共同参画推進センター
Thematic Public Forum: Gender and Disaster Risk Reduction
©2016 JARIS/CISSP

想いは 立ち上がり つながり 広がる

女性と防災

会場／仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台

(仙台市青葉区一番町4丁目11-1 141ビル(仙台三越定禅寺通り館)5F・6F)

期間／3月14日(土)～18日(水)

運営／仙台市、(公財)せんだい男女共同参画財団

ホームページ <http://www.sendai-l.jp/jbf/>

3月14日(土)

開始時間／10:00

21

エル・パーク仙台 セミナーホール

いま私たちは ～未来につなぐ
復興と防災は男女共同参画の視点で

東日本大震災では、避難所運営、仮設住宅、災害公営住宅等において、女性の参画の面で多くの課題がありました。当時の映像をもとに被災地での体験を語り合い、「復興と防災は、男女共同参画の視点で」の提言を世界に発信しました。

●主催者／大震災から復興へ～未来につなぐみやぎ女性のつどい

3月14日(土)

開始時間／14:00

21

エル・パーク仙台 セミナーホール

東日本大震災に学ぶ 大災害と子ども・子育て支援活動
のあり方 ―宮城県子ども支援会議の事例から―

宮城県子ども支援会議は、子どもに関わる宮城県の教育・福祉担当部署と被災者支援団体で構成している会議です。第一部では、復興に関わった子どもたち自身が活動や意見を発表しました。第二部では、震災後の子ども支援活動の報告と意見交換等を行いました。そして第三部で、この会議が震災後に果たした役割の検証と、行政と民間団体が連携し実践してきた被災地の子ども支援の成果や問題点を討議しました。

●主催者／宮城県子ども支援会議

3月14日(土)

開始時間／10:30

22

エル・パーク仙台 ギャラリーホール

東日本大震災の記憶 朗読のつどい
～あの日、あの時、私の記憶～

宮城野地区婦人防火クラブ連絡協議会等が編纂した町内会、婦人防火クラブおよび小・中学校等の震災体験文集をもとに、劇団等による演劇や朗読劇で、震災の記憶を語り継ぎました。

●主催者／仙台市婦人防火クラブ連絡協議会、仙台市(消防局予防課)

3月14日(土)

開始時間／13:30

22

エル・パーク仙台 ギャラリーホール

「女性と防災」テーマ館主催シンポジウム①
トーク×トーク 女性たちのリーダーシップ

東日本大震災は、わたしたちのまちを「被災地」にしました。4年後の今、あの日があったからこそ生まれた思いに気がつきます。地域を見渡し互いにフォローし合う、女性リーダーの新しいありようも見えてきました。「大切なひとや仲間を守りたい」「わたしがやらなければ」。

被災地で活動する女性たちが自らを突き動かしている思いについて、トークセッション形式で語り合いました。

●主催者／仙台市(男女共同参画課)、公益財団法人せんだい男女共同参画財団

3月15日(日) 開始時間 / 18:00 21

エル・パーク仙台 セミナーホール

【宮城・岩手・福島】 発 防災・減災と男女共同参画～今、わたしたちが伝えたいこと～

東日本大震災で顕在化した、男女共同参画に関する課題を繰り返さないために、防災・減災に取り組む女性の力が求められています。宮城・岩手・福島において、被災女性の支援にあたったNPOが、震災発生以降の女性たちを取り巻く状況を報告し、課題解決に向けた意見交換を行いました。

●主催者 / 特定非営利活動法人参画プランニング・いわて、特定非営利活動法人市民メディア・イコール、特定非営利活動法人イコールネット仙台

3月15日(日) 開始時間 / 11:30 22

エル・パーク仙台 ギャラリーホール

防災における女性のリーダーシップ

防災における女性の役割に焦点を当て、国内外で防災や復興の最前線で活躍する政府、NGO、民間のリーダーを招き、それぞれの経験や知見から、今後の課題をいかに乗り越えていくか検討しました。

●主催者 / 国連開発計画(UNDP)、仙台市(男女共同参画課)

3月15日(日) 開始時間 / 14:30 22

エル・パーク仙台 ギャラリーホール

「女性と防災」テーマ館主催シンポジウム②あるってだいじ～災害時の男女共同参画センターの役割とは～

大規模災害において女性支援を行うために、必要な視点、地域のネットワーク、人材などの資源を有するのは、男女共同参画センターです。全国女性会館協議会は、2013年から「男女共同参画センター 防災・復興全国キャンペーン」を展開し、大規模災害時にセンターが相互に支援できるシステムづくりに取り組んできました。これまでの成果を総括し、実効性のある相互支援システム運用に向けた行動計画を発表しました。

●主催者 / 仙台市(男女共同参画課)、公益財団法人せんだい男女共同参画財団

3月16日(月) 開始時間 / 13:30 21

エル・パーク仙台 セミナーホール

フォトボイスとアーカイブ 多様な災害の記録と発信を防災に役立てる

東日本大震災で被災した女性たち、NPO、国という多様なレベルで連携し、災害の経験を記録し発信することの意義と、防災・復興への貢献を考えました。被災した女性たちによる写真と「声」、参加者との意見交換を通して提言を目指しました。

●主催者 / 独立行政法人国立女性教育会館、NPO法人フォトボイス・プロジェクト

3月16日(月) 開始時間 / 13:30 22

エル・パーク仙台 ギャラリーホール

「女性と防災」テーマ館主催シンポジウム③災害に強い社会づくり～男女共同参画の視点を根づかせる～

阪神・淡路大震災等、過去の災害時にも女性をめぐる課題は提起されていましたが、政策や取り組みに十分反映されなかったため、東日本大震災においても同様のことが繰り返されました。その教訓から、東日本大震災後、全国的な女性支援のネットワークが立ち上がったたり、国や自治体の防災計画等に、男女共同参画や多様性配慮の視点が盛り込まれるようになりました。どうすればこの視点を地域に根づかせることができるのか。仙台や各地の取り組みを通じて、具体的かつ実践的な方策を探りました。

●主催者 / 仙台市(男女共同参画課)、公益財団法人せんだい男女共同参画財団

3月17日(火) 開始時間 / 13:30 21

エル・パーク仙台 セミナーホール

つながりを力に～被災地の女性たちの声に応えた支援活動の広がり～

東日本大震災後、被災地域と全国の女性団体が連携した女性相談事業が実施され、相談に留まらず、被災地に寄り添った支援活動に広がっています。被災地の声と支援活動の紹介を通じて、男女共同参画の視点での復興の重要性について理解を深めました。

●主催者 / 宮城県、宮城県人権啓発活動ネットワーク協議会

3月17日(火) 開始時間 / 9:30 22

エル・パーク仙台 ギャラリーホール

**「女性と防災」テーマ館主催シンポジウム④
復興に向けて動く 企業の女性たち**

東日本大震災では、企業やNPO等民間セクターの支援活動にも注目が集まりました。とりわけ被災地企業の女性たちが社内を動かし、それぞれの視点で行った取り組みは、地域の復興に大きく貢献しました。企業自らも被災している中、どのような背景があり、プロセスを経て、それが可能になったのでしょうか。被災地企業の事例をもとに、これからの社会に必要とされる企業のあり方や新しい役割、組織における平常時からの女性活躍推進の意義を考えました。

●主催者 / 仙台市(男女共同参画課)、公益財団法人せんだい男女共同参画財団

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 22

エル・パーク仙台 ギャラリーホール

**「女性と防災」テーマ館主催シンポジウム⑤
災害と女の子たち ～ガールズ防災会議～**

東日本大震災においても、大人と子どもの狭間で、支援が届きにくかった10代の女の子たち。せんだい男女共同参画財団では、「見えない存在」にされがちな中高生の女の子たちに目を向け、仙台に住む女子学生と一緒に、「ガールズプロジェクト」を展開しました。現在、世界各地で女の子のニーズに対応した災害支援や、復興・防災・地域づくりに女の子たちが参画できるような取り組みが進められています。東日本大震災や国内外の災害の経験から、災害時における女の子の課題や、彼女たちがどのように力を取り戻し、発揮していったかを明らかにし、日常からの女の子への支援が災害に強い地域、社会、国へとつながることを発信しました。

●主催者 / 仙台市(男女共同参画課)、公益財団法人せんだい男女共同参画財団

3月18日(水) 開始時間 / 14:00 21

エル・パーク仙台 セミナーホール

**災害復興時の女性の活躍
～地域経済再生の視点から～**

我が国およびAPEC域内での復興過程における女性の活躍に係る事例調査の結果を報告しました。また、女性の起業に関する優良事例の報告を行うとともに、女性の果たす役割の重要性や女性による起業の成功・阻害要因等について議論しました。

●主催者 / 外務省、内閣府、復興庁

3月18日(水) 開始時間 / 13:15 22

エル・パーク仙台 ギャラリーホール

**女性の力で変革を
一男女共同参画と災害リスク削減**

世界の女性団体と連携し、国際的に通用するジェンダー視点を盛り込んだDRRのためのリーダーシップトレーニングプログラムを基調講演と国内実践事例で提示しました。さらにリレートークを行い、8カ国13人が参加して議論を深めました。あらゆるレベルでこのプログラムに取り組み、女性のエンパワメントと、安全で災害に強い地域社会の構築を目指しました。

●主催者 / 男女共同参画と災害・復興ネットワーク、公益財団法人日本女性学習財団

※平成27年2月時点で各行事の主催者から報告のあった内容で記載しています。
海外の主催者による行事名は、その後の変更などがないものは日本語仮訳により記載しています。

3月14日(土)	開始時間 / 10:00		02
仙台市民会館 大ホール			
あなたの情報が命を守る ～メディア新時代の「減災」報道～			
東日本大震災で、マスメディアとソーシャルメディアは競って膨大な情報を被災地に送り続けた。あれから4年、両者の役割はますます多様化し、ビッグデータなどの情報を解析する技術も格段の進歩を遂げた。既存のメディアと新興メディアが独自の強みを発揮しつつ、どのように連携して未曾有の災害から人々を守るのか、議論する。			
●主催者 / 日本放送協会 (NHK) 仙台放送局			

3月14日(土)	開始時間 / 15:30		02
仙台市民会館 大ホール			
世界防災ジュニア会議			
「世界防災ジュニア会議」は、未来を担う子どもたちによる会議。子どもたちが選ぶ「グッド減災賞」や、子どもたちが策定する「グローバルな減災策の提言」などを通し、減災ナレッジのグローバルな普及を図り、新たな減災ナレッジの創造を促進する。			
●主催者 / 一般社団法人 減災産業振興会			

3月14日(土)	開始時間 / 9:30		03
仙台市民会館 小ホール			
いのちを守るまちづくり / 家づくり			
東日本大震災から4年が経過しつつあるにもかかわらず、被災地では未だ困難な状況が残されている。本企画は、我が国を代表する5つの建築系団体が集結し、東日本大震災からの復興とそこでの知見を生かした将来の災害への対応を議論する。この議論を通して、災害に強いまち / 家づくりのために必要な与件を広く一般市民と共有する。			
●主催者 / 一般社団法人日本建築学会 (建築系5団体合同事業・代表団体)			

3月14日(土)	開始時間 / 12:00		04
仙台市民会館 第1会議室			
体感型脱出アトラクション ～自然災害からの脱出～			
地震・大雨・発生時の対応力・知識を向上させる事を目的とし、ゲームを通じて学習していく体感型脱出ゲーム			
●主催者 / ((株)ゼペット)フラップ・ゼロ			

3月14日(土)	開始時間 / 12:00		05
仙台市民会館 第2会議室			
世界とつながる教室 ～教師海外研修事業報告～			
「JICA教師海外研修」に参加した東北地域の先生方が、帰国後の授業などを通じ、東日本大震災からの復興の只中にある日本と自然災害リスクの高い開発途上国とに生きる子どもたちのつなぎ役として何を感じたのか。「国際理解・国際協力」といった取り組みにより、途上国と日本のつながりを知って新しい世界に踏み出していく子どもたちの成長などについてお話いただく。			
●主催者 / 独立行政法人国際協力機構東北支部 (JICA東北)			

3月14日(土)	開始時間 / 15:00		05
仙台市民会館 第2会議室			
事業継続を通じた民間セクター・パートナーシップでのレジリエンスの実践			
Organizations need access to best practices in risk management and business continuity in order to adequately prepare for and recover from disasters. Access to information and planning frameworks is provided by non-profit training institute Disaster Recovery Institute. As the global education and certification body in business continuity, DRI's mission is to make the world prepared.			
●主催者 / Disaster Recovery International and DRI Japan / BCAO			

3月14日(土) 開始時間/18:00 E 05

仙台市民会館 第2会議室

地域密着型の防災管理と「地域の枠を超えた」知識

Drawing on diverse sources of knowledge is significant for reduction of disaster risk and strengthen the community's resilience. This workshop presents case studies from South-east Asia and Japan and discusses the role of sharing of knowledge and networking across the cultural, regional and sectorial boundaries in the community-based disaster risk management.

●主催者/Global Collaboration Center

3月14日(土) 開始時間/12:00 E 06

仙台市民会館 第3会議室

Technical workshop on Monitoring Mechanism for Post-2015 Framework for DRR

Technical experts will discuss a) basic design of new monitoring mechanism, b) design and time frame of pilot studies, c) the commitment of technical organizations in pilot studies, d) modality for developing new monitoring mechanism.

●主催者/UNISDR

3月14日(土) 開始時間/15:00 E 06

仙台市民会館 第3会議室

災害情報システムの強化に関するシンポジウム

To enhance its EWS and disaster information system, Indonesia has long been developing Tsunami Early Warning System (InaTEWS), DIBI (Indonesia Disaster Data and Information), InAWARE, and InaSAFE to mention some. It would be beneficial to share these systems to the wider public, as they have proved to be useful for DRR and resilience building in Indonesia.

●主催者/Badan Nasional Penanggulangan Bencana (Indonesian DM Authority)

3月14日(土) 開始時間/13:00 07

仙台市民会館 第5会議室

ワークショップから学ぶ多様な都市リスクへの対応～仙台レジリエントシティモデルの構築に向けて

自然災害や気候変動、生態系の専門家、主催者(法政大学)からレジリエンスを巡る科学的な話題提供を行い、市民と専門家との間で、仙台が直面するリスクや脆弱性、それらに対応するレジリエントシティの構築に向けた取り組みについて議論するためのシナリオワークショップを開催する。事前に実施するアンケート調査などで公募した約20名の市民を招待し、当日参加者も傍聴可能とする。

●主催者/法政大学

3月14日(土) 開始時間/13:30 08,09

仙台市民会館 第6会議室 第7会議室

3.11人間の復興

3.11東日本大震災の風化に抗う活動として、公明党宮城県本部発の「3.11人間の復興」と題し、公明新聞記者が撮影した写真の展示を活用して、これからの防災にかかします。

●主催者/公明党宮城県本部

3月14日(土) 開始時間/10:00 10

せんだいメディアテーク スタジオシアター

朗読劇「語り継ぐ震災の記憶」～あの日の体験を風化させないために 後世に伝えたい本当の言葉～

東日本大震災で、仙台市は大きな被害を受けた。特に、太平洋に面した市内東部の田園地域は、大津波の直撃により、豊かな緑と水をたたえていた姿を一変させた。今回上演する朗読劇は、この津波で被災された方々からの聞き書き集をもとに制作したもので、仙台市若林区で活動している演劇サークルが出演する。ギターを生演奏が付くほか、英語字幕の投影も予定している。

●主催者/仙台市(若林区中央市民センター)

3月14日(土) 開始時間 / 9:00 11

東京エレクトロンホール宮城 大ホール

地域コミュニティにおける住民及び企業主体の共助による防災計画～災害対策基本法による地区防災計画制度の創設とその展望～

2011年に発生した東日本大震災において、人々は、広域大規模災害時には公助の限界があることを認識し、自助・共助の重要性を認識した。それを踏まえ、日本政府は、2013年6月に災害対策基本法を改正し、地域コミュニティにおける住民および事業者による防災活動に関する地区防災計画制度を創設した。現在、首都直下地震や南海トラフ地震の発生が危惧される中で、このフォーラムでは、地域防災力の強化と地区防災計画制度の関係について論じるものとする。

●主催者 / 地区防災計画学会

3月14日(土) 開始時間 / 14:00 11

東京エレクトロンホール宮城 大ホール

**ユニセフ・シンポジウム
レジリエントな社会を、子どもたちと**

災害被災者の半数は子ども。しかし「あの日」、東北の避難所でおとなを支えたのも子どもたちだった。ユニセフの知見を元に日本ユニセフ協会が展開した活動で得た経験や教訓は、次の大震災への備えにも生かされはじめている。専門家や各地自治体・NPOと共に取り組んだ4年間を振り返りながら、子どもに視点を置いた復興の重要性と、子どもと共につくる「レジリエントな社会」の在り方を考える。

●主催者 / 公益財団法人 日本ユニセフ協会

3月14日(土) 開始時間 / 10:00 12

東京エレクトロンホール宮城 401 中会議室

3.11被災地に暮らす外国人住民の声

東日本大震災を経験した宮城県に在住する海外出身者、特に津波被災地に暮らす外国人にとって「あの日」から今に至る日々がどのようなものだったのかパネルディスカッション形式にてお届けし、被災地宮城の多文化共生の現状を伝える。

●主催者 / 公益財団法人宮城県国際化協会

3月14日(土) 開始時間 / 14:00 12

東京エレクトロンホール宮城 401 中会議室

地区防災計画モデル地区フォーラム

2011年に発生した東日本大震災において、人々は、広域大規模災害時には公助の限界があることを認識し、自助・共助の重要性を認識した。それを踏まえ、日本政府は、地域コミュニティにおける住民および事業者による防災活動に関する地区防災計画制度を創設した。このフォーラムでは、内閣府の指定した地区防災計画モデル地区における取組の現状と課題について論じるものとする。

●主催者 / 内閣府(防災担当)

3月14日(土) 開始時間 / 13:30 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

災害ロボットの現状とギャップ、および将来の社会実装に向けてのアクションプラン

ロボットは近年、災害緊急対応、復旧、予防・減災の重要なツールとなってきており、東日本大震災では歴史上初めて多数のロボットが適用されるに至った。本シンポジウムでは、安全安心のための「災害ロボティクス」とその社会適用の現状と将来、そのロードマップについて、世界のトップ研究者や専門家によるキーノートスピーチとディスカッションを行う。

●主催者 / IEEE、東北大学災害科学国際研究所、国際レスキューシステム研究機構、COCN災害ロボットプロジェクト、ImPACTタフ・ロボティクス・チャレンジ

3月14日(土) 開始時間 / 15:50 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

防災・減災におけるイノベーション

東日本大震災は、さらなる技術革新が必要であることを示した。このシンポジウムでは、内閣府が取り組むImPACT(革新的研究開発推進プログラム)とSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)に焦点を当て、防災・減災におけるイノベーションについて意見を交換する。

●主催者 / 総合科学技術・イノベーション会議[内閣府(科学技術・イノベーション担当)]、科学技術振興機構

3月14日(土)	開始時間 / 9:15	14
東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室		
市民参加による原子力災害の予防と対応		
<p>福島原発事故後、私達は防災・減災のためにどのような社会システムを構築するべきか。イベントでは、原子力災害の防災・減災に関わる国内外の市民社会の活動を幅広く紹介。関係者を招き、各々の経験や情報を共有することで、地域社会での防災・減災に市民が参画する仕組みについて学び、検討する。</p>		
●主催者 / 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)		

3月14日(土)	開始時間 / 14:00	14
東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室		
地域コミュニティにおける防災力の向上に関する活動発表会 ～東日本大震災を踏まえて～		
<p>2011年に発生した東日本大震災において、人々は、広域大規模災害時には公助の限界があることを認識し、自助・共助の重要性を認識した。それを踏まえ、日本政府は、2013年6月に災害対策基本法を改正し、地域コミュニティにおける住民及び事業者による防災活動に関する地区防災計画制度を創設した。現在、首都直下地震や南海トラフ地震の発生が危惧される中で、このフォーラムでは、地域コミュニティにおける防災力の向上について、有識者(個人・団体)約20組からの発表を行う。</p>		
●主催者 / 地区防災計画学会		

3月14日(土)	開始時間 / 9:30	15
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1		
地域の防災・減災のために民間金融機関・産業界が果たすべき役割		
<p>東北で初めて誕生した広域金融グループとして、東日本大震災後の復旧・復興へどのように取り組んでいるかについて報告する。被災地域の地域金融機関の経営陣を招き、震災発生後の金融支援等復旧・復興への取り組みと課題について意見交換するほか、防災(減災)あるいは復旧・復興支援に資する金融支援や銀行業の枠にとらわれない東北の復興に向けた取り組みについての事例紹介。</p>		
●主催者 / フィデアホールディングス株式会社		

3月14日(土)	開始時間 / 13:00	15
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1		
「防災・減災・復興への生態系の活用」～3.11の経験を世界へ未来へ～		
<p>サンゴ礁、湿原、森林等の生態系を活用した防災・減災・復興は長期的に見て経済的で、地域の暮らしと調和した持続可能な災害対策として知られているが十分に活用されていない。本イベントでは、国内外の講演者を招き、その活用に向けて、国際的な議論、国内外の事例やその意義や効果を共有し、今後の活用の可能性について議論する。</p>		
●主催者 / 環境省、国連大学、国際自然保護連合		

3月14日(土)	開始時間 / 17:45	15
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1		
ワールド・ユース・フォーラム ～世界の青年と考えよう、身近な防災～		
<p>本フォーラムは、内閣府が行う青年国際交流事業の1つであるグローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」に参加した日本を含む世界11カ国の青年が日本の防災や復興に向けた取り組みから学んだことや各国で取り組まれている身近な防災の取り組みを紹介するとともに、防災のために青年が果たすべき社会的役割についての認識を深め、その成果の発表を行う。</p>		
●主催者 / 内閣府青年交流担当		

3月14日(土)	開始時間 / 9:30	16
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2		
環境情報・災害のビッグデータを用いたレジリエントな国土への再デザインを探る		
<p>自然災害リスクの増大が懸念されている中でレジリエンス性を高めるためには、自然の摂理を理解し、社会情勢の変化を踏まえた社会・国土の緩和策と適応策を提示する必要がある。本イベントでは、東日本大震災に加え、国内外での自然災害によるレジリエンス喪失の事例と、収集・蓄積しつつある大規模環境情報を活用による、レジリエントな国土デザインの実現に向けた検討事例を紹介する。</p>		
●主催者 / 名古屋大学		

3月14日(土) 開始時間 / 13:45 16

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2

建築に非常通信 (BECS) フォーラム

非常時の通信手段の確保が、速やかな初動の確保や減災に繋がるものと考えられるが、非常通信の整備や運用において業務ビル内で使いづらいなどの課題解決策を専門横断「建築に非常通信フォーラム」で取り組み具体化した。非常時の企業内通信、企業間通信を公衆網に頼らない非常通信を用いることで、輻輳を回避しつつ初動を確保し、減災に寄与することが目標である。

●主催者 / 事業継続対策コンソーシアム

3月14日(土) 開始時間 / 9:30 17

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3

復興ボランティア学ワークショップ

このワークショップは、東日本大震災の復興支援活動を「知る事」を通して、復興や地域防災について考える場である。

「復興ボランティア学」は、石巻専修大学が復興の先進事例を学ぶために支援活動のリーダーを招いて実施している講座である。

今回のワークショップでは「復興ボランティア学」の講演録を少人数のグループで読んで、その情報を元に対話をし、復興や防災に貢献できる行動を考える。

●主催者 / 石巻専修大学

3月14日(土) 開始時間 / 14:00 17

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3

**子どもと養育者のための心理社会的ケア
～子どもにやさしい災害時の支援を考える～**

国際子ども支援NGOセーブ・ザ・チルドレンは、緊急時に子どもや養育者の視点に立った支援を世界で展開し、ストレスを抱えた子どもや養育者に対して誰もができる心理社会的ケア「子どものためのサイコロジカル・ファーストエイド(子どものためのPFA)」を開発・普及している。同イベントでは、子どものためのPFAの概要とその重要性を東日本大震災および海外での緊急支援の実践事例と共に紹介していく。

●主催者 / 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

3月14日(土) 開始時間 / 17:00 17

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3

**東日本大震災の教訓を漫画で学ぼう!
～子どもが考え、行動できる防災へ～**

国際子ども支援NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、子どもの命が守られ、子どもが主体的に防災に参加することを目指して、被災者へのインタビューをもとに防災教育教材を開発した。宮城県東松島市の小中学校やアジアの国々におけるこれらの防災教育教材を用いた防災教育の実践事例を紹介し、国内だけでなく海外に向けても東日本大震災の教訓を発信する。

●主催者 / 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

3月14日(土) 開始時間 / 17:30 18

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 5

**原子力防災と自治体の役割
～その教訓と課題～**

福島原発事故の教訓を踏まえ、今後の世界の防災戦略を立てる際、原子力災害への対応を考えることは不可欠である。現在、日本では原発から30キロ以内の自治体に対して避難計画の策定が義務づけられているが、今回の震災でその被害は30キロにとどまらなかった。住民の生命・財産を守る責務を持つ首長という観点から、自治体の教訓と課題を明らかにし、今後取り組むべきことを提示する。

●主催者 / 脱原発をめざす首長会議

3月14日(土) 開始時間 / 10:00 19

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 6

**第5回防災コンテスト表彰式と地域防災
活動シンポジウム**

防災科学技術研究所では、地域主導の防災活動を支援する取り組みとして、「防災コンテスト(e防災マップ・防災ラジオドラマ)」(後援:内閣府、文部科学省)を開催している。当イベントでは、第5回防災コンテストの優れた地域防災の活動事例を表彰するほか、防災コンテスト参加者と一般参加者、審査委員が一体となり、今後の地域防災活動のあり方に関する意見交換および交流を行う。

●主催者 / 独立行政法人 防災科学技術研究所

3月14日(土)	開始時間 / 10:00	20
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール7		
大規模災害被災地への長期メンタルヘルス支援		
<p>東日本大震災から3年半が経過し、複合的な喪失体験と生活再建不安を持つ被災地住民へのメンタルヘルスケアは益々重要となっているが、震災以前からの支援専門家不足は解消されていない。本シンポジウムでは、これまでのメンタルヘルス支援を振り返り、これから各世代に発生しうる課題およびそれらに必要とされる長期支援システムや人的資源の育成について学際的な討論を行う。</p>		
●主催者 / 特定非営利活動法人 心の架け橋いわて		

3月14日(土)	開始時間 / 17:40	20
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール7		
3.11 ドキュメンタリー映画上映会 「逃げ遅れる人々」 東日本大震災と障害者		
<p>東日本大震災、未曾有の大災害の中、障害を持つ人々に何が起こったのか、福島を中心に被災した障害者とそこに関わる人々の証言をまとめたドキュメンタリー映画「逃げ遅れる人々」の上映を通して、東日本大震災における障害による不利益、原発事故による不安を今後の課題として提案していく。</p>		
●主催者 / CILたすけっと、東北関東大震災障害者救援本部		

3月14日(土)	開始時間 / 10:00	27
仙台市情報・産業プラザ (AER内) 多目的ホール (5階)		
震災から企業が立ち上がるために～被災3県における支援機関の活動を振り返りながら～		
<p>大災害を経験した産業支援機関として、何が企業経営の存続に必要なかを実体験から伝える。支援活動を振り返りながら、今回の経験からの課題について共通認識を図り、解決に向けた議論を深めるとともに、業務継続に向け、地域企業が産業支援機関と共に取り組んだことによる成果事例を国内外に向けて発信する。また、復興に向けた取り組みや成果等についてパネルや記録誌などによる展示を併せて行う。</p>		
●主催者 / 仙台市、公益財団法人仙台市産業振興事業団		

3月14日(土)	開始時間 / 14:00	27
仙台市情報・産業プラザ (AER内) 多目的ホール (5階)		
震災復興における起業家の果たす役割		
<p>復興に起業家はどのような役割を果たし、今後果たさなければならぬか。「復旧」から「復興」へと変化していく中、大手企業の支援事例、被災地における起業、起業に基づく社会問題解決など、災害後の行動をNPO視点ではなく、経済、企業、起業という視点で捉える。阪神・淡路大震災が「NPO元年」ならば、東日本大震災は「起業家のイノベーション元年」と位置付け、その中心が仙台であることを発信する。</p>		
●主催者 / 仙台市(地域産業支援課)		

3月14日(土)	開始時間 / 10:00	28
仙台市情報・産業プラザ (AER内) セミナールーム (2) (6階)		
石巻医療圏における東日本大震災への対応と次への備えと自動ラップ式トイレのご紹介		
<p>東日本大震災で最大の犠牲者を出した石巻市は行政や医療機関もマヒし、石巻医療圏22万人の命は宮城県災害医療コーディネーターである石井氏に託された。かつてない大災害で「石巻圏合同救護チーム」を指揮し、医療崩壊を救った。その様子と次への備えについての講演。この活動に協力した日本セイフティーによる自動ラップ式トイレの紹介も実施。</p>		
●主催者 / 日本セイフティー株式会社		

3月14日(土)	開始時間 / 13:30	28
仙台市情報・産業プラザ (AER内) セミナールーム (2) (6階)		
企業連携による災害支援の最前線 ～災害予防、支援、復興をセクターと国境を越えて実現するイノベーション		
<p>災害への企業参加を効果的にするため、日本で官民連携で生まれた災害支援連携型プラットフォームが、今日アジア5カ国に展開をしている。その効果は、国内災害のみならず、国際間「相互支援」にも効果を発揮する。イベントでは①企業、NGO、行政が連携して防災・災害支援・復興支援をシームレスに行う好事例の紹介、②同連携が機能するためのメカニズムやその可能性について参加者と共に考える。</p>		
●主催者 / アジアパシフィックアライアンス		

3月14日(土) 開始時間 / 17:30 28

仙台市情報・産業プラザ (AER内) セミナールーム (2) (6階)

東日本大震災からの復興と生活再建のための看護系学会の活動

東日本大震災からの復興と生活再建のために、日本の看護系学会はどのような活動を行ってきたのか、本協議会に所属する看護系学会の活動を報告し、災害看護の知を共有するとともに、中長期にわたる災害支援活動の課題を看護の視点から整理する。

●主催者 / 日本看護系学会協議会

3月14日(土) 開始時間 / 9:30 29

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール A (21階)

環太平洋地域の津波災害痕跡・経験と知恵の継承

このフォーラムでは、環太平洋地域の先史・歴史津波による災害の教訓に焦点を当て、新たな知恵を世界に発信し、防災に役立てる。そのために、皆で共有すべき二つの道を提唱する。一つは、津波のメカニズムと社会へ与えたダメージを、さまざまな研究分野の成果を総合化して解き明かすことである。もう一つは、地域に伝わる事柄や東日本大震災のような経験を次世代に語り継ぐことである。

●主催者 / 仙台市(文化財課)

3月14日(土) 開始時間 / 14:00 30

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール B (21階)

地震保険フォーラム「大震災の後に…」～見て、聴いて、話して、大震災後も続く生活について考えよう!～

前半は、被災地の子どもたちを沖縄に招待する活動などを行っているモデルの知花くららさんに、実際に被災地を巡った際に感じた被災者の声などを伝えていただくとともに、東北大学の学生達が住宅修繕などのボランティア活動を通じて感じたことなどを発表する。後半は、生活再建に不可欠な経済的備え(地震保険など)について、寸劇やクイズなどを交え、来場者の皆さんと楽しく考える。

●主催者 / 一般社団法人日本損害保険協会

3月14日(土) 開始時間 / 9:30 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30階)

産学連携による最新の Virtual Reality 技術を活用した震災3Dアーカイブと防災教育

Canon-MJ/東北大学/ISID、産学連携による震災記録を収集する意義と重要性について。また最新のVR (Virtual Reality) 技術、MR (Mixed Reality) を活用した取り組みとその仕組みのご紹介。

●主催者 / キヤノンマーケティングジャパン、東北大学、電通国際情報サービス

3月14日(土) 開始時間 / 14:00 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30階)

**フューチャーセッション
「レジリエンスの未来」 in 仙台**

「災害などによる避けようのない大きなダメージを受けても、それを乗り越え、創造的にしなやかに立ち上がっていく事ができる社会」について参加者全員で対話し、必要な取り組みを生み出していく参加型フォーラムである。

復興に取り組む東北の方々との対話と結びつきで、実践的で前向きな、世界に示すことのできる取り組みと協調アクションをこの場から巻き起こしていきたいと考えている。

●主催者 / 大成建設株式会社

3月14日(土) 開始時間 / 10:00 32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30階)

**東北青年復興フォーラム
防災・復興における「青年力」**

防災・復興を進める上で「青年が地域に根ざしていない」という課題がある。「東北青年復興フォーラム」では、防災・復興に取り組む青年の活動報告とパネルディスカッションを通し、「青年の力を地域で発揮していくための方途」を探っていきたい。「創価学会東北青年平和会議」「がんばろう! 石巻の会」「pensea」(気仙沼)が共催。他にも岩手、福島、兵庫の団体等が参加予定。

●主催者 / 創価学会東北青年平和会議

3月14日(土)	開始時間 / 13:00	32
AER TKP ガーデンシティ仙台 ホールD (30階)		
世界と日本の防災政策 ー津波や地震など大災害への備え		
<p>南海トラフや首都直下などの津波・地震、その他の大災害に備えるため、政策研究大学院大学の研究成果を中心に世界各地の災害や東日本大震災などの教訓も踏まえ、効果的な防災対策を探るための国際シンポジウムを国連の協力を得て開催する。また、国内国際向けの防災プログラムで学ぶ学生の研究成果を発表し合う場を設け、将来の防災政策を担う日本と世界の若い優秀な人材の交流を図る。</p>		
●主催者 / 政策研究大学院大学		

3月14日(土)	開始時間 / 13:00	33
仙台市シルバーセンター 交流ホール		
災害ボランティアフォーラム		
<p>東日本大震災において各地に設置された災害ボランティアセンターと全国各地・海外から被災地に集結した災害ボランティアが、それぞれどのような役割を担い、被災者・被災地に関わり、何をもたらしたのか、検証、評価を行うとともに、災害ボランティアを効果的に活かすための視点や手法について考え、今後の災害に向けた提案を行う。</p>		
●主催者 / 仙台市(社会課)、仙台市社会福祉協議会		

3月14日(土)	開始時間 / 10:00	34
仙台市シルバーセンター 第一研修室		
U-18 世界防災会議		
<p>仙台市内および東京、徳島の高校生と、関連する世界各国の高校生が一堂に会し、第一部では①被災時の経験、②その後の国際交流、③世界への提言を発表した上で、第二部ではワークショップ形式で国内外の高校生がグループを組んで討論する(13:00～)。 なおこれに先立ち、午前中(10:00～)は高校生の簡易トイレのデモンストレーションや仮設カスタマイズお助け隊の展示説明を行う。</p>		
●主催者 / 東北大学教育学研究科、仙台八木山防災連絡会		

3月14日(土)	開始時間 / 17:20	34
仙台市シルバーセンター 第一研修室		
東日本大震災における復興祈念公園を考えるシンポジウム		
<p>東日本大震災から4年、多くの被災地で犠牲者への追悼と鎮魂、記憶と教訓の伝承等の場となる復興記念公園が計画されており、特に甚大な被害を受けた宮城県石巻市と岩手県陸前高田市では、国営追悼・祈念施設(仮称)を含む復興祈念公園の計画が検討されている。このような中で、東日本大震災における復興祈念公園のあり方を多様な視点から議論する。</p>		
●主催者 / 国土交通省東北地方整備局		

3月14日(土)	開始時間 / 10:00	35
仙台市シルバーセンター 第二研修室		
東日本大震災における都市ガス復旧・復興の歩みシンポジウム		
<p>東日本大震災における都市ガス復旧・復興の歩み、津波・地震対策等、震災の教訓を継承し、災害対策に活かしてもらうとともに、都市ガスと都市ガス事業者の取り組みをPRする。 津波・地震による被害や都市ガス供給再開までの復旧活動、津波・地震対策、大規模災害時の事業者の連携と災害対策の方向性等について講演する。パネルディスカッションでは震災当時の対応や災害対策のあり方などの意見交換を行う。</p>		
●主催者 / 仙台市(ガス局経営企画課)		

3月14日(土)	開始時間 / 14:00	35
仙台市シルバーセンター 第二研修室		
巨大地震が海の生態系に何をしたか?ー現場の経験と科学調査の連携で進める災害復興への道ー		
<p>TEAMS(東北マリンサイエンス拠点形成事業)では、東日本大震災により壊滅の状態となった東北地方太平洋沿岸の漁業復興を目指して、海洋環境、海洋生態系の被災状況とその変化過程を科学的に明らかにしてきた。そこから得られた成果を基に、漁業および漁業関連産業の復興の方向性、道筋をとらえ、地方自治体、漁業関係団体、漁業者、一般市民に説明、提言する。</p>		
●主催者 / 東北マリンサイエンス拠点形成事業(東北大学大学院農学研究科)		

3月14日(土) 開始時間 / 9:30  36

東北大学川内北キャンパス マルチメディアホール

レジリエントな社会構築と防災教育・地域防災力の向上を目指して

第一部では阪神淡路大震災以降、大災害の教訓を踏まえ発展した日本の防災教育の20年を振り返り、東日本大震災や世界の大震災被災地における学校防災の取り組み事例を紹介する。第二部では、防災教育チャレンジプランをはじめとする地域における防災教育の優秀事例などを紹介する。第三部では、ポストHFAの国際枠組における防災教育・地域防災の向上に向けた今後の取り組みの方向性を議論する。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所、一般社団法人防災教育普及協会、国連防災世界会議防災のための教育日本連絡会、内閣府、文部科学省

3月14日(日) 開始時間 / 13:00  39

東北大学川内北キャンパス A205

災害時のモバイル通信：実際に何が起きるか

GSMA Disaster Response along with EMI host a workshop at WCDRR with mobile operators who have experienced recent major disasters and humanitarian organisations. The workshop will draw upon a series of upcoming case studies where GSMA DR and EMI examine the technical resilience of mobile operators globally.

●主催者 / GSMA Disaster Response

3月14日(土) 開始時間 / 13:00  41

東北大学川内北キャンパス B102

災害と人権

Both natural and technological disasters tend to proliferate but the human rights approach remains very weak. The event expects to take into account human rights in disaster management as a factor of resilience. It will be a demonstration of the international and national human rights law in disaster situation before, during and after the disaster.

●主催者 / Centre International de Droit Comparé de la Environnement (CIDCE), International centre of comparative environmental law

3月14日(土) 開始時間 / 13:30  42

東北大学川内北キャンパス B103

防災に関するポスト2015 枠組に避難民問題を組み込む

This side event will discuss examples, opportunities and challenges for including human mobility (forced displacement, voluntary migration and planned relocation), within national, regional and international disaster risk reduction plans and frameworks. It will showcase the experiences of affected countries with respect to dealing with human mobility in the context of slow/sudden onset disasters.

●主催者 / The Nansen Initiative

3月14日(土) 開始時間 / 13:00  43

東北大学川内北キャンパス B104

Strengthening Disaster Recovery Systems for Resilience

Experiences from post-disaster recovery interventions have had mixed levels of success. While governments have implemented large-scale recovery and reconstruction programs in the wake of certain disasters, success hinges upon the availability of and access to skills and resources from a remarkably diverse community of stakeholders. Resilient recovery is an imperative for sustainable development. To maintain a path towards sustainability, recovery programs need predictable and consistent technical and financial resource commitments towards recovery planning, implementation and performance management. Additionally, at national levels, governments must be able to develop recovery policies, frameworks, and enabling mechanisms on a consistent basis. The path towards sustainability is often initiated during the post-disaster assessment phase and ensured through the development of recovery frameworks, which help to coordinate recovery and reconstruction policy, planning, finance and management. However, as instances and impacts of disasters continue to rise, governments have started to strengthen systems for recovery before a disaster strikes. By strengthening recovery systems, including capacities for post-disaster assessments and recovery planning, countries and stakeholders will be able to maintain continuity from relief to reconstruction across a spectrum of possible post-disaster activities. Prior efforts increase the chance for recovery to be implemented in an efficient and effective manner that avoids negative consequences, such as vulnerable groups sliding below poverty lines, depression of economic and social development, and an increase in disaster risks. This session will bring together national governments, technical experts, international recovery and reconstruction actors, the European Union, the United Nations Development Program, and the World Bank to discuss how the launch of the PDNA guide, Disaster Recovery Framework Guide, and Resilient Recovery: An Imperative for Sustainable Development can strengthen recovery systems before, during, and after a disaster and define a path towards sustainable development.

●主催者 / World Bank - GFDRR

3月14日(土) 開始時間 / 16:30  43

東北大学川内北キャンパス B104

Enhancing Resilience of Small Island States

Climate and disaster risks can cripple the economies of small island states and compound level of their debt. These small countries are also faced with a large number (25+) of new and existing climate and disaster resilience funds straining the limited capacities in these island nations. The event will explore how to achieve enhanced resilience to climate and disaster risk and reduce the fragmentation of the financial landscape in Small Island States. Recent analysis shows that the poorest countries have more funds per capita for climate and disaster resilience than low-middle countries or those with smaller amounts of grants. Middle income countries, mostly in the Caribbean, have limited access to grant or concessional credit financing envelopes, and further borrowing would risk increasing levels of debt. Addressing the access and distributional issues, improving donor coordination, securing sufficient funding for scaled-up, programmatic and sustained effort tailored for the needs of different countries are some obstacle that need to be addressed.

●主催者 / World Bank - GFDRR

3月14日(土) 開始時間/13:00 E 44

東北大学川内北キャンパス B200

欧州での洪水—新たなリスクとレジリエンス構築のための戦略

The session focuses on recent flood events in Europe and respective lessons learned. Evidence from different European countries is reviewed and recommendations for improved flood risk assessment and management are illustrated. We further reflect on the current debate on flood insurance in Europe, European policies on disaster prevention as well as the Post 2015 framework.

●主催者/ German Committee for Disaster Reduction (Deutsches Komitee Katastrophenvorsorge e.V. (DKKV))

3月14日(土) 開始時間/13:00 E 45

東北大学川内北キャンパス B201

バングラデシュにおけるレジリエンスな都市づくり: 政策と融資に対する統合アプローチ

This Public Seminar will uncover policy intervention and operational actions, particularly since the devastating disaster at Rana Plaza in Dhaka in 2013, to build a greater understanding and framework for action to reduce urban disaster risks in the country. Through the interactions among a panel of diverse actors from across the spectrum of government and development partners, this seminar will draw the lessons for building back better and ensuring a more resilient future for Bangladesh's urbanizing population.

●主催者/ World Bank - GFDRR

3月14日(土) 開始時間/15:30 E 45

東北大学川内北キャンパス B201

アジアレジリエンスフォーラム 2015

The Asia Disaster Resilience Forum 2015 will bring together technologists from the region, engaged in developing civic apps for community based disaster resilience. During the two day forum, panelists will present examples from across Asia followed by a discussion on lessons learnt in developing successful solutions. Demos of these apps will be available to test on both days. On day 2, discussions will focus on future plans for development. In the afternoon, there will be an introductory technical brainstorming and hacking session on newly available datasets such as the Hodoyoshi microsatellite successfully launched by Tokyo University, and others. On day 3, a more in-depth technical workshop on coding this data into applications will be held in Tokyo.

●主催者/ World Bank - GFDRR

3月14日(土) 開始時間/13:30 E 46

東北大学川内北キャンパス C101

民間の社会奉仕事業と地域管理型防災: ポスト兵庫行動枠組 (HFA2) での役割とチャンス

IIRR and Give2Asia, specialists in community-managed DRR and private philanthropy, and their partners from local NGOs, discuss strategies and experiences to easily integrate CMDRR into private philanthropy, including strategies of corporate foundations and individual philanthropists.

●主催者/ The International Institute of Rural Reconstruction & Give2Asia

3月14日(土) 開始時間/13:00 E 50

東北大学川内北キャンパス C200

防災 ICT 技術の活用に向けた国際フォーラム

我が国は、阪神淡路大震災、東日本大震災をはじめ、多くの災害を経験しており、防災分野におけるICTの活用に関する経験、知見を豊富に有している。本セッションでは、こうした我が国の経験、知見を紹介するとともに、ICTの活用を進める国際機関や民間NGOなどのさまざまな立場の方が、防災の取り組みと将来の展望を議論する。

●主催者/ 総務省

3月14日(土) 開始時間/14:00 E 51

東北大学川内北キャンパス C201

震災時のがん医療

東日本大震災の大規模被災県(宮城県と福島県)と隣接県(山形県と新潟県)における中心的な「がん」医療機関である、東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学の4大学から構成される「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」によるシンポジウムである。大震災時に経験したがん医療への反省から、大規模災害時におけるがん医療への支援体制の課題と対策について討論し、提言を行う。

●主催者/ 東北大学大学院医学系研究科地域がん医療推進センター

3月14日(土) 開始時間 / 13:30 52

東北大学川内北キャンパス C202

Model Village をつくりよう ～新しい農業と安心・安全で豊かな農村の姿を目指して～

東日本大震災直後のエネルギー・物資の供給は困難を極めました。この経験を踏まえ、当センターの教育プログラムを受講した復興農学マイスターが、エネルギーおよび食料の自給自足・自立型Model Villageを提案する。震災以後、急速な高齢化と過疎化が進む東北の農村に最先端の技術と人々の知恵を結集し、再び豊かな生活を送りたい。Model Village のあり方を、ワールドカフェ方式により参加者全員で議論する。

●主催者 / 東北大学大学院農学研究所東北復興農学センター

3月14日(土) 開始時間 / 17:00 52

東北大学川内北キャンパス C202

東南アジアにおける近年の大規模水災害から得られた教訓 ～命をいかに守るか～

近年の台風・洪水災害の規模・頻度が増加している。特に、『2011年タイ大洪水』、『2013年ジャカルタ洪水』、『2013年フィリピン台風ハイエン』の被害に代表されるよう東南アジアでの水災害が顕著である。本シンポジウムの目的は、上記代表的な災害の被害拡大要因、問題・共通点等を明らかにし、今後の減災に向けた対策等を世界に提言する事である。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月14日(日) 開始時間 / 14:00 E 53

東北大学川内北キャンパス C205

地域での実践的な災害管理計画を通じて防災を開発に組み込む：インドネシアでのBNPBとJICAの取組から得た教訓

DM Plans must be mainstreamed into regular development plans. This event will give ideas how the Central Government may support Local Government activities effectively, make recognize the importance, and promote Local Government's own continuous efforts. It will also highlight the importance of mainstreaming DRR into regular development processes based on lessons learned or good practices from the experiences.

●主催者 / Badan Nasional Penanggulangan Bencana (Indonesian DM Authority)

3月14日(土) 開始時間 / 13:15 E 55

東北大学川内北キャンパス B202

Implementing a Building Evacuation for Safety Managers and building Owners

Enable building owners and managers to understand the fundamentals of emergency planning for a wide range of threats that impact occupant safety, building protection, and the continuity of operations by evaluating potential threats, building and neighborhood assessments, anticipated responses, as well as private-public stakeholder relationships.

●主催者 / The General Directorate of Civil Defense (Qatar)

3月15日(日) 開始時間 / 12:30 02

仙台市民会館 大ホール

報道シンポジウム「防災・減災と報道～犠牲をなくすために何ができるか」

東日本大震災の2万人近い犠牲は防げなかったのか。それは報道機関にとっても重い問いかけになった。巨大地震や大津波に関する事前の報道姿勢と内容は十分だったかどうか、報道機関はそれぞれに反省を迫られている。新聞、テレビ、ラジオなど地元メディアと全国のメディア関係者が集まり、反省と震災後に始めた新たな取り組みを発表し、専門家を交えて市民公開の場で防災・減災における報道の役割を議論する。

●主催者 / 河北新報社、仙台市

3月15日(日) 開始時間 / 9:30 03

仙台市民会館 小ホール

ジャパン・レジリエンス・アワード表彰式 & 記念シンポジウム

次世代に向けたレジリエンス社会を構築するために全国各地で展開されているレジリエンスに関するさまざまな技術やノウハウを発掘、評価し、表彰するとともに、国内外に向けて紹介する。イベントは、レジリエンスへの理解を深めるための記念シンポジウム、受賞された活動の概要と表彰理由の紹介から構成される。イベントは、レジリエンスへの理解を深めるための記念シンポジウム、受賞された活動の概要と表彰理由の紹介から構成される。

●主催者 / 一般社団法人 レジリエンスジャパン推進協議会

3月15日(日) 開始時間 / 14:20 03

仙台市民会館 小ホール

東日本大震災の災害廃棄物処理における課題の整理と解決に向けた提言—レジリエンス社会実現のために

東日本大震災の復旧活動において、仙台環境開発株式会社は、産業廃棄物処理業者のノウハウを生かした効果的な復旧活動を実施することができた。一方、公益財団法人国際平和機構は福島原発事故の影響を懸念し、発災後直ちにチェルノブイリ原発事故現場の視察とその関係者からの聞き取り調査を行った。大震災から4年経過した現在、今一度、復旧活動における課題を整理し、その解決策を提案する。

●主催者 / 仙台環境開発株式会社、公益財団法人国際平和機構

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 04

仙台市民会館 第1会議室

被災からの早期復旧へ向けた高速な災害廃棄物量推定

本イベントでは、災害後に取得可能な情報である空撮画像を活用し、被災地の被害状況をリモートセンシングにより把握し、災害廃棄物量の測定を行う研究について紹介し、その可能性と課題について議論する。また、推定の結果に基づく有効な災害廃棄物輸送計画について論ずる。

●主催者 / 東北大学大学院環境科学研究科廃棄物資源循環複合新領域研究寄附講座(仙台環境開発株式会社)

3月15日(日) 開始時間 / 12:15 04

仙台市民会館 第1会議室

「縁側で『こんにちは』プロジェクト—共有・共感・共生空間の創生—について

東北大学の教員と学生が行っている「縁側で『こんにちは』」プロジェクトについて口頭による発表を行う。このプロジェクトが何を指し何を行ってきたのか、行政とどのような連携を行ってきたのかについて、取り組み責任者や学生ボランティアが口頭でプレゼンテーションを行う。それを通して、一般市民が「防災・復興のまちづくり」に関わっていく一つの方法を提示したいと考える。

●主催者 / 東北大学大学院文学研究科

3月15日(日) 開始時間 / 15:00 04

仙台市民会館 第1会議室

電波科学による防災・減災と地方自治体との連携

レーダー技術は衛星、航空機、あるいは地表で遠隔地をモニタリングする技術である。本会議ではレーダーで得られた防災・減災のための情報を地方自治体に提供する仕組みについて東北大学が実践してきた事例を通じて考察する。地滑りや火山活動に伴う地殻変動などの計測ならびに、震災復興に伴う遺跡調査や津波被災者捜索への利用について宮城県、福島県、岩手県での活動を紹介し、その利用を展望する。

●主催者 / 東北大学東北アジア研究センター

3月15日(日) 開始時間 / 18:00 04

仙台市民会館 第1会議室

気候変動による大規模自然災害～ビッグデータの活用によるリスクコミュニケーションへの展開～

気候変動による極端な異常現象は、年々増加の傾向であり、大規模な自然災害を引き起こす原因とされている。気候変動のビッグデータの有効な活用は、研究だけでなく、住民や行政、メディアとの円滑な情報交流を生み出し、災害に対して自ら対処できる基盤となる。本ワークショップでは、気候変動によるBig Dataの活用と解析方法からリスクコミュニケーションへの展開について議論する。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月15日(日) 開始時間 / 15:30 05

仙台市民会館 第2会議室

ILO 公開セミナー、「暮らしと雇用の復興：日本、ニュージーランド、フィリピンからの教訓」

自然災害を生き延び、さらに生き続け、未来を創るために必要不可欠な「仕事」。本セミナーでは、日本・ニュージーランド・フィリピンなどの被災地における復興の取り組みを「仕事」の観点から考える。台風30号に襲われたフィリピンでの雇用創出。東日本大震災後の仕事を守る取り組み。震災後のニュージーランドの復興に向けたビジネス界の貢献等について、それぞれの現場で支援活動に携わった専門家が報告する。自然災害の被災から人々の暮らしを取り戻す取り組みについて、国際的な視点から考える。

●主催者 / 国際労働機関

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 **E** 06

仙台市民会館 第3会議室

Policy Dialogue on Sustainability Issues in Disaster Risk Management - Recent Advances

NIDM joins UNEP (Disaster Management Branch, Geneva) and Kyoto University, Japan, so as to deliberate and offer critical recommendations to strengthen sustainability concerns into HFA-2 regime strategies for DRR to be adopted during 3rd WCDRR.

●主催者 / National Institute of Disaster Management (Ministry of Home Affairs, Govt. of India)

3月15日(日) 開始時間 / 15:00 **E** 06

仙台市民会館 第3会議室

宗教理念に基づいた視点からの地域密着型防災—ベストプラクティスの共有

ACT Alliance is a faith-based network that has been involved in DRR work for a decade. Best practices of this work which include mainstreaming of DRR into development, DRR with climate change adaptation embedded, DRR Policy engagement with the Governments, DRR that leverages local knowledge and experiences etc. will be presented along with other FBO networks.

●主催者 / ACT Alliance

3月15日(日) 開始時間 / 12:00 07

仙台市民会館 第5会議室

防災セミナー「スマトラ沖地震津波より10年を経て—日本とインドネシアに於ける災害文化交流の推進—」

インドネシアの災害文化を紹介しつつ、日本の文化である紙芝居を媒体とした防災セミナーを行う。このプログラムはスマトラ沖地震津波発生から10年の節目に、インドネシアと日本において文化と防災を軸とした両国の交流を進めつつ、防災意識の向上および定着を図ることを目的に実施する。

●主催者 / 立教大学アジア地域研究所

3月15日(日) 開始時間 / 15:00 07

仙台市民会館 第5会議室

**ココから世界へ
～被災地女性の声を届ける～**

阪神・東北被災地域の女性団体や住民との共同で、東日本大震災での体験・教訓・提言を伝えるシンポジウムを開催する。阪神・淡路大震災との比較を通して、女性の立場から問題提起し、国際防災戦略のあり方を考える。

●主催者 / トモニプロジェクト

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 08

仙台市民会館 第6会議室

提言!自分たちで出すみらいへの宿題 -3.11 後の日本を描こう-

3.11では、想定外の大災害に見舞われた。ハード面に偏った防災対策では防ぐことができなかった。この経験を次の時代にどのように活かせばよいかについて具体的な政策や事業として若者の視点でアイデアを提言する。提言された内容は実業家や政治家からのコメントをもらう予定である。提言者は仙台の会場に来ることができなくてもネットにつなぐことで参加できるようにする。

●主催者 / ぶろじえくと東北

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 09

仙台市民会館 第7会議室

絵本を活用した幼児期対象の防災減災教育の実践

幼児期を対象とした防災減災教育のツールとして減災絵本「リオン」を作製した当会では、各所で読み聞かせ活動を実践している。今、評判となっている被災地から発信されたこの絵本に込められた製作者の想いや過程、読み聞かせ活動の中で見えてきた課題なども共有する。子どもを中心に防災減災意識の向上を図る事例として、世界に発信、紹介したい。

●主催者 / 特定非営利活動法人防災士会みやぎ

3月15日(日)	開始時間 / 12:20	09
仙台市民会館 第7会議室		
水の循環から学ぶ防災対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・3.11震災時の水遣いについての実態を把握するため、仙台市内や南三陸町の住民に実施したアンケート調査や聞き取り調査の結果報告。 ・天水桶など、雨水活用事例の紹介と報告。 ・事例報告やアンケート結果も踏まえた、これからの雨水・湧水などの地産水(その地区にて確保可能な水)の利活用並びに育水についての提案。 		
●主催者 / 雨水ネットワーク東北		

3月15日(水)	開始時間 / 15:00	E 09
仙台市民会館 第7会議室		
教訓について学んだ教訓 気候変動下での防災に関して学ぶ		
<p>Over the last years various studies of hazards and disasters were undertaken and they contained direct or indirect references to lessons that had previously been identified but that have not yet been implemented. In this event it will be questioned why similar lessons tend to reappear in present disasters.</p>		
●主催者 / USAID, OFDA, Consortium for Capacity Building (CCB)		

3月15日(日)	開始時間 / 10:00	10
せんだいメディアテーク スタジオシアター		
ABUグローバルニュースフォーラム		
<p>世界の放送局の報道幹部やジャーナリストが集まって、災害報道の強化、向上のための各国の取り組みについて最新の動向や技術について情報交換をするとともに、災害報道についてさまざまな立場から意見交換を行う。</p>		
●主催者 / アジア太平洋放送連合、NHK		

3月15日(日)	開始時間 / 10:00	11
東京エレクトロンホール宮城 大ホール		
東北大学復興シンポジウム 東北大学からのメッセージ ～震災の教訓を未来に紡ぐ～		
<p>これまで東北大学が行ってきた震災復興の取り組みを紹介。 「大震災と減災対策」、「産業と暮らし」、「人と医療」のテーマでパネルディスカッションを予定。また震災当時、甚大な被害を受けた石巻で救護チームの指揮を執った医師、今後起こりうる巨大地震を引き起こすメカニズムの解明に取り組む研究者らによる講演を行い、未来に向けてメッセージを発する。</p>		
●主催者 / 東北大学 災害復興新生研究機構		

3月15日(日)	開始時間 / 9:30	12
東京エレクトロンホール宮城 401 中会議室		
次世代リーダを育てる ～3.11の経験を伝える		
<p>コミュニティ復興研究者のD.Aldrichによる講演の後、高校生が小グループで話し合い、自分たちにできる実践について発表する。一般来場者の傍聴を歓迎する。</p>		
●主催者 / 宮城学院女子大学		

3月15日(日)	開始時間 / 13:30	12
東京エレクトロンホール宮城 401 中会議室		
被災者の心を支えるために～東日本大震災のこれまで、そして今後の災害に備えて～		
<p>心理社会的アプローチによる心のケアは、支援に関わる人々が、人や地域とのつながりを大切にする中で被災者の回復力を引き出すことを目的とする手法である。フォーラムでは、災害支援の国際的な専門家ユニ・クリシュナンが心理社会的支援について基調講演を行い、その後、東日本大震災支援での事例を交えながら、被災者の尊厳を大切にする心のケア支援のあり方を考える。</p>		
●主催者 / ケア宮城、公益財団法人プラン・ジャパン		

3月15日(日) 開始時間 / 9:15  13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

**日本の災害への強さ
—世界とその秘訣と挑戦に迫る—**

日本の近代防災は関東大震災に始まる。日本は将来に向け、震災復興への挑戦が不可欠である。本会は、世界の将来に役立つ日本の災害への強さの秘訣と教訓(第1部)、防災の将来に役立つ日本の挑戦とイノベーション(第2部)により、知の国際交流を行い、世界に貢献する日本の教訓とイノベーションを発信する。

●主催者 / 一般財団法人アジア太平洋 日英 知の国際交流センター

3月15日(日) 開始時間 / 10:00 14

東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室

世界とつながり、変わるわが町、わが地域

途上国の人々との出会いを通じて広い世界とつながること、異文化交流の難しさ、その先に見えてきた自らの新しい価値とは。JICA研修を受け入れたことで地域に起きている変化や未来の展望について。

●主催者 / 独立行政法人国際協力機構東北支部(JICA東北)

3月15日(日) 開始時間 / 12:30 14

東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室

東北・若手企業家発 アジアとの協働による新しい社会モデルを目指して!

東北で生まれ育ち、震災を乗り越えた技術やビジネスモデルが今、地域貢献を超えて世界の課題に挑もうとしている。東北から世界に羽ばたくNPOや中小企業の新しい社会活動の姿について。

●主催者 / 独立行政法人国際協力機構東北支部(JICA東北)

3月15日(日) 開始時間 / 15:00 14

東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室

**『復興×地域おこし×国際』
～つながりを運ぶ人～**

東日本大震災および中越等他の被災地の復興の現場で活躍する外部支援者の視点から「復興支援アプローチの経験や教訓」を整理するとともに、これからの復興や地域活性化の現場にどう活かすかについても議論を深める。また、これら国内外の復興支援や地域活性化の現場を経験し、これからの持続可能な復興と地域活性化に資する人材の重要性や可能性について発信する。

●主催者 / 独立行政法人国際協力機構東北支部(JICA東北)

3月15日(日) 開始時間 / 9:15  15

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

**実践 防災とコミュニティ 「救われる生命」
アジアと東日本の大規模災害から今伝えたい事**

アジアは、幾度となく大規模災害に見舞われている。共通の重要課題は、「どのようにして多くの命を救えたか。」「どのような方法が、社会の復興や人々の生活再建に有効であったか。」「行政・住民・支援者の役割と効果」ではないだろうか。この成功例と課題解決の実践をディスカッションし、災害に強いコミュニティ創造と防災技術のスキルアップへ、そして東日本とASEANのさらなる協働へと繋げて行く。

●主催者 / 特定非営利活動法人遠野まごころネット

3月15日(日) 開始時間 / 13:00  15

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

アジア防災会議2015 -アジアにおける兵庫優先行動枠組(HFA)の実施成果の確認とポストHFAの核となる行動の特定-

アジア各国の防災能力の向上および防災ネットワークの充実・強化を図るため、日本政府および国連国際防災戦略事務局(UNISDR)との共催により、アジア地域で活躍する防災関係者のみならず、その他地域の防災関係者や一般参加者に対し、アジア各国の防災への取り組みや防災優良事例、災害が頻発するアジア地域における防災協力等について幅広く紹介する。

●主催者 / アジア防災センター(ADRC)

3月15日(日) 開始時間 / 17:30 15

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

脆弱性の高い多様な受益者による防災主流化の取組み

東日本大震災被災地のコミュニティ崩壊危機は、一方で少子高齢化が進む地方自治体の最重要課題である。多様性を認めジェンダー視点に立つみやぎジョネットの被災地支援は「脆弱性の高い受益者」がエンパワメントされて支援側に廻り小規模コミュニティの維持、地域包括ケア機能の構築に寄与するものである。防災主流化を切口に市民自らの手による地域包括ケアを狙う松阪市との協働の取組みについて話す。

●主催者 / みやぎジョネット、松阪市

3月15日(日) 開始時間 / 9:30 E 16

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2

防災に関する学際的教育：学際教育的進展のための国際ネットワーク (INATE) の立ち上げ

Locally based solution oriented education promoting multi-stakeholder participation is a key to address increasing disaster risks in an efficient and sustainable manner. The session will discuss experiences, propose a framework and launch a network of international Network for Advancing Trans-disciplinary Education (INATE), and to promote Trans-disciplinary Education for Disaster Risk Reduction (TeDrr).

●主催者 / United Nations University, Institute for the Advanced Study of Sustainability (Tokyo)

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 E 16

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2

防災のための統合的な水循環管理

Both urbanization and climate change increase urban flood risk throughout the world. This session explores sustainable approaches of urban water management for disaster reduction and amenity through water cycle stability. The session compares experiences from different countries to understand the balance between centralized and decentralized (on-site) measures and the importance of community participation.

●主催者 / United Nations University, Institute for the Advanced study of Sustainability (Tokyo) and UNESCO IHE

3月15日(日) 開始時間 / 17:30 16

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2

災害対応時における支援者へのメンタルケアの必要性とその課題

復興を担う現地民間団体の役割が益々大きくなる中、職員等は日々の活動に追われ、自身のメンタルヘルスに課題を抱える場合も多い。これは休職・離職理由の一つとなり、復興の担い手が失われるという大きな課題となっている。これに対応すべく、日本NPOセンターと日本YMCA同盟が臨床心理学博士の中谷三保子氏と共に実施してきたメンタルケアプログラムを紹介し、その必要性と課題について公開議論を行う。

●主催者 / 特定非営利活動法人日本NPOセンター、公益財団法人日本YMCA同盟

3月15日(日) 開始時間 / 10:00 17

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3

私たちが伝えたいこと

- (1) 尚綱学院大学生による復興支援活動報告
- (2) 「3.11大震災後に取り組む活動」相馬高校放送局震災後制作番組放送
- (3) 「原発事故が保育園・幼稚園児に及ぼした影響とその軽減の取り組み」東日本大震災後の福島県下現地調査からの報告
- (4) 認定NPO法人JKSK女性の活力を社会の活力に主催「結結プロジェクト」および「東北の美しい未来創造塾」活動報告
- (5) 吉野作造記念館による講演会

●主催者 / 大震災と向き合うために・未来の地域づくり人材育成ネットワーク

3月15日(日) 開始時間 / 9:20 18

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 5

災害急性期に被災地域内で情報支援を行う専門チームのワークショップ

災害急性期に情報支援を行う専門チーム「IT Disaster Assistance Response Team (IT DART)」は、現在本格稼働に向けた活動シミュレーションおよび人材育成プログラムの開発を行っている。この会合では、東日本大震災以降の活動経験を共有した上で、情報支援に必要な機能についてアンカンファレンスでの検討を行い、行動計画と提言を作成する。

●主催者 / 情報支援レスキュー隊(IT DART)

3月15日(日) 開始時間 / 13:20 18

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール5

**「災害時の情報行動共通ルール作成」
ワークショップ**

災害発生時から復旧・復興過程における行動モデルの具体化、情報支援共通ルールの抽出を、アンカンファレンス形式ワークショップで実施する。時間の経過により風化が進む防災意識のなかで、継続的情報発信の仕組みを維持する取り組みが必要となる。東日本大震災から最近の災害迄の教訓・ベストプラクティスの共有、風化防止策を討議し、情報支援の行動計画と共通ルール案を策定・提言する。

●主催者 / 情報支援プロボノ・プラットフォーム

3月15日(日) 開始時間 / 10:00 19

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール6

多文化防災フォーラム～外国人市民と一緒に地域防災を考えよう～

国連防災世界会議の開催にあわせて、外国人住民が防災を学び、地域防災を通じて日本人住民と共に多文化共生の地域づくりを考える多文化防災フォーラムを開催する。震災時の体験を振り返るとともに、今年度仙台国際交流協会が作成した、日本人住民と外国人住民が共に地域防災について考えるための防災ワークショップ教材を実際に参加者が体験し、今後の防災啓発の更なる促進へとつなげる。

●主催者 / 公益財団法人仙台国際交流協会、仙台市(交流政策課)

3月15日(日) 開始時間 / 16:00 19

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール6

東北、そしてアジアの若者の力～被災した若者たちの声

東日本大震災により被災し、家族を亡くしたり家を失った学生たちが、震災の体験を伝え、防災の重要性について語る。また、フィリピンの台風30号(台風ヨランダ)により被災した若者を招聘し、共に、アジアの防災にむけた取り組みの重要性を発信する。自然災害によるダメージの当事者として、その体験を語り、また、どのような取り組みが今後求められるのかを若者の視点から提言する。

●主催者 / 一般財団法人 教育支援グローバル基金 ビヨンドトゥモロー

3月15日(日) 開始時間 / 10:00 20

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール7

防災のための地震予知は可能なレベルに達している

世界で最初の地震予知研究を基にした短期地震予測情報の実用配信を開始して4年。VLF/LF電離層擾乱による地震前兆現象を 観測・解析する地震予知研究である。2週間以内の地震が予測できるということは、さまざまな防災準備が整うことと、より速い復旧が可能となり、防災・減災の実現に大きく寄与する。この研究・観測システムが、さまざまな国においても地震災害リスクの軽減に役立つことを願うものである。

●主催者 / インフォメーションシステムズ株式会社

3月15日(日) 開始時間 / 13:15   20

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール7

都市間協力によるコミュニティの防災対応力向上～アジア太平洋地域における横浜のイニシアチブ～

都市の防災力は都市間協力によって強化することができる。横浜市は、シティネットを通じてアジア・太平洋地域の都市の防災活動を支援してきた。本市が行ってきた、コミュニティレベルの防災力向上のための支援、専門家派遣、eラーニングによる研修、現場視察やセミナーなど多岐にわたる取り組みを紹介する。

●主催者 / 横浜市、シティネット横浜プロジェクトオフィス

3月15日(日) 開始時間 / 17:20 20

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール7

学び育てよう 財産と命を守る海岸防災林

海岸防災林は、風害・塩害から居住地や農地を守る役割のほか、津波エネルギーの減衰効果が注目されている。被災した海岸林再生には長い年月が必要で、関係行政機関、地域住民、企業・NPO等が協力し合い再生が進められている。本イベントでは、こうした機能の紹介、再生活動状況報告と長期的な視点に立った課題や提言を通じて人々に海岸防災林の重要性を認識してもらう。

●主催者 / 公益社団法人国土緑化推進機構

3月15日(日) 開始時間 / 9:15 27

仙台市情報・産業プラザ (AER内) 多目的ホール (5階)

住民主体の災害復興と大学の役割—東日本大震災の教訓と神戸・アチェ・四川との比較

被災者中心の安全まちづくりを実現するため何が課題であり、大学はどのような実践的役割を求められるのか。本セッションは、阪神・淡路大震災を経験した神戸大学と東日本大震災被災地にある東北大学・岩手大学が連携し、アチェ津波のシャクアラ大学、四川地震の四川大学等と交流して得た成果を市民に還元し、実践的議論を喚起したい。

●主催者 / 神戸大学、東北大学、岩手大学(被災大学間連携)

3月15日(日) 開始時間 / 15:00 27

仙台市情報・産業プラザ (AER内) 多目的ホール (5階)

自然災害の脅威に備える、日立の防災・減災ソリューション

草野仁氏をナビゲーターに迎え、防災・減災のあるべき姿とそれを実現するソリューションについて、東日本大震災の知見および多発する自然災害の実例を踏まえて、分かりやすくご紹介します。

講演テーマは、①避難所の課題分析と求められる運営のあり方、②総合防災情報ソリューションの活用事例と今後の展開、③強いインフラ構築による防災・減災の実現と持続可能なまちづくりの提案を予定。

●主催者 / 日立グループ

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 28

仙台市情報・産業プラザ (AER内) セミナールーム (2) (6階)

子どもと芸術 心の復興～落語会&トーク～

震災を経験した子どもたちのケアは長期的観点で取り組むべき課題であり、今後も子どもたちがさまざまな芸術文化に触れる機会を確保していくことが必要となっている。そこで、市内のこども育成活動団体、芸術文化関係団体などからゲストを招き、復興に向けた取り組みの紹介と、域外からの支援が減少することが見込まれる中、子どもたちのために文化芸術ができることや今後の方向性について考えるシンポジウムを開催する。

●主催者 / 公益財団法人仙台市市民文化事業団

3月15日(日) 開始時間 / 13:20 28

仙台市情報・産業プラザ (AER内) セミナールーム (2) (6階)

災害支援を行った世界の看護師からの学び—一次世代へのメッセージ

人々の生活と健康に関与している世界の看護界から災害看護の今後の課題を発信するために、本シンポジウムでは災害看護に関わるものが組織や国境を越えて経験知や実践に基づいた教訓を基に、今後に向けた災害看護の課題について実践、教育、研究者と共に議論する。

●主催者 / 世界災害看護学会、国際看護師協会

3月15日(日) 開始時間 / 10:00 29

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール A (21階)

震災の経験をいかに東北は伝えるべきか?

東日本大震災発災から今日まで、私たち東北に住む者はさまざまな知見を得てきた。復旧・復興でも初めての体験するものが多かった。これらの経験を次代に伝えるため、東北人は何をしなければならないのか、東北選出の国会議員や経済人と座談会方式で議論する。そして、会場全体で、東北の経済再生についても併せて考える。

●主催者 / 東北大学大学院情報科学研究科

3月15日(日) 開始時間 / 14:30 29

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール A (21階)

ILC 誘致と防災機能が高い国際学術研究都市づくりを考える

素粒子物理学の国際共同プロジェクトである国際リニアコライダー (ILC) の北上地域誘致活動をきっかけに国際学術研究都市づくりが議論されている。同地域は東日本大震災の被災地でもあり、都市づくりにおいて防災の視点は欠かせない。このため、国際的多様性を前提とした防災体制の整備、再生可能エネルギーの活用等も踏まえ、被災地から未来志向の国際学術研究都市像を提案する。

●主催者 / 一般社団法人東北経済連合会

3月15日(日) 開始時間 / 13:30  30

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール B (21 階)

「子どもが主役の防災教育」の実践 ～ぼうさい探検隊、これまでの10年とこれからの10年～

未来を担う子どもたちの防災教育の推進が狙いで、2部構成のイベントを開催。第1部は「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール表彰式」を開催。後援団体である内閣府、文部科学省、ユネスコなどのプレゼンターが出席し、小学生が作成したオリジナルマップの優秀作品を表彰。第2部は「防災教育フォーラム」。防災教育実践団体・指導者からの取組報告、パネルディスカッションなどを行う。

●主催者 / 一般社団法人日本損害保険協会

3月15日(日) 開始時間 / 10:30 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30 階)

「防災ジャパンダプロジェクト」～防災人形劇&体験型防災ワークショップ～

『防災人形劇』&『体験型防災ワークショップ』を実施。防災人形劇では、「さんびきのこぶた危機一髪!」を公演し、いざという時に「あわてない」ことの大切さを学びます。体験型防災ワークショップでは、スタンプラリー方式で身体を動かしながら災害から身を守る・助け合うための知識等について楽しく学びます。スタンプが全部たまると、防災グッズをプレゼントします。

●主催者 / 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

3月15日(日) 開始時間 / 14:00 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30 階)

震災を経て強いまちづくりに挑む「産学公民」活動事例

私たちのJASFAは、産学連携団体として活動してきた防災と減災に関するプロジェクトの紹介セミナーを開催する。

1. 津波被災地での就労支援活動を可能にした自治体との連携。
2. 中小企業だからできた防災視点の技術研究とステークホルダー。
3. 防災・減災に関するノウハウを携えての海外提携。
4. 災害に強く、地域特性を活かすまちづくりへの提言。…ほか

●主催者 / 一般社団法人持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会 (JASFA)

3月15日(日) 開始時間 / 9:00  32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30 階)

原発災害後の地域連携と復興への道のり：福島県相双地区の健康対策から

福島第一原発事故後の健康問題は放射線被害に留まらない。原発に最も近い居住区である福島県相馬地方では以下の点につき、その取り組みを報告するとともに、参加者と広く意見交換を行い、世界の防災対策へ資することを目標とする。

1. 放射線防護:退避指示と住民教育、長期的線量測定
2. 健康被害の予防:高齢者の孤独死、避難住民の健康被害など
3. 復興:医療・教育の復興と風評被害の払拭

●主催者 / 相馬地方市町村復興フォーラム実行委員会

3月15日(日) 開始時間 / 13:45  32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30 階)

新潟から東北へ、災害と復興の経験をつなぐ～地域で目指す「マルチハザードに対する多重防御の姿」～

日本は数多くの災害に見舞われ、その度に力強く立ち上がり新たな防災対策を打ち出してきた。東日本大震災を経て、ハード・ソフト施策を組み合わせた「多重防御」の発想により、災害に強い地域づくりを推進する新たな試みが始まっている。現在の日本の減災に取組む姿を、レジリエンス・コミュニケーションの観点も踏まえ、過去の被災からの復興経験を多く有する新潟から発信する。

●主催者 / 新潟県

3月15日(日) 開始時間 / 17:30  32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30 階)

母と子を守る危機管理—地域医療・保健における創造的協働による新しい取り組み

日本は少子高齢化において世界の先端を走っており高度情報化されたハイレベルの医療資源を持つ医療先進国であり日本における災害対応は世界にとって含蓄に富む教訓を与えるであろう。地域社会の復興を担う次世代を救護する上で東日本大震災の経験から得た知見は今後世界中のあらゆる先進国が直面する少子高齢化社会において防災対策を検討する際にモデルケースとして大きな貢献をもたらすものである。

●主催者 / 東北大学東北メディカル・メガバンク機構

3月15日(日)	開始時間 / 10:00	33
仙台市シルバーセンター 交流ホール		
防災 3.0 : 安全で賑やかな自律循環型地域社会を目指して		
<p>当フォーラムでは、復興庁および地方創生を推進する内閣府から小泉進次郎政務官、また復興最先端都市である神戸市から長岡賢二危機管理室長、そしてソニーコンピュータサイエンス研究所からは所眞理雄氏、の3氏をお招きし講演いただく。加えて、日常生活・コミュニティの中に"防災"をいかに取込み豊かなものに育てるのか、多分野の識者を交え、パネルディスカッションを実施する。</p>		
●主催者 / 株式会社コトブキ		

3月15日(日)	開始時間 / 14:15	33
仙台市シルバーセンター 交流ホール		
シンポジウム「高齢者と防災」		
<p>東日本大震災において被災者の多くを占めた高齢者は、身体機能や認知機能の低下などから大きな影響を受けたが、今後起こりうる大規模災害においても、健康保持・回復は大きな課題になる。そこで、高齢者の災害に対するレジリエンス(回復力)をテーマに、支援団体の事業報告などを通して、新しい災害支援のあり方や高齢者の生きがいづくり・健康づくりの新しい方策を、仙台から提案していきたい。</p>		
●主催者 / 公益財団法人仙台市健康福祉事業団		

3月15日(日)	開始時間 / 10:00	34
仙台市シルバーセンター 第一研修室		
災害時における支援調整の仕組みを考える ~新たな官民連携・コーディネーション機能構築に向けて~		
<p>日本は災害大国であり、今後も大きな災害と向き合っていかなければならない。東日本大震災ではNPO等の市民による支援活動が活発に行われた一方で、NPO間の連携、行政や企業とNPOとの連携をめぐっては課題も指摘されている。どうしたら被害を最小限に抑えることができるのか。どうすれば適切な支援を届けられるのか。海外の事例なども踏まえ、今後の災害に備えて産官学民等のセクターとの連携の在り方を考える。</p>		
●主催者 / 全国災害NPOセンター		

3月15日(日)	開始時間 / 14:00	34
仙台市シルバーセンター 第一研修室		
平成 26 年度 防災とボランティアのつどい~学べる、つながる、みんなで考える防災ボランティア~		
<p>災害時におけるボランティア活動の担い手を広げるため、防災ボランティア活動への関心を持つ幅広い層からの参加を求め、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災などの経験、活動紹介やアイデアを共有する機会とする。各地での実践者によるパネルディスカッションと参加者全員でのワールドカフェ形式のワークショップを通じて、市民参加型による交流イベントを実施する。</p>		
●主催者 / 内閣府		

3月15日(日)	開始時間 / 9:30	35
仙台市シルバーセンター 第二研修室		
集合住宅と地域コミュニティによる防災減災~東日本大震災の実例と提言~		
<p>都市への人口集中は、マンション化率の急増をもたらした。この未成熟で希薄なコミュニティに内在する災害への脆弱さが浮き彫りになりつつある。東日本大震災から、我々は何を学ぶべきか。地区単位の防災減災のモデルとして、「共助」や「備え」のあり方を事例調査結果やワークショップを通し、参加者全員で考えるイベントを開催する。</p>		
●主催者 / 大和ライフネクスト株式会社		

3月15日(日)	開始時間 / 13:10	35
仙台市シルバーセンター 第二研修室		
東日本大震災と持続可能な防災教育シンポジウム		
<p>東日本大震災の教訓を活かした防災教育の実践についてのシンポジウム。ユネスコが提唱するESDの中心課題の一つである「減災・防災」を取り上げ、学校や地域での実践や連携について議論する。また宮城県・仙台市の教訓や成果、復興の実情がわかるように、地域の関係者の発言の場も予定している。</p>		
●主催者 / 仙台広域圏ESD・RCE運営委員会		

3月15日(日) 開始時間 / 9:30  36

東北大学川内北キャンパス マルチメディアホール

シミュレーション・センシング・G 空間情報の融合による減災力の強化

最先端のシミュレーション・センシング・地理空間情報(G空間情報)解析技術を統合して、地震・津波発生直後のきめ細かな災害情報の推計・把握と防災情報配信を通じて地域の災害に対するレジリエンスの向上に資するという目標のもと、我が国の現状・課題、国際展開に向けた課題を議論するためのシンポジウムを開催する。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所、総務省、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、ドイツ航空宇宙センター、UN-SPIDER (United Nations Platform for Space-based information for Disaster Management and Emergency Response)

3月15日(日) 開始時間 / 9:00  37

東北大学川内北キャンパス A106

Information and Communication Technologies for DRR

ICTs play a critical role before, during and after disasters strike. As part of disaster risk reduction and disaster preparedness, active and passive sensors can help in monitoring the environment and climate changes. The event will further elaborate on these topics.

●主催者 / International Telecommunication Union

3月15日(日) 開始時間 / 13:00  37

東北大学川内北キャンパス A106

グローバルな災害リスク評価と地図作成

In this event various stakeholders are brought together to share their experience in developing global risk assessment products and tools, and discuss data updating, sharing and verification mechanism at a global scale. The event will present recent achievements, and propose new international mechanisms for better use and sharing of risk information, data and results.

●主催者 / Beijing Normal University and UNISDR-STAG

3月15日(日) 開始時間 / 9:00   38

東北大学川内北キャンパス A202

Building Resilience in Urban Areas and Fragile States

Building standards in developing countries are often dysfunctional and poorly implemented. The process of setting and adopting building standards has been, in most cases, a top-down process with insufficient consultations of private sector, building professionals and local communities. Building codes often set the bar at unrealistically high technical levels. An in-depth and compelling knowledge management effort was carried out on the topic of post-disaster reconstruction strategies. Building on this work, there is a need to strengthen knowledge and experience with regard to the role of building code implementation policies within larger risk prevention or mitigation strategies.

●主催者 / UN-Habitat

3月15日(日) 開始時間 / 13:00   38

東北大学川内北キャンパス A202

Setting Standards on Infrastructure Strengthening Resilience through Building & Land Use Regulation

Building standards in developing countries are often dysfunctional and poorly implemented. The process of setting and adopting building standards has been, in most cases, a top-down process with insufficient consultations of private sector, building professionals and local communities. Building codes often set the bar at unrealistically high technical levels. An in-depth and compelling knowledge management effort was carried out on the topic of post-disaster reconstruction strategies. Building on this work, there is a need to strengthen knowledge and experience with regard to the role of building code implementation policies within larger risk prevention or mitigation strategies.

●主催者 / World Bank-GFDRR, UNESCO, UN-Habitat

3月15日(月) 開始時間 / 9:00  39

東北大学川内北キャンパス A205

Essentials for Making Cities Resilient

In preparation for the implementation of the post-2015 framework for disaster risk reduction, UNISDR in cooperation with partners and stakeholders are developing local indicators to support implementation of the new Framework at local level. An expert group of 25 agencies consisting of UN, private sector, academia and technical organizations have developed the New "Ten Essentials" for Making Cities Resilient along with indicators that will support in monitoring and developing actions plans.

●主催者 / UNISDR

3月15日(日) 開始時間 / 13:30 E 39

東北大学川内北キャンパス A205

**「ホテル・レジリエント」
—観光業界におけるレジリエンスの強化**

The event provides reference for private sector involvement in the disaster risk management agenda setting that goes beyond preparedness. The 'Hotel Resilient' initiative presents its research findings and framework for risk management standards, tools and instruments to create incentives for disaster risk management and to strengthening resilience in hotels and throughout tourist destinations.

●主催者 / Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit (GIZ) GmbH in joint cooperation with UNISDR

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 E 40

東北大学川内北キャンパス B101

社会的一体性を超えて：防災のリーダーとして女性に力を与える

Women and men are differently impacted by hazards due to their gendered role and patriarchal norms. Women are often marginalized from accessing and controlling their own resources therefore women are found to be exposed to range of additional risks during disasters. This event will use the South Asia Womens Resilience Index to focus on national level policies and practices that impact womens resilience to disasters.

●主催者 / ActionAid Bangladesh

3月15日(日) 開始時間 / 13:45 E 40

東北大学川内北キャンパス B101

Dealing with disasters: enhancing community resilience and mainstreaming disaster risk reduction in everyone's agenda

The risks from natural disasters have been increasing both in terms of frequency and severity due to climate change and unbalanced development, and the impact of disasters is felt most at the community-based disaster preparedness and risk management will contribute to an effective and-to-end disaster risk reduction scheme and reduction of losses both in lives and social, economic, and environmental assets. In order to promote a more comprehensive disaster preparedness and risk management, developing a DRR framework should be an inclusive process. All relevant stakeholders should be involved in the planning and implementation and adopt risk-informed growth and development strategies to better prepare for, respond to, and recover from impact of the disasters. The event will be an open forum for representatives from Governments, UN system, private sector and communities to exchange their views, expertise, and experiences in the areas of Community-based Disaster Preparedness and Risk Management and all-of-society disaster risk management approach. After the opening remarks, the moderator will invite each representative to make a short statement of five minutes on customized question sent beforehand. Then, the moderator will take pre-registered questions and comments from the floor and direct those questions and comments to relevant representatives. In closing, the moderator will wrap up the session.

●主催者 / Ministry of Foreign Affairs of Thailand and Ministry of Interior of Thailand

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 E 41

東北大学川内北キャンパス B102

レジリエンスに向けた連携：防災への統合的アプローチの実践的経験

The Partners for Resilience alliance will share experiences and key lessons on the implementation of an integrated approach to DRR and promote how the post-2015 HFA can ensure that climate change and ecosystem management aspects are fully addressed to strengthen community resilience. Case studies, tools and methodologies will be demonstrated and discussed.

●主催者 / Netherlands Red Cross on behalf of the 'Partners for Resilience' alliance

3月15日(日) 開始時間 / 9:15 E 42

東北大学川内北キャンパス B103

Towards risk-informed public policy for risk-sensitive investment

The event will draw from pilot experiences (including from DEVCO/ACP programmes and related initiatives) to discuss how governments can move to risk-sensitive policy, planning and investment through the roll-out of the following service lines: i) disaster loss dB, coupled with ii) risk assessment/profiling, coupled with iii) HFA(2) monitoring and impact indicators review coupled with iv) unpacking public investment policy, planning and expenditure coupled with v) identification of critical sectors together with key private sector partners, resulting in vi) forward-looking dialogue with and between the government and the private sector examining the suite of policy options to facilitate risk-sensitive public and private investment.

●主催者 / UNISDR

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 E 42

東北大学川内北キャンパス B103

Systematic collection of disaster loss data as essential asset in DRM

The development of national disaster loss databases represents a low-cost, high impact strategy to systematically account for disaster losses. Disasters and their downstream impacts represent major drawbacks for governments, who are responsible not just for public assets, but implicitly at least, also for the uninsured assets of low-income households and communities. Economic losses are poorly documented in global disaster databases and the losses associated with frequently occurring low severity losses are rarely captured. While a growing number of countries in Asia, Latin America and Africa are now systematically accounting for physical disaster losses the calculation of economic losses is still incipient. Only few countries incorporate disaster loss and impact data in national accounting, or use this data to inform public investment planning decisions or to optimize their investments in DRR and CCA. Governments need to be aware of the cost of recurrent losses and of future risks in order to take informed decisions regarding how much to invest in risk reduction and to identify the most cost-effective strategies to do so. The UNISDR-UNDP initiative have strengthened capacities in approximately 80 countries in Asia, Africa, Latin America, the Pacific and the Caribbean to build comprehensive national loss data-sets and to put these recommendations into practice. This Side Event will showcase achievements, challenges and lessons learned in the process of building a large number of national loss databases, and will provide interested countries with a clear road map and recommendations on how to build these databases.

●主催者 / UNISDR and UNDP

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 (E) 43

東北大学川内北キャンパス B104

災害リスクに関する統合的研究：防災における科学の役割

This session presents findings from IRDR projects. FORIN advances a methodology for forensic investigations into risk drivers and root causes of disasters. DATA establishes compatible disaster loss databases across sectors and countries. Risk Interpretation and Action examines decision-making by individuals and institutions in the face of risk. The session also discusses innovative research funding structures.

●主催者 / Integrated Research on Disaster Risk (IRDR)

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 (E) 43

東北大学川内北キャンパス B104

防災管理を地域および国家レベルの計画立案へと組み込む：ネパールのケーススタディ

Government of Nepal announced to agree upon a common approach on local and national level DRM mainstreaming by end of 2015. Since, then Flagship 4 and Flagship 5 has been collecting the approaches and evidences from organizations practicing DRM mainstreaming at different level. Government is demonstrating its serious commitment to disaster management and a sustainable approach addressing issues raised in the HFA implementation progress report of Nepal, 2012.

●主催者 / International Federation Of Red Cross and Red Crescent Societies (Flagship 4 program)

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 (E) 44

東北大学川内北キャンパス B200

身体障害に関する UNDESA フォーラム—包括的な防災とレジリエンス：社会的一体性が命を救う

国連経済社会局は、第3回国連防災世界会議(2015年3月14~18日)の開催に合わせ、「障害者を含む「インクルーシブ」な国際防災枠組とその実施に向けた行動」をテーマにパブリック・フォーラムを開催します。障害者をはじめ、あらゆる人を包摂する防災対策とはどうあるべきかについて、幅広い議論を行います。

災害において特に脆弱な立場にある障害者は、防災に向けた政策・計画において包摂されなければ、死亡・負傷や二次災害の犠牲者となる高いリスクに直面することとなります。特に、2011年3月11日に発生した東日本大震災における障害者の死亡率は総人口に比べて2倍にのぼると言われています。

本パブリック・フォーラムでは、障害や防災分野に携わる幅広い機関の参加を得て、このような障害者を取り巻く厳しい状況を踏まえ、インクルーシブな国際防災枠組の実施に向けた具体的な提言が行われます。また、防災に関する既存の政策やプログラム、国際レベル・国家レベル・地域レベルにおいて推進されてきた防災対策の評価が行われます。さらに、東日本大震災をはじめとした過去の災害の教訓に基づいて今後の防災対策のあり方を検討し、政府・民間などのパートナーシップの可能性を探りつつ、ポスト2015年開発アジェンダやポスト兵庫行動枠組(HFA2)の策定・実行に貢献することを目指します。

●主催者 / 国連経済社会局 (UNDESA)

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 (E) 45

東北大学川内北キャンパス B201

Building Community Resilience: Sexual and Reproductive Health and Gender within Community Disaster Risk Reduction

Women and girls are disproportionately affected by disasters. This is largely due to their traditional roles within society and exclusion from emergency planning, preparedness, and response systems. By partnering with these communities and their local governments, and building capacity in relation to DRR, SRH and gender, the UNFPA, in close cooperation with WRC aims to improve the resilience of communities and reduce SRH related morbidity and mortality faced by women, girls, and vulnerable groups.

●主催者 / UNFPA

3月15日(日) 開始時間 / 13:30 (E) 45

東北大学川内北キャンパス B201

Asia Disaster Resilience Forum 2015 -Building ICT-enabled Disaster Resilient Societies in Asia from the grassroots (Continued from day 1)

During the two day forum, panelists will present examples from across Asia followed by a discussion on lessons learnt in developing successful solutions. Demos of these apps will be available to test on both days. On day 2, discussions will focus on future plans for development. In the afternoon, there will be an introductory technical brainstorming and hacking session on newly available datasets such as the Hodoyoshi microsatellite successfully launched by Tokyo University, and others. On day 3, a more in-depth technical workshop on coding this data into applications will be held in Tokyo.

●主催者 / World Bank - GFDRR

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 (E) 55

東北大学川内北キャンパス B202

災害状況における移住者のレジリエンスの構築

As shown in a number of recent disaster occurrences, international migrants present specific vulnerability conditions in disaster situations. This event will explore some of these patterns and propose some solutions for addressing them and increasing the resilience of migrants in disaster situations, looking at existing policy processes and initiatives at the local level.

●主催者 / International Organization for Migration

3月15日(日) 開始時間 / 9:30 E 46

東北大学川内北キャンパス C101

防災を通じたレジリエンスの構築：アジアとアフリカでのガバナンスおよび市場システムの強化

Explore examples and evidence of how DRR and climate-focused governance and market system interventions can build resilience of vulnerable rural and urban communities across Asia and Africa. Practitioners and researchers showcase lessons learned and approaches on implementing resilience strategies and why this systems-based approach is critical to meet the growing and diverse challenges that communities face.

●主催者 / Mercy Corps

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 E 47

東北大学川内北キャンパス C102

レジリエントな未来：バングラデシュが災害と気候変動のリスク低減への道を開く

As a frontrunner of the comprehensive disaster management paradigm, Bangladesh has significant achievement towards HFA. This has created a momentum of mainstreaming DRR towards resilient nation building and contributing advocacy for integrating DRR, CCA, Sustainable Development and regional and global cooperation for Resource, Information and Technology sharing in the agenda of Post 2015 framework.

●主催者 / Ministry of Disaster Management and Relief, MoDMR

3月15日(日) 開始時間 / 9:30 E 48

東北大学川内北キャンパス C105

気候や災害のリスク防止、環境復元、リスクに強い生活、利害関係者間の連携による備えに関するモデル・提案

In this event Caritas will present approaches, lessons and successes in multi-sectorial, multi-stakeholder coordination and cooperation, which mutually reinforce DRR, SDGs and CC agreements within the post-2015 framework for DRR. There will be a thematic focus on climate, environmental restoration, strengthening risk proof livelihoods and preparedness will be illustrated through working across different timeframes and scaling to maximize impact, aligning information and new technologies with local practices and social norms. The Caritas side event will showcase models that: ensure communities are supported to be the main actors to identify their risks and plan efforts to minimize potential loss from disaster; Caritas recognizes that communities are equal partners in assessment, planning, implementation and monitoring of risk reduction working in cooperation with others to ensure strengthened resiliency to hazards faced and assure protection of basic needs and risk proofing of livelihood options as fundamental building blocks of resiliency.

●主催者 / Caritas Internationalis (Caritas Confederation in Asia)

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 E 48

東北大学川内北キャンパス C105

災害と避難民

As a consequence of natural hazards, millions of people are forcibly displaced. This side event is an opportunity to progress on preparations of national and international legislation on displaced persons both at the international and national level. In addition, the universal declaration on the fundamental rights of environmentally displaced persons will be discussed.

●主催者 / Centre International de Droit Comparé de l'Environnement (CIDCE) / International centre of comparative environmental law

3月15日(土) 開始時間 / 17:30 E 48

東北大学川内北キャンパス C105

災害へのレジリエンスの計測

This side event provides an overview of the available tools for measuring resilience and outlines opportunities and challenges in their implementation to support the successful operationalization of the Post-2015 DRR framework. It is intended for governments and non-governmental organisations that are attempting to measure the success of DRR/resilience programs and policies.

●主催者 / Overseas Development Institute (ODI)

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 E 49

東北大学川内北キャンパス C106

Environmental Supercomputing and disaster risk reduction

The initiative will support exchange of experiences, best practices and requirements across different disciplines and stakeholder groups. The foundation of the initiative are the experiences gained from numerous large-scale projects applying HPC, distributed computing and big data approaches to different fields of environmental modeling such as hydro-meteorology, seismology and hydrology. These R&D activities have repeatedly demonstrated the potential for major improvements in the accuracy, flexibility and speed the modeling and analysis results can be produced. However, experience has also highlighted the need for much tighter coupling between the researchers in different fields, organisations with operational responsibilities (e.g. in civil protection) and the policy level actors on the global, national and regional levels. Benefits of all of these new technical capabilities can be realized only if all stakeholders share a common, basic body of knowledge related tools, services and data resources - and the ways they can be combined in a coherent and efficient manner. Initial pilot activities are being launched, and an engagement process with a broad range of potential stakeholders is ongoing. As part of this engagement process, LRZ is inviting interested parties to join in to shape the initial vision, mission and approach in this workshop.

●主催者 / Leibniz Supercomputing Centre of the Bavarian Academy of Sciences and Humanities (LRZ)

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 **E** 49

東北大学川内北キャンパス C106

**米国の防災取り組み
—レジリエンス構築の機会**

U.S. government agencies will present DRR and resilience efforts in reducing impact of hazards, enhancing the safety and economic well-being of individuals, communities and governments at all levels in the U.S. and abroad. Speakers will share activities to illustrate U.S. science and technology, the whole community approach, and partnerships and present future plans and other activities.

●主催者 / U.S. Agency for International Development and U.S. National Platform

3月15日(日) 開始時間 / 9:00 51

東北大学川内北キャンパス C201

東日本大震災の被災地域でのグローバル安全学リーダー人材の育成

本シンポジウムでは、高校生、大学生、大学院生、研究者、実務者が、グローバル安全学の視点から将来の防災分野の人材育成について議論を行う。東日本大震災から導出された知見や教訓を踏まえ、被災地の長期的な復興事業をはじめとして、日本国外にも貢献できる人材教育について、大学・大学院教育と高等教育の個々の事例と連携事例を交え、今後の発展性を議論する。

●主催者 / 東北大学リーディングプログラム推進機構グローバル安全学教育研究センター

3月15日(日) 開始時間 / 13:15 51

東北大学川内北キャンパス C201

**医工学研究科医療機器創生開発センター
- 被災地からの新産業創出を目指して -**

東北大学医工学研究科では医療機器創生開発センターを設立し、臨床ニーズを解決する工学的シーズのマッチングを行うとともに、地域の企業へ医療機器開発ノウハウを伝授することで被災地からの新産業創出を目指している。

●主催者 / 東北大学大学院医工学研究科

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 52

東北大学川内北キャンパス C202

ジオハザード軽減に向けた地球科学の人材育成：防災国際ネットワーク構築

本ワークショップでは、地震、津波、地滑り、火山災害等の地質災害を被る可能性が高い国々に対して、日本をはじめとする災害先進国がどのようにしてノウハウの移転を行うか、その問題点と仕組みづくりを議論する。可能であれば、日本発のCapacity Building Model を構築することを旨とする。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所、日本学術会議(IUGS分科会、IRDR分科会)、産業技術総合研究所

3月15日(日) 開始時間 / 13:00 **E** 53

東北大学川内北キャンパス C205

JITU Pasma 災害後のニーズ評価：インドネシアの経験

JITU Pasma is the Indonesian version of Post-Disaster Needs Assessment (PDNA) that includes (i) the valuation of physical damages and economic losses; and (ii) the identification of human recovery needs based on information obtained from disaster-affected people. The instrument has been used in helping Indonesia formulate better and more need-based recovery plan. Experiences from Indonesia as well as those from neighboring countries might be useful in enriching JITU Pasma for knowledge exchange and information sharing purposes.

●主催者 / Badan Nasional Penanggulangan Bencana (Indonesian DM Authority)

3月15日(日) 開始時間 / 13:00  54

東北大学川内北キャンパス C206

沿岸生態系を活用した防災と減災：Eco-DRRの主流化と課題

生態系を基盤とした防災・減災(Eco-DRR)についての進展と我が国の動向を紹介するとともに、気仙沼や仙台湾における沿岸生態系の現状とその生態系特性を活用した防災・減災の取り組みについて口頭発表やパネルディスカッション等を通じて議論・情報共有し、Eco-DRRの主流化について提言を行う。

●主催者 / 東北大学大学院生命科学研究所生態適応センター

3月16日(月) 開始時間 / 15:00  02

仙台市民会館 大ホール

東日本大震災からの産業の復旧・復興、そして未来へ

経済・産業の再生・復興なければ、被災者の生活再建も被災地の未来も無く、真の復興はあり得ない。震災からの経済の復旧・復興に取り組んできた「全国規模の経済団体」、「エレクトロニクス産業・サプライチェーン」、「地元経済団体」の代表から、それぞれの立場での復旧・復興の取り組みや、将来に向けた課題・解決策等を発表。

●主催者 / 仙台商工会議所

3月16日(月) 開始時間 / 9:30  03

仙台市民会館 小ホール

リスクガバナンスとレジリエントな都市

リスクのマネジメントやガバナンスに関する政策の成功事例から互いに学びあうために、危機時のリーダーシップ、リスクのコミュニケーション、経済的分析の点から、特にレジリエントな経済と包括的な社会に向けて自由な意見交換をする。都市は重要な主体であり、暮らしやすい都市を実現するための議論に焦点を当てる。

●主催者 / 経済協力開発機構

3月16日(月) 開始時間 / 15:00  E 03

仙台市民会館 小ホール

フロントライン：レジリエンス強化のための地域リスクのプロファイリングとモニタリング

This event presents a unique method of gathering local level risk monitoring information and knowledge, based on the recognized 'Views from the Frontline' programme which has already consulted over 85,000 respondents. It is vital for all those concerned for more effective implementation post-2015, showing how learning from rich local-level risk knowledge strengthens resilience at local and national level and can provide baselines and monitoring of post 2015 frameworks. Along with a remarkable study of community resilience in Japan conducted in collaboration with JCC2015 that highlights the major impacts of under-reported 'everyday disasters' we present initial results from our surveys in 30 countries worldwide. The programme engages at international, national and local scales. Internationally it establishes baselines at the inception of the new DRR framework, providing ongoing monitoring at local level. Nationally it provides rich evidence of priority threats, impacts, actions and underlying causes to inform local and national governments and other organisations in effective implementation. Locally it enables people to highlight the threats they face, the impacts, local actions that can be taken and underlying causes. This knowledge is used by local communities to learn and mobilize local action. This event is vital for all those concerned for more effective implementation post-2015, demonstrating a unique and proven method for conducting local level monitoring and gathering local risk knowledge, as well as showing how learning from rich local-level risk knowledge strengthens resilience at local and national level.

●主催者 / Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction (GNDR)

3月16日(月) 開始時間 / 9:00 04

仙台市民会館 第1会議室

第2回水災害軽減のための流体力学の活用：台風シミュレーション及び被害評価

シミュレーション：高波・高潮シミュレーション。台風ハイヤン時サマル島東海岸に衝突した津波らしい段波が想定外・破壊的な現象でした。こんな被害を予測・防ぐために、想定外高波の再現する技術を議論します。
被害評価：台風シミュレーション・被害評価方法についての国際・学際的議論。国による、高潮・高波予測モデルと被害防止対策が変わっています。技術前線を探して議論します。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月16日(月) 開始時間 / 12:20 E 05

仙台市民会館 第2会議室

優れたソリューションの検証：災害での動物紛失を減らす共同アプローチ

Globally, 1.3 billion people rely on animals for their livelihoods often those most vulnerable to disasters. This session highlights what we can achieve through collaboration, from the economic benefits of incorporating livestock into humanitarian and country-wide responses to specialized emergency funds. It presents diverse case studies showcasing successful solutions in all five priorities for action.

●主催者 / World Animal Protection

3月16日(月) 開始時間 / 15:00 E 05

仙台市民会館 第2会議室

Arab Urban Development Institute -MENA Urbanization Knowledge and Disaster Risk Management

With the upsurge of worldwide disasters to the double since 1980s, the numbers in the MENA almost tripled, as climate-related disasters have affected 50 million people and cost approximately US\$11.5 billion. With a trend towards greater urbanisation and ascend growth in population figures, women disaster-related fatalities witnessed an increase in relation to gender inequality of rights and socio-economic status, thus empowering women economic start-ups in risk management, will contribute to urban resilience and create better participation opportunities for women in the labour market.

●主催者 / Arab Urban Development Institute

3月16日(月) 開始時間 / 18:15 E 06

仙台市民会館 第3会議室

南アジアでの新たなリスク削減枠組み導入における課題と機会

Government representatives and experts from South Asia will discuss anticipated challenges and opportunities for implementing the Post-2015 Framework for Disaster Risk Reduction in South Asia, specifically relating to finance, monitoring and accountability. Rather than presentations, the side event will be structured as a lively panel discussion facilitated and moderated by the Chair, who will pose a series of questions to the panelists. Chair: Ali T Sheikh, Asia Regional Director, Climate and Development Knowledge Network (CDKN) Panelists: Maj. Gen. Asghar Nawaz, HI(M), Chairman, NDMA Pakistan Dr. Shamshad Akhtar, Executive Secretary, UNESCAP Dr. Tom Mitchell, Head of Climate and Environment Programme, Overseas Development Institute (ODI), UK Dr. Manu Gupta, Director, SEEDS India Mr. Naimur Rahman, Advisor, Governance, Participatory M&E and Accountability Dr. Charlotte Benson, Senior Disaster Risk Management and Financing Specialist, Asian Development Bank Mr. Mohammad Abdul Wazed, Director General, Department of Disaster Management, Bangladesh Dr. Rizwan Naseer, Director General, Rescue 1122, Pakistan Ms. Netatua Pelesikoti Director Climate Change Division, Secretariat of the Pacific Regional Environment Programme (SPREP)

●主催者 / LEAD Pakistan and CDKN

3月16日(月) 開始時間 / 9:00 E 07

仙台市民会館 第5会議室

防災に向けたメディアと通信：イノベーションの紹介

Communication initiatives that target people at risk of natural hazards can help people better understand risk and make informed decisions about how to manage it. A selection of outstanding examples of innovation and good practice, selected from a global call, will be showcased and discussed by DRR and communication experts.

●主催者 / BBC Media Action Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction Netherlands Red Cross Plan International

3月16日(月) 開始時間 / 12:30 07

仙台市民会館 第5会議室

「あの日のこと」から「いつか来る日」を考える～市民力が発揮された支援と復興への歩みから学ぶこと～

市民力が発災直後そして復興にどのように役立ってきたのかを伝え、予想がつかない大災害に向けて必要なことについて考えるシンポジウムを開催する。自ら被災しながら周りの人々のために力を注いできた人々を迎え、その経験を生の声で伝える。さらに、今後私たち自身にもふりかかるともかもしれない災害に対して準備し、心がけておく大切なこと「人のつながりこそが防災と復興の原点である」について考える。

●主催者 / 認定NPO法人 日本ハビタット協会

3月16日(月) 開始時間 / 15:00 E 07

仙台市民会館 第5会議室

MISP* は特に女性・少女の命を救い、病気、トラウマ、障害を防ぐ *生殖に関する健康のための初期ミニマム・サービス・パッケージ

Sexual and Reproductive health problems are the leading cause of women's ill health and death world-wide. The MISP is a priority set of life-saving activities to be implemented at the onset of every Humanitarian Crisis. International Laws support the rapid and unobstructed implementation of MISP by Humanitarian Actors-the need is to build the Country level capacity and enabling policy environment.

●主催者 / International Planned Parenthood Federation

3月16日(月) 開始時間 / 9:15 08

仙台市民会館 第6会議室

自然災害に対する復元力のあるサプライチェーン設計

自然災害に対してレジリエンスを有するサプライチェーン(SC)について研究報告し、参加者と議論する。SCがグローバル化し、経済の相互補完性が高まったことなどが原因で、近年自然災害による経済被害額は増加傾向にある。東日本大震災やタイ大洪水発生時には、一地域の災害の影響でSC全体の経済活動が停滞した。SCのレジリエンスは、企業・国家競争力に影響を与えるものとして注目を集めている。

●主催者 / コロンビア大学地球研究所水問題研究センター

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 08

仙台市民会館 第6会議室

津波が沿岸域の船舶や海洋環境に与える影響

大地震とそれに伴う津波の影響について、海岸線から内陸域については、数多くの研究や実績データの蓄積があり、被害を最小化する活動が数多く取り組まれてきている。一方で①海岸線の海側や沿岸域に存在する浮き桟橋やブイなどの浮体、航行または係留中の船舶については、津波により漂流したときにさらに他の陸上構造物などに与える二次被害、②津波の強流による海底土砂の移動や巻き上げなど海洋の短期・長期的な環境悪化などのマリンハザード問題が重要であるにもかかわらず認知度が低く、今後現地調査を含む基礎・応用研究と対策が必要である。本イベントでは上記分野の最前線研究の紹介と今後に向けての提言を発信することとする。

●主催者 / 神戸大学海事科学研究科マリンハザード研究講座

3月16日(月) 開始時間 / 18:15 08

仙台市民会館 第6会議室

在宅避難ができるマンションを目指して

神戸市や仙台市等で被災したマンションの経験を参考に、マンションの管理組合や居住者団体、管理会社、各種事業者等が、主に以下について検討する。

- ①災害発生時にできるだけ自宅マンションにとどまり、生活継続をするための効果的な方策
- ②実効性の高いマンションの地震対策を進めるために必要な技術とノウハウの開発の促進策
- ③市場を通じて防災力向上をはかる方策
- ④防災力の高いマンションを建設、供給する方策

●主催者 / 一般社団法人マンションライフ継続支援協会

3月16日(月) 開始時間 / 16:00 E 09

仙台市民会館 第7会議室

過去の災害から災害について学ぶ

The Working Group on Disaster Risk Reduction of the Typhoon Committee would like to share its experience on 1) governance in disaster management, 2) disaster prevention technologies, and 3) lessons from past disasters.

●主催者 / Working Group on Disaster Risk Reduction of Typhoon Committee

3月16日(月) 開始時間 / 13:30 10

せんだいメディアテーク スタジオシアター

震災とコミュニティと建築

「みんなの家」は、東日本大震災後、建築家伊東豊雄氏らが呼び掛け、熊本県の協力により仙台市宮城野区に建設され、その後被災した各地に広がった。陸前高田「みんなの家」は第13回ベネチア・ビエンナーレ国際建築展の日本館に設計プロセスが展示され、金獅子賞を受賞。「みんなの家」の意味や、復興に果たした役割について、伊東氏の講演とパネルディスカッションにより理解を深める。

●主催者 / 特定非営利活動法人HOME-FOR-ALL、仙台市(宮城野区まちづくり推進課)

3月16日(月) 開始時間 / 13:30 11

東京エレクトロンホール宮城 大ホール

未来に向けてー建設業が果たす役割・街づくりと中学生記者が考える防災ー

建設業は東日本大震災に即応して復旧作業に当たった。災害時に重要な機能を担う建設業の役割を2011年の震災時の事例をもとに振り返るとともに、復興や減災への取り組みの方向を探る。2部では、被災三県の復興を多彩なイベントで応援する「スマイルとうほくプロジェクト」で全国からの中学生記者が被災地で学んだことを発表する。

●主催者 / 一般社団法人宮城県建設業協会

3月16日(月) 開始時間 / 9:15 E 12

東京エレクトロンホール宮城 401 中会議室

高等教育機関の役割:知識とキャパシティの向上

This event will help to galvanize further academic collaboration and strengthen existing networks of HEIs for advancing disaster risk knowledge and building capacity. This event will also recognize existing gaps between demand and supply of capacities at local levels and synergize collective efforts more strategically for filling these gaps through strength of academic networks.

●主催者 / Asian University Network of Environment and Disaster Management [AUEDM]

3月16日(月) 開始時間 / 9:10 E 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

災害後の初期対応から復旧・復興への過渡期における諸課題～東日本大震災からの教訓～

本パネル討論では、災害後の当面の対応と復旧から、より長期的な取り組みを要する復興への過渡期に生じる諸課題に着目いたします。東日本大震災とその後の原発事故で被災した地域からの例を踏まえ、住宅供給・雇用・医療/健康管理・福祉や地域活性化などの分野で表れる、現場のニーズと対応する政策とのミスマッチについての議論を促します。

●主催者 / 国連大学サステイナビリティ高等研究所、FUKUSHIMA グローバルコミュニケーション事業

3月16日(月) 開始時間 / 13:30 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

民間連携で進める今後の防災・復興支援活動（日本モデル）のあり方～東日本大震災での取り組みと学びから～

東日本大震災時、企業が瞬時に継続的に、多様な支援活動を展開したことのインパクトは大きく、その背景にはNPOなど非営利セクターとの連携があった。有事のみならず、平時からのこうした民間連携がもたらす可能性とは。本シンポジウムでは、高齢化する先進国において、行政や住民だけではない民間同士の連携を先取りする事例として民間防災ネットワーク活動を紹介し、今後の展望を提起する。

●主催者 / 公益財団法人日本財団、民間防災および被災地支援ネットワーク(CVN)

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

災害常襲国日本「道の駅」の果たす役割

「道の駅」は、東日本大震災において、避難所、宿泊・炊き出しの提供所、道路状況の確認拠点、自衛隊の後方支援基地など「自助・共助」の復旧・支援活動で貢献した。この動きを促進しつつ、さらに政府・自治体の「公助」と地域住民の「自助・共助」の連携を生み出し、地域防災を機能させる仕組みを「道の駅」に確立すべく、「道の駅」防災拠点化宣言を行う。

●主催者 / 特定非営利活動法人 人と道研究会

3月16日(月) 開始時間 / 9:40 14

東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室

2015 アジア太平洋地域地震火山ハザード・リスク情報国際ワークショップ

国境を越えた経済や人の行き来が進む中、地震・火山災害に対して安全・安心な社会を構築するためには、世界的に包括的で確かな災害情報の共有、リスク評価を行う必要がある。アジア太平洋地域の地震火山ハザード研究に関するこれまでの取り組みを総括するとともに、同地域における地震火山に関する今後のデータ整備、ハザード・リスク評価、国際標準化等についての国際ワークショップを開催する。

●主催者 / 産業技術総合研究所地質調査総合センター

3月16日(土) 開始時間 / 9:50 15

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

災害ロボットおよびシステムの社会への適用—適用実績と今後の課題

Robotics is becoming a powerful tool for disaster mitigation, response and recovery after its history of 50 years. This symposium introduces the record of application of robots and robotic systems to the world disasters, and discusses their challenges for the future disaster mitigation.

●主催者 / IEEE Robotics and Automation Society, Tohoku University, International Rescue System Institute, COCN Disaster Robot Project, Japan Cabinet Office ImpACT Project, JSME Robotics and Mechatronics Division TC on Disaster Robotics

3月16日(月) 開始時間 / 14:30 15

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

レジリエントな社会を実現する金融イニシアティブ～災害リスク管理や災害発生後の復興における金融の役割～

東日本大震災など近年の災害事例を踏まえ、レジリエントな社会の実現のために金融機関が果たすべき役割を議論する。民間事業者の参加と事前の予防投資を促す市場機能を活用したBCM格付融資の専門技術の紹介や、復旧・復興フェーズにおける金融の役割について事例を共有し、災害マネジメントサイクルの各フェーズで金融が果たすべき役割をについて金融機関の立場からの情報発信を行う。

●主催者 / 株式会社日本政策投資銀行

3月16日(月) 開始時間 / 10:00 16

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2

北東アジアのレジリエンス強化のための防災協力

日本・中国・韓国の3カ国は隣り合う関係にあり、自然災害が増大傾向にある昨今、防災・減災の面での協力は重要性を増している。既に市民社会のレベルにおいて協力の事例が生まれている他、政府間においても三国協力事務局が発足し、防災・減災に関する机上演習が実施されている。本イベントでは、政府間の協力の視点も踏まえつつ、同地域における市民社会レベルの協力のあり方について論じ合う。

●主催者 / 創価学会インタナショナル

3月16日(月)	開始時間 / 17:30	16
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2		
沖縄県観光危機管理への取組		
<p>観光地としての安心・安全を確保するという課題に対応するため、市町村、地域観光協会、観光業界等と連携して、観光危機管理に関する先導的な取組を実施し、県内各地に波及、拡大を図ってきた。平成23年から3年間の地域支援および今年度策定予定の沖縄観光危機管理基本計画(仮称)について、紹介する。</p>		
●主催者 / 沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課		

3月16日(月)	開始時間 / 9:00	17
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3		
民間部門の防災力強化に向けた地域間の取組み		
<p>近年の巨大災害により、企業の被災は、地域の経済社会に甚大な影響をもたらすだけでなく、世界規模での経済活動の途絶につながることから、BCPの策定等民間部門の防災力強化の取組みが活発化している。このため、企業関係者や専門家から、災害と民間部門への影響とその対応、各災害フェーズにおける民間部門の取組み、リージョナルレベルでの協力等に関する優良事例を報告する。</p>		
●主催者 / アジア防災センター(ADRC)		

3月16日(月)	開始時間 / 13:00	E 17
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3		
苦しみを持続可能なチャンスに変えるー災害復興のためのモジュール工法		
<p>MCfDR (Modular Construction for Disaster Recovery) is a regional big-scaled stockpile of modern pre-fabricated housings, schools, clinics and other community facilities, that upon a disaster could be shipped and constructed on site rapidly, saving suffering of relocated populations. During the event the audience will be exposed to the main components of the MCfDR framework: Financing and Business, Contingency and Preparedness, Operations (Design, Fabrication, Logistics and Shipment), Knowledge Transfer and Training and Construction and Housing. Mapping of the different stakeholders and a "What next? discussion" will close the event.</p>		
●主催者 / Orchestrate & Go LTD.		

3月16日(月)	開始時間 / 10:00	18
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 5		
活断層を知り災害に備える		
<p>世界の活断層研究をリードする研究者が、活断層とは何か、どのような災害をもたらすか、について、世界の豊富な事例を紹介しつつ解説し、活断層調査研究を通じた地震災害の軽減についての国際的な理解を得る。</p>		
●主催者 / 日本活断層学会		

3月16日(月)	開始時間 / 13:30	18
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 5		
『東日本大震災の教訓を次世代へ』 - 地域住民と公務労働者との連携を検証 -		
<p>公共サービスで働く職員を各分野で組織する労働組合が、阪神淡路大震災から東日本大震災までの経験と教訓をもとに、住民と協働して地域の防災力を高めるためになにができるのか? シンポジウムなどでさまざまな角度から意見交換を行い考える。また、海外の公共サービス部門労働組合の参加も得て、各国の災害と復興の経験の交流をはかる。</p>		
●主催者 / 国際公務労連加盟組合日本協議会		

3月16日(月)	開始時間 / 9:20	19
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 6		
集中(ゲリラ)豪雨への減災対策について		
<p>近年、各地で被害が増加している集中(ゲリラ)豪雨。めまぐるしく変わる気象状況をより正確に捉えるため、ウェザーニューズ社が提供する気象データ、仙台市が提供するデータと水ing全国300数十カ所の管理事務所の気象状況を集約・共有することで得られるデータを相互利用することにより、人的被害、水インフラ設備被害を最小限に抑える減災システムを本フォーラムを通じて構築していきたい。</p>		
●主催者 / 水ing株式会社		

3月16日(月) 開始時間 / 14:00 19

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 6

雷害のリスクと総合的な雷対策

近年、公共施設が落雷によって被害を受ける事例が増えており、雷害リスクに対する対策が急務になっている。本イベントでは、地震や津波等と比較してまだまだ危機意識が浸透していない落雷や雷害の現状、実地調査に基づく防災行政無線や学校における落雷被害の実状と対策、企業などにおいても必要不可欠な事業継続計画やプレ・リスクマネジメントとしての総合的な雷害対策について紹介する。

●主催者 / 雷害リスク低減コンソーシアム

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 19

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 6

大震災の経験に学び、防災・復興のあり方を考える

被災者の基本的権利を軸に、被災地、被災者の置かれた状況の分析を基に、人間復興の政策的課題を提起する。

●主催者 / 日本科学者会議地震津波復興研究委員会

3月16日(月) 開始時間 / 14:00 20

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 7

東北地域における産業・社会の復興

地域産業復興支援プロジェクトは、復興過程において地域の産業・社会が抱える課題抽出と解決策の提案を行う調査研究とイノベーションを興し事業創出ができる人材育成に取り組んでいる。本イベントでは、震災後から継続してきた東北地域の基幹産業の復興状況に関する調査研究、および地域企業の経営人材を対象にした革新的プロデューサーの育成を目指す塾の取り組みについて報告する。

●主催者 / 東北大学大学院経済学研究科地域イノベーション研究センター

3月16日(月) 開始時間 / 9:30 27

仙台市情報・産業プラザ (AER 内) 多目的ホール (5階)

国際シンポジウム 「文化遺産と災害に強い地域社会」

この国際シンポジウムは、第3回国連防災世界会議で採択されたポスト2015年防災行動枠組に基づきながら、文化遺産防災を今後どのように推進し、災害に強い地域社会の構築に役立て得るかについて展望することを目的としている。

●主催者 / 独立行政法人国立文化財機構、文化庁、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)、文化財保存修復研究国際センター(ICCROM)

3月16日(月) 開始時間 / 14:20 27

仙台市情報・産業プラザ (AER 内) 多目的ホール (5階)

東日本大震災の経験・教訓を踏まえた防災への取り組み

公益社団法人経済同友会と仙台経済同友会によるタイトルをテーマとした基調講演とパネルディスカッションや会場参加者との質疑応答を実施します。

●主催者 / 公益社団法人経済同友会、仙台経済同友会

3月16日(月) 開始時間 / 10:00 28

仙台市情報・産業プラザ (AER 内) セミナールーム (2) (6階)

「重層的な津波避難対策の展開」シンポジウム

仙台市では東日本大震災を踏まえ、「津波避難施設の整備に関する基本的考え方」をまとめた。この方針に沿って津波避難タワー等の整備をすすめ、併せて地域の避難ルールづくりや避難訓練を実施している。これらハード・ソフト両面からの検討・実践を紹介する。また、避難訓練モデル化事業や、新たな避難・安否情報配信ツール「緊急津波避難情報システム」等を、統合的にシンポジウム形式で発信する。

●主催者 / 仙台市(防災都市推進課)、東北大学災害科学国際研究所、河北新報社、電通グループ、東北地域づくり協会

3月16日(月) 開始時間 / 13:10 E 28

仙台市情報・産業プラザ (AER 内) セミナールーム (2) (6階)

歴史都市防災シンポジウム仙台「東日本大震災に学ぶ歴史都市防災まちづくりへ向けて」

歴史都市防災研究所で行ってきた①南三陸町の復興調査、②文化財の被害調査と地図化の成果、③避難所となった社寺の調査、また国際比較として④インドの地震復興調査を事例に、国内外の研究者や市民とともに、地域に身近な文化遺産が災害復興やその過程において果たした役割について討議する。当該分野の研究者および東北地域の市民双方にとって有意義な情報共有の機会とすべく開催を企画する。

●主催者 / 立命館大学歴史都市防災研究所

3月16日(月) 開始時間 / 17:45 28

仙台市情報・産業プラザ (AER 内) セミナールーム (2) (6階)

東日本大震災における高速道路早期復旧と災害対応力の更なる強化

高速道路の復旧スピードに国内外から多くの驚きと称賛の声を頂いた東日本大震災での迅速な災害復旧は、どのようにして成し得たのか。発災から復旧までの軌跡を紹介するとともに、東日本大震災の経験と教訓を踏まえた災害対応力のさらなる強化の取り組みなどについて報告する。

●主催者 / 東日本高速道路株式会社

3月16日(月) 開始時間 / 9:30 29

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール A (21 階)

人々と生活、津波に負けない建物とまち～建築物を活用した津波減災対策を考える～

東日本大震災での津波被害を調べてみると、津波に抵抗して残存した建物も多いことが分かった。このことは建築物を津波減災対策に十分活用できることを示している。今回の、この教訓をベースにして、建築物を活用した津波減災対策の方法を具体的に示す。合わせて、世界を津波から救うための方法を探る。

●主催者 / 東日本大震災の教訓を後世に残すことを考える勉強会

3月16日(月) 開始時間 / 14:45 29

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール A (21 階)

東日本大震災の経験と教訓を世界へ

大規模災害などの際に適確な対応を行うために社会資本分野ではどのような「備え」をしておくべきか、東日本大震災から得た初動対応の教訓をどのように生かしていくべきなのかを、国土交通省東北地方整備局などにおける対応を中心に論議し、国内外で共有すべき知見を明らかにしていく。

●主催者 / 国土交通省東北地方整備局

3月16日(月) 開始時間 / 9:30 30

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール B (21 階)

「防災と宗教」シンポジウム

東日本大震災の対応において宗教者は、避難所の提供やコミュニティ再生、心のケア、地域防災計画の策定等、多様な取り組みを行っている。本シンポジウムは、広く国内外の市民の皆様と共に、こうした災害時における宗教者の取り組みについて学び、その意義や役割、また市民・行政等との連携のあり方について考え、今後の「防災」について、宗教者による新たな視座を提起することを目的としている。

●主催者 / 「防災と宗教」シンポジウム実行委員会

3月16日(月) 開始時間 / 14:30 30

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール B (21 階)

東日本大震災からの多重防御によるまちづくり

多重防御とは、ハード整備とソフト対策が一体となって災害レジリエンスを高めるもので、宮城県が目指す『創造的復興』の中核をなすものである。これらは、最新の技術に基づく被害予測に加え、歴史的、地理的な要素を考慮しながら慎重な検討により生み出された「総合防災対策」であり、今回、この多重防御の考え方を全世界に発信することで復旧復興に邁進する『いまの宮城』を伝える。

●主催者 / 宮城県、東北大学、一般社団法人建設コンサルタンツ協会

3月16日(月)

開始時間 / 9:30

31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30 階)

スポーツの持つ計り知れない可能性を信じて — 日体大のできることを、なさねばならないこと —

東日本大震災後、本学では延べ1,100名の教職員、学生が、スポーツを通じた復興支援を実施。その活動について報告する。

また、1992年、中米ニカラグアの地震で国際緊急援助隊として派遣されて以来、20年以上、途上国での災害緊急医療に携わってきた本学朝日茂樹保健医療学部救急医療学科長による講演と、パネルディスカッションを実施し、支援活動の今後について課題を明らかにしていく。

●主催者 / 日本体育大学

3月16日(月)

開始時間 / 13:30

31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30 階)

日本の事業継続マネジメントの現状と今後 ～ 東日本大震災も踏まえて～

第一部では、東日本大震災などの教訓を活かした企業の事業継続マネジメント(BCM)の導入・改善の国内外での取り組み、政府のガイドラインの改定等による普及の取り組みについて、講演、事例報告等により発表する。第二部では、事業継続推進機構によるBCMの優秀な取り組みへの表彰制度「BCAOアワード」の今年度受賞者を表彰し、受賞企業による優れた取組内容の発表を行って、世界に向けて発信する。

●主催者 / 特定非営利活動法人 事業継続推進機構、東北大学災害科学国際研究所

3月16日(月)

開始時間 / 9:30



32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30 階)

防災集団移転と新たな街づくり～スマートコミュニティを軸とした新たな地域づくりと課題～

大規模自然災害に伴う新たな街づくりを進める中、ICTを活用したスマートコミュニティを1つの軸に据えながら、地元主体の地域再生や防災力強化、地域福祉との連携、政府によるサポート、そして経営的視点を加味した持続的なエリアの発展に向けた取り組みを報告するとともに、政府機関、地元大学、タウンマネジメント事業者などによる課題とその解決に向けた議論を通して震災で得た知見の共有を図る。

●主催者 / 仙台市(エネルギー政策室)

3月16日(月)

開始時間 / 15:00



32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30 階)

耐災害 ICT 研究シンポジウム — 災害に強い情報通信技術の構築に向けて —

災害に強い情報通信技術をテーマに、耐災害ICT研究センターおよび産学官連携による耐災害ICT研究協議会の活動や将来展望を紹介する。発表内容には、災害時にも柔軟に対処できる有線・無線ネットワーク技術、迅速かつ的確に情報を提供するための情報配信技術、被災地で通信ネットワークを構築する技術、障害者などへの災害情報伝達技術を含み、アジアを中心に国際的な防災分野のICTの活用について議論する。

●主催者 / 独立行政法人情報通信研究機構耐災害ICT研究センター

3月16日(月)

開始時間 / 9:45

33

仙台市シルバーセンター 交流ホール

大規模災害の発生に備えた災害廃棄物 対策への取組

東日本大震災による災害廃棄物処理の経験を通して、日本は円滑かつ迅速な処理に必要なノウハウを蓄積した。これらの知見を踏まえ、環境省では、全国単位、地域ブロック単位での連携による大規模災害発生時の災害廃棄物処理体制の構築等に向けた検討を進めている。本シンポジウムでは、過去の経験を踏まえ、国や地方自治体による今後の取組や課題について紹介する。

●主催者 / 環境省

3月16日(月)

開始時間 / 18:00



34

仙台市シルバーセンター 第一研修室

福島県医大の原発事故への対応と事故 後の福島県民の健康

世界の防災当局者などに対し、福島県立医科大学が原発事故直後にどのように対応したか、その後の福島県民健康調査においてどのような中間結果が出ているかを説明する。

●主催者 / 福島県立医科大学

3月16日(月) 開始時間 / 14:00 35

仙台市シルバーセンター 第二研修室

環境・原発災害と防災に関するシンポジウム

東日本大震災と福島原発事故は、環境と防災に関して、復元力のあるコミュニティの建設と、維持可能な社会の構築のためにどのような政策的転換が必要なのか、新たな社会科学的問題・諸論点を提起している。3.11後の福島県や宮城県での現地調査を基に、被災者・市民・NGOの視点から政策的課題群を検討する。シンポジウム主体で、調査結果や活動内容について、展示ブースも活用する。

●主催者 / 東北大学 文学研究科

3月16日(月) 開始時間 / 9:15 36

東北大学川内北キャンパス マルチメディアホール

レジリエント・コミュニティ—私達の住まい、私達の地域、私達の復興—

世界各地でUNHABITATが進めてきた居住環境支援活動を紹介するとともに、関連する地方自治体、NGOの活動報告により、経験を共有する。また学術的な観点からの知見を現実の都市にどのように活かしていくのかを議論する。そして、HFA2が先導する今後の地域支援のあり方、レジリエントな都市の形成、そして居住環境をつくっていくことにより形成される人間同士のつながりについて議論を展開していく。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月16日(月) 開始時間 / 14:00 36

東北大学川内北キャンパス マルチメディアホール

EUによる政策の実践—イノベーション、融資および地域の準備

The European Union is developing ambitious policies and programmes on disaster risk reduction and resilience. Tools, actions and innovative approaches will be showcased. This includes risk assessment, cross border cooperation, data collection and sharing, early warning, indexes to support common analysis of the risks faced by vulnerable communities, governance tools, ecosystem-based approaches etc.

●主催者 / European Commission

3月16日(月) 開始時間 / 9:00 37

東北大学川内北キャンパス A106

Towards disaster resilience: reduction of risks from technological accidents triggered by natural hazards (Natech)

The last years set a record in the number of natural disasters accompanied by major damage to industrial facilities and other infrastructures housing hazardous materials, e.g. nuclear power plants, chemical facilities, and oil refineries. The resulting fires, explosions and toxic releases so-called Natech accidents have often had significant social, environmental and economic impacts. Examples include the floods in Thailand and the Tohoku earthquake and tsunami in 2011, the Wenchuan earthquake in 2008, and Hurricane Katrina and Rita in 2005. These events cast doubt on the adequacy of the design basis of hazardous installations and the protection measures taken with respect to natural-hazard impact. They also brought into question the capability to provide appropriate response during a simultaneous natural disaster and a nuclear or chemical accident. Similarly, they raise the question of whether disaster risk reduction and management frameworks adequately address the issue of technological hazards. In this context, the multiple Natech accidents after the Tohoku earthquake and tsunami are instructive because they occurred in one of the best prepared countries. The Natech risk is increasing because of more hazards (climate change, growing industrialization) coupled with a higher vulnerability of society (community encroachment on exposed areas, interdependencies). One of the main concerns is how to reduce this type of risk, making it necessary to revisit existing expertise and practices in risk assessment and emergency-response planning at industrial facilities and in potentially affected communities. Dedicated measures for Natech risk reduction are required at national and local levels, at policy and practical level.

●主催者 / European Commission JRC, DPRI, UNEP/OCHA JEU and ADPC

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 37

東北大学川内北キャンパス A106

条例執行機関の強化における経験と教訓に関するシンポジウム

Most cities in developing countries face very high levels of earthquake risk, which is increasing continuously. Many cities have been trying to initiate the building code enforcement systems and have gathered significant experience and positive signs on the feasibility. Proposed symposium will bring the experience of building code implementation from several municipalities in developing countries.

●主催者 / National Society for Earthquake Technology - Nepal (NSET)

3月16日(月) 開始時間 / 13:30 39

東北大学川内北キャンパス A205

災害に対するレジリエンスの実現—開発パートナー政策および活動における進歩

The event will examine how policies and practice of selected development partners have evolved over the life of the HFA. It will showcase success stories; discuss progress in integrating disaster and climate risk considerations in regular operational procedures and development investments; and highlight lessons learned and future directions to ensure successful implementation of HFA II.

●主催者 / Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit (GIZ) GmbH in joint cooperation with Asian Development Bank (ADB)

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 **E** 39

東北大学川内北キャンパス A205

UNV エンゲージメント (関与) の力: ポスト2015年アジェンダを考慮したボランティア活動と防災

People's well-being is UNV's ultimate goal. In the last decade, almost one million people have been killed by disasters and more than one trillion dollars have been lost. Yet only 1% of international aid is spent to minimize the impact of these disasters. Every dollar invested in disaster preparedness saves seven dollars in disaster aftermath. The event will further elaborate on these different topics.

●主催者 / United Nations Volunteers (UNV) programme

3月16日(月) 開始時間 / 9:45 40

東北大学川内北キャンパス B101

レジリエンス・ワークショップ～しなやかな防災・減災を実現する科学技術と社会実装～

災害からの回復力を科学技術・人文科学・医学の観点から捉え、産官学の研究者によるレジリエントな社会を実現するための防災・減災に関する調査・研究成果の紹介と将来への提言を行うとともに、科学技術の重要性 / 技術の専門家と一般市民の理解のギャップについても議論を交わす予定である。また、口頭で発表を補完するために、津波シミュレーションやロボカップレスキューなどのデモも予定している。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所、東北大学流体科学研究所、日本アイ・ピー・エム(株)東京基礎研究所

3月16日(月) 開始時間 / 9:00 **E** 41

東北大学川内北キャンパス B102

30 years of the National System of Civil Protection in Mexico

Creation, evolution and actions of the National System of Civil Protection

●主催者 / SEGOB-CNPC

3月16日(月) 開始時間 / 13:30 41

東北大学川内北キャンパス B102

巨大災害に対する保健医療の備え

災害に強い健康な社会を構築するためには、①政策提言や行動枠組、②災害弱者への対応と備え、③メンタルヘルスと地域社会、④インフラとロジスティックス、⑤医療従事者と地域社会の教育と訓練のそれぞれを融合的に推進することが大切である。ここでは災害に強い地域社会と人々の健康を守るためにはどのような備えと工夫が必要かについてシンポジウムとワークショップを行う。避難所運営ゲームのワークショップにはどなたでも参加できる。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月16日(月) 開始時間 / 9:15 **E** 42

東北大学川内北キャンパス B103

GAR15 Global Risk Assessment

Since 2011, UNISDR has spearheaded a multi-hazard Global Risk Assessment in partnership with leading scientific and technical organizations from around the world. The objective of this work is to provide comparable open-access disaster risk metrics across countries and hazard categories with a relatively coarse-grain resolution as a means of raising risk awareness. This fills a major gap in understanding risk. Most probabilistic risk assessments have been developed commercially for the insurance industry and cover specific risks, mainly in higher-income countries. However, they are rarely accessible and are based on proprietary models. While more and more public-domain risk models are now being developed, the use of different methodologies and data sets makes comparison difficult. In the UNISDR-led assessment, probabilistic hazard models have been developed for earthquake, tropical cyclone wind and storm surge, tsunami and river flooding worldwide, for volcanic ash in the Asia-Pacific region and for drought in parts of Africa. A global exposure model for the built environment has been developed at a 1kmx1km resolution along coastlines and 5kmx5km elsewhere. Appropriate vulnerability functions have been used on the basis of expert knowledge in each region. The impact of climate change on wind hazard in the Caribbean and on drought in Africa has also been modelled. The open-source multi-hazard risk platform CAPRA is used to calculate risk. During this session, at first, the technical partners will present on each component of this global risk assessment, as well as insights to challenges faced, gaps in data and research, and what they believe should be the future of each component of global risk assessment based on this experience. Summary of risk results as well as information on dissemination of data sets and models will be part of this session. The second part of the session will be focused on use and users of global risk assessment.

●主催者 / UNISDR

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 **E** 42

東北大学川内北キャンパス B103

災害の先を思い描く 若者用ツールキット

This event introduces the development of the Looking Beyond Disaster Youth Forums initiatives by the New Zealand National Commission for UNESCO, UNESCO in partnership with youth organisations, universities and Christchurch authorities, which was started in response to the major earthquake in Christchurch, NZ in 2011. From the series of forums 2012-2013, a toolkit has been developed to enable more young people to become involved.

●主催者 / UNESCO

3月16日(月) 開始時間 / 18:00 E 42

東北大学川内北キャンパス B103

統合的かつレジリエントなデルタ管理に向けて国際同盟を構築

Nowhere on Earth are water related challenges more pressing than in river deltas. There's fertile soil and cities bustling with invaluable human and economic activity, all enabled by water. Water makes the delta prosperous and is a main driver for development. But that same water poses many risks: flooded river banks and coast lines can have devastating effects, just like intense rainfall and long periods of drought. Continuous urban development in the river deltas is increasing the risk in terms of human and economic losses. Within this side event various experiences on innovative flood defense mechanisms and public-private funding of resilient public water management systems are shared and strengthened through closer cooperation with countries facing similar challenges to the Netherlands by means of starting an alliance of delta-countries. The successful outcome of this meeting would be the establishment of a joint "commitment" through the delta approach, to build an alliance of delta countries and to share experiences and "best practices" for the coming 15 years and to use this alliance to implement the Sendai framework for action, with a strong focus on prevention and reduction of water related disasters in deltas. Within this side event various experiences on innovative flood defense mechanisms and public-private funding of resilient public water management systems are shared and strengthened through closer cooperation with countries facing similar challenges to the Netherlands by means of starting an alliance of delta-countries. The successful outcome of this meeting would be the establishment of a joint "commitment" through the delta approach, to build an alliance of delta countries and to share experiences and "best practices" for the coming 15 years and to use this alliance to implement the Sendai framework for action, with a strong focus on prevention and reduction of water related disasters in deltas.

●主催者 / Dutch Ministry of Foreign Affairs and Dutch Ministry of Infrastructure and Environment

3月16日(月) 開始時間 / 9:45 E 43

東北大学川内北キャンパス B104

Building Resilience to Disasters and Climate Change for Sustainable Development in the Pacific

The side event will share the experiences and lessons learned from the Pacific Region to jointly address and take integrated measures to climate and disaster risks and showcase the development of the Strategy for Climate and Disaster Resilient Development (SRDP) – the first regional strategy to fully integrate disaster risk reduction and climate change into a single overarching policy framework. Pacific island countries and territories have already made considerable progress in implementing integrated approaches in managing disaster and climate risks that have occurred with respect to policy making, planning, implementation and institutional strengthening, among others. It is highly expected that this approach will not only reduce geophysical risks, but will also bring socio-economic benefits critical for sustainable development. Participants of the side event are expected to bring their global experiences to provide inputs and at the same time, take home good practices from the Pacific that will be useful in strengthening their disaster and climate risk resilience.

●主催者 / Secretariat of Pacific Regional Environment Program (SPREP), Secretariat of Pacific Community (SPC), United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNISDR)

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 E 43

東北大学川内北キャンパス B104

水害を免れたパリ

Paris under water like in 1910 A major flood of the Seine River could affect up to 5 million people and cost up to 30 billion euros according to a new OECD report. Come to discover how stakeholders plan to manage such a disaster!

●主催者 / French Ministry of Ecology, Sustainable Development and Energy

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 E 43

東北大学川内北キャンパス B104

Human Rights and Disaster Reduction

The symposium will include short presentations on the fundamentals of human rights and how they apply to questions of disaster risk reduction, response and recovery. Short case histories will demonstrate how a rights-based approach can help resolve conflicts, guarantee due process, ensure equity and motivate people to participate in DRR. A panel discussion will examine the state of human rights in the world, in relation to disaster vulnerability, and how improvements in a country's human rights record can be transformed into improvements in its ability to reduce the risks and impacts of disaster. Human rights are particularly important to minorities and people who have been marginalized or ill-treated. The threat or impact of disaster should not be used as an excuse to abandon a country's commitment to fairness and upholding rights: indeed, overcoming the problems caused by disaster requires a renewed commitment to guaranteeing people's rights. Audience discussion and questions will be facilitated with the panel discussion in order to create an open forum on the topic. The symposium will cover the application of human rights to DRR policy, emergency response and recovery. Topics will include rights and disadvantaged people, marginalized groups, migration, and redress for infringement of rights in disaster. The Universal Declaration of Human Rights forms the basis of entitlements and basic equity in DRR.

●主催者 / University College London

3月16日(月) 開始時間 / 9:15 E 44

東北大学川内北キャンパス B200

災害科学国際研究所地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門-津波リスク研究と防災啓発活動-

2011年東日本大震災をきっかけに、東北大学災害科学国際研究所では、2012年の開所当初から東京海上日動の寄附を受け、地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門を設置し、産学連携研究を通じて強靱なコミュニティづくりを推進。本イベントでは、①地震津波リスク研究、②津波避難研究、③防災教育・啓発活動などの3年間の研究成果を、主に教授陣の講演形式で発表する。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 E 44

東北大学川内北キャンパス B200

災害課題の解決と被害軽減に役立つ保険

ジュネーブ協会は、これまで研究者等と連携し、巨大災害と気候リスクに関する知見を蓄積してきた。本イベントでは、国際機関、産業界、研究者、NPO等を集め、自然災害に関する最新知見を共有・論議する半日間のセミナーを開催し、被災地仙台から、保険・リスクマネジメントを通じて自然災害の問題解決と被害軽減を図り、強靱な社会づくりに貢献し続けていくことを発信する。

●主催者 / ジュネーブ協会、東京海上日動火災保険株式会社

3月16日(月) 開始時間 / 9:00 (E) 45

東北大学川内北キャンパス B201

レジリエンスのための女性による草の根イノベーションの拡大

The Community Resilience Fund has been a successful financial mechanism run by organized groups of grassroots women members of the Huairou Commission, to implement and scale up community based innovations and practices to build climate and disaster resilience at the local level. It has been implemented in 21 countries in Asia, Africa and Latin America.

●主催者 / Huairou Commission

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 (E) 45

東北大学川内北キャンパス B201

貧しく脆弱な家庭を災害による経済ショックから守る：社会リスク管理の役割

This seminar will explore the synergy between the Social Protection and Labor (SPL) system (consisting of Social Safety Nets, Social Insurance, Pension, Labor, Employment, Job, and Social Welfare) using Japan and a developing country as examples. Natural disasters and climate change can push people into chronic and transient poverty and force them to adopt negative coping strategies. SPL programs protect poor and vulnerable people from these impacts and reduce their exposure and vulnerability by mitigating the economic and social impact of disasters. Social investment funds and public works programs have played a vital role in post-disaster reconstruction and livelihood protection (see the cases of Hurricane Mitch in 1998 in the Central America as well as the draught and floods that hit Tanzania in 2008). In Ethiopia, the Productive Safety Nets Program also shielded poor households from the impact of droughts as well as the Food Fuel and Financial Crisis of 2008-2010. Bolsa Fam?lia Program provided in-kind and cash benefits to 162,000 families in 279 municipalities within 10 days of the floods that ravaged Brazil in January 2011. In recent years, some SPL programs, such as Pakistan's Citizens' Damage Compensation Programme have been established specifically to mitigate the economic impact of floods. Economic and social considerations remain the main factor determining the impact of disasters although improved detection, prediction, construction standards, disease controls etc. could certainly help manage disaster risks better. For this reason, it is critical to ensure the integration of Social protection and labor systems with disaster risk management.

●主催者 / World Bank - GFDRR

3月16日(月) 開始時間 / 15:00 (E) 45

東北大学川内北キャンパス B201

Scoping Workshop for an Open Data for Resilience Platform & Launch of the Challenge Fund

The event will be divided into two parts. 15:00 – 17:30: A user needs workshop for the Open Data for Resilience Platform scoping project will be held. The workshop aims to convene developing country decision makers to discuss the gaps and challenges they face in accessing risk information, and whether the development of an open platform can address some of the obstacles (Invite only). 18:00 – 18:30 GFDRR and DFID will launch the Challenge Fund, a small grants program that seeks to address gaps and challenges to accessing and using risk information. The event will feature a key-note address by Rachel Kyte, World Bank Group Vice President and Special Envoy for Climate Change Group (Open event).

●主催者 / World Bank - GFDRR

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 (E) 55

東北大学川内北キャンパス B202

Using each other's strengths: How can (national) civil, military and private parties effectively build and maintain cooperation for disaster risk reduction?

Being prepared is a truism nobody will deny. How to do that effectively and efficiently with a large range of partners is however not so clear. Crisis and disasters require intensive cooperation between a wide range of (national) parties, such as emergency services, governmental agencies, the military, private sector, including ngo's, business, communities. If any, preparedness activities undertaken are often discrete, rather than based on continued comprehensive interaction between the parties. How can we build and maintain continued interaction? What training models are available to exploit mutual interaction and build cooperation? In order to enable rapid mobilization, how can we get a better insight into availability of capacities, including the type of conditions and circumstances of use, and the cost of deployment and sustainability. How can we build a clear understanding how to apply the available resources? In this context an issue is how can (national) civil and military institutions effectively partner to prepare to reduce risks? This cooperation is most successful when based on realistic understandings of the different actors' mandates, capabilities, and limitations. In the face of natural disasters the use of the military is widespread and accepted by government and citizens. Rather than just a 'last resort' military experiences and knowledge could be to involve in preparation as well as in mitigation analysis. In the session, diverse perspectives on building cooperation and the use of exercises are brought together. Presentations will provide examples of exercises to build effective interaction in a crisis context, such as water floods.

●主催者 / The Netherlands Organisation for Applied Scientific Research - TNO, partnering with international civilian institutions (UNISDR)

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 (E) 55

東北大学川内北キャンパス B202

積極的な民間セクターの関与：レジリエンス構築におけるパラダイムシフトの必要性

Typically poor are the most vulnerable in the face of disasters due to their high level of exposure to the environment. The manifestation of urban poverty is often more appalling than that of rural poverty due to lack of social safety nets, hazardous habitats, highly risky work environment in informal sectors, very poor-quality housing, sanitation, water and personal safety, and many other reasons. The changing climate condition calls for a shift in our ways-of-working as the world will change the way we know it today. To prepare for the worst, communities and government need to become more resilient i.e. should have mechanisms to adapt, absorb and ability to response to forthcoming climatic extreme events. Investing in risk reduction during reconstruction and active engagement of multiple stakeholders in particular private sector is very important to collectively face this vast challenge. Islamic Relief has realized the need for both from its experience in post Typhoon Haiyan efforts in Philippines and other countries such as Bangladesh and Pakistan in the region. Through a pilot initiative, Islamic Relief is trying to build cases of good urban governance and successful private sector engagement in building community resilience during reconstruction and development interventions. Strategies adopted by Islamic Relief are aimed to offer wide range of partnership opportunities with private sector in order to ensure sustainable outcomes for the local communities. This platform is an excellent opportunity for us to showcase our good practices and lessons learnt which will prove to be an important resource to promote role of private sector in risk reduction.

●主催者 / Islamic Relief Worldwide, Philippines

3月16日(月) 開始時間 / 10:00 (E) 46

東北大学川内北キャンパス C101

Effective Implementation of Recovery Plans and Programs: Bridging academic findings and country experiences

Post-disaster recovery is unquestionably the most complex disaster management function. To ensure effective implementation, this complexity needs to be fully understood and addressed. The recovery timeframe is measured in years or even decades and requires capital outlays that can match and even exceed national GDP. Moreover, the success of a recovery effort hinges upon the availability of and access to skills and resources from a remarkably diverse community of stakeholders. Disasters significantly disrupt lives and livelihoods, stunt or even stall economic and social development, and inflict long-lasting physical and psychological damage, to name a few of the many possible impacts. The challenges encountered by affected communities and countries as they sustainably and equitably rebuild what was lost and realign their development trajectory are monumental. Bridging academic findings and country experiences on recovery processes and operations can be one of the options to help facilitate effective implementation of recovery plans and programs. There exists no shortage of data to show that inadequate or misguided recovery actions, even when driven by the best of intentions, results in unnecessary suffering and long-lasting detrimental effects for those impacted. At the same time, there are several examples where the presence of the skills, structures, and leadership applicable to the complex recovery task enabled an efficient and effective recovery. Such examples verify the need for greater attention on recovery capacity development as the international community transitions from the Hyogo Framework for Action (HFA) to the Post-2015 Framework for Disaster Risk Reduction.

●主催者 / International Recovery Platform

3月16日(月) 開始時間 / 14:00  E 46

東北大学川内北キャンパス C101

Actions on Engaging Private Sector in Recovery: Ensuring greater impacts of recovery programs at the community level

The prominent role of the private sector in disaster risk management is one most businesses are only just recently starting to appreciate. Businesses are important and influential components in the communities where they operate, and their collective ability to prepare for, respond to, and recover from disasters can bring about dramatic shifts in a community's disaster resilience. Businesses are much more than the facilities that contain them or the equipment they require to carry out their work. For the communities where they operate, businesses represent a source of jobs, tax revenue, civic vitality, and a general sense of identity. But for these very same reasons, businesses also represent a significant source of vulnerability in disaster-impacted communities. Businesses are exposed to the same damaging consequences that citizens, schools, or any other entities. An inability of businesses to survive a disaster, therefore, puts the whole community's economic and social well-being in jeopardy. This session explores different actions on engaging private sector in recovery processes and operations. For instance, businesses reduce their vulnerability to the impacts of unforeseen events, including major emergencies and disasters, by conducting business continuity planning (BCP). This determines what solutions exist to either eliminate or reduce the risk and formulate plans and procedures to ensure that critical business functions may be maintained or resumed in the event of an emergency or disaster (whether of internal or external origin). Several strategies and options will be discussed.

●主催者 / International Recovery Platform

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 E 46

東北大学川内北キャンパス C101

健康と人権：原子力事故に関する疑問

This event expects to share common research works of physicians and lawyers about the medical management of nuclear accidents. A comparison between several emergency plan will show the necessity to improve- the post management of the disaster in relation with evacuation, zoning and recovery issues.

●主催者 / Centre International de Droit Comparé de l'Environnement (CIDCE) / International centre of comparative environmental law

3月16日(月) 開始時間 / 9:00 E 47

東北大学川内北キャンパス C102

健康と大規模災害—レジリエンスへの効果的なあらゆる危険に対するアプローチ

Despite the centrality of health to disaster risk reduction, response and recovery, health and disasters are still approached separately with minimal interaction. This results in a breakdown of the "whole of government" approach as evidenced in recent Ebola responses. Using case studies and innovations participants will examine realistic, country-specific actions that can be immediately applied.

●主催者 / Center for Disaster and Humanitarian Assistance Medicine (CDHAM)

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 E 47

東北大学川内北キャンパス C102

Enhancing Disaster and Climate Resilience in Asia's Key Tourism Destinations

Tourism contributes a significant portion of national income and employment in many developing countries in Asia. However, these localities are often also the sites of multiple natural hazards that can have an effect steep in tourist arrivals and revenues as well as damage critical infrastructure for the industry. Resilience to natural disasters and long-term climate change is paramount in local tourist locations for economic, social and humanitarian reasons. The Earth Observatory of Singapore and R3ADY Asia-Pacific are developing a regional program that enhances the resilience of tourism destinations in Asia by building on current efforts like the Hotel Resilient certification, undertaken by UNISDR, GIZ and others, and the Tsunami Ready program, undertaken by the Bali Hotels Association and others. The regional program aims specifically to develop a detailed methodology - the Resilient Tourism process - of how to work collaboratively with stakeholders to: 1. Map and assess location-specific disaster and climate risks, integrating the best available local knowledge and science 2. Revisit and upgrade existing disaster risk management plans and identify gaps in current capacity and infrastructure preparedness 3. Develop tangible action and financial plans to enhance local destination resilience 4. Mobilize resources (financial and human capital) to provide implementation governance to close the resilience gaps 5. Create effective policy change to sustain long-term resilience efforts

●主催者 / Earth Observatory of Singapore

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 E 48

東北大学川内北キャンパス C105

Capacity Development for implementing Cities Resilience Action Plans

Urban risk is continually increasing. It has been estimated that, more than 50 per cent of the world's population is living in urban areas. Urbanization is taking place at an unprecedented rate. In the next 20 years, the world's population is predicted to increase by an additional two billion. By 2030 more than 60% of the world's population is expected to live in cities, with record concentrations in large urban conglomerations and megacities in the developing world. Vulnerability of cities to disasters is on the rise especially as poor people settle in high-risk urban areas. Unfortunately, planning and development of cities has given little consideration to the consequences of hazards such as earthquakes, hydro-meteorological risks and others. The implication of this reality is the need for countries to focus their collective energies to create a safer world for urban dwellers and develop a series of innovative approaches to meet this challenge. In this regard, building resilience and adapting to climate change is crucial for cities and local government. Efforts to build resilience in cities can benefit from integrating disaster risk reduction and climate change adaptation with existing efforts in disaster risk reduction and other similar planning processes.

●主催者 / UNISDR

3月16日(月) 開始時間 / 9:30 E 49

東北大学川内北キャンパス C106

Strengthening Capacities for Effective Risk Management in the Arab Region

An increasingly credible and robust body of scientific evidence points to a rapidly changing risk landscape in the Arab region which will pose extraordinary challenges to food security over the coming decades. This includes a number of unfolding mega-trends and a deepening of underlying risks factors and vulnerabilities including rapid changes in demographics, challenging urbanization and large scale displacements, an increasingly high dependency of food imports and vulnerability to food price volatility, as well as drought, land degradation and structural water scarcity concerns. Climate change will act as a risk multiplier, effectively adding further momentum and exacerbating these challenges. These trends are typically characterized by a high degree of interdependency and interconnectedness and will have severe - in some cases irreversible - environmental, economic and political repercussions that is likely to affect regional and national security as well as social stability for people living in the region. Against this background, the World Food Programme, the League of Arab States, the Government of Egypt (TBC) and IFPRI will seek to host a public session during the Third UN World Conference on Disaster Risk Reduction.

●主催者 / League of Arab States / UN World Food Programme (combined submission)

3月16日(月) 開始時間 / 15:00 **E** 49

東北大学川内北キャンパス C106

DRR からレジリエンスへ土地利用に関する政府政策：地域レベルでの提案と活動

In 2013 the Province of Potenza adopted its Territorial Coordination Master Plan that outlines the development of the provincial territory and provides guidelines/support to local actors for sustainable and resilient land-use. Innovative is the implementation of resilience in territorial/urban planning conducted by a Network strategy established with the 100 Municipalities and coordinated by the Province.

●主催者 / Province of Potenza

3月16日(月) 開始時間 / 9:00 **E** 50

東北大学川内北キャンパス C200

Chile - Earthquake & Tsunami Case Study

In 2010, Chile has suffered from an earthquake and Tsunami. As a cause of this event and the limited amount of adequate alert systems more than 560 died. Due to this catastrophe, ONEMI, Chile's emergency authority has deployed eVigilo multi-channel alert and notification solutions. This event will further discuss about these topics.

●主催者 / eVigilo Ltd.

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 **E** 51

東北大学川内北キャンパス C201

**巨大災害後の復興
～人、コミュニティと計画～**

本シンポジウムでは、自然災害後の復興過程で要となる「人」「コミュニティ」および「計画」の要素に焦点を当て、巨大災害を経験した先進国(日本、アメリカ、ドイツ等)や途上国(インドネシア、フィリピン等)での取り組みについて、各国代表者から事例を共有・発信する。さらに、これらを計画学的視点から整理し、人・コミュニティを中心とした復興プロセスの枠組について探る。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月16日(月) 開始時間 / 13:30 **E** 52

東北大学川内北キャンパス C202

**風関連災害低減のための大規模施設の
必要性と有効性**

世界の激甚風水害の数は近年著しく増加しており、温暖化、気候変動などの影響で、将来さらにこの傾向が顕著になることが懸念されている。風災害低減には建物などの破壊プロセスを含んだ耐風性能等を正しく評価することが必要で、巨大台風等の極稀事象の実大実験が必須である。実大ストームシミュレータの必要性、有効性を議論し、気象災害低減のための新しい方策を提案する。

●主催者 / 国際風工学会

3月16日(月) 開始時間 / 9:00 **E** 53

東北大学川内北キャンパス C205

Ina-DRI インドネシア災害復興インデックス

The GOI has developed the world's first Disaster Recovery Index (DRI), which measures the progress of recovery in communities affected by Mount Merapi eruption in 2010 and lahar floods in 2011. The index is the result of a joint collaboration between BNPB and UNDP, which utilizes 22 variables to determine how communities are recovering from disaster in terms of restoring infrastructure, housing, livelihoods, and social structures. It would be beneficial to share DRI with the wider public and solicit inputs for the betterment of the index.

●主催者 / Badan Nasional Penanggulangan Bencana (Indonesian DM Authority)

3月16日(月) 開始時間 / 13:00 **E** 53

東北大学川内北キャンパス C205

**防災に向けた地域社会のレジリエンスの
評価**

Join us to explore the lessons the Zurich Flood Resilience Alliance partners are learning about building resilience. We hope you will come along to an energetic session to help us explore ideas and innovations to build the resilience of poor and high risk communities to the ever increasing hazard of floods.

●主催者 / Practical Action

3月16日(月) 開始時間 / 17:00 E 53

東北大学川内北キャンパス C205

異常気象に対するレジリエンス：科学と政策

An overview of the Royal Society's 'Resilience to extreme weather' report will be given and will explore the need for pre-emptive investment in building resilience; reporting of financial exposure to extreme weather; links between disasters, climate change, environment and development; and the role of scientific evidence.

●主催者 / The Royal Society

3月16日(月) 開始時間 / 13:15 54

東北大学川内北キャンパス C206

企業と市民参加によるコミュニティ・レジリエンス構築

防災分野への企業の積極的参加や、企業との連携は、防災力向上のために重要な要素である。先進国と途上国とでは、企業の防災への関わり方やその役割も異なり、多様な貢献が期待されている。このセッションでは、様々な国々の学術機関、政府、NGO、国際機関、企業から発表者を招き、防災への企業参加の事例や経験を紹介するとともに、課題を整理し、今後の連携の可能性について議論する。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月16日(月) 開始時間 / 17:30 54

東北大学川内北キャンパス C206

**災害教訓の伝承
～アーカイブとメモリアル役割とは～**

東日本大震災をはじめとする国内外の大規模災害において、膨大な記録・教訓が残されている。これらの教訓を今後起こるであろう災害に対して防災・減災対応や対策に繋げていく必要がある。展開をするために災害メモリアルも含め、海外の研究者及びアーキビストを招き、今後、災害教訓を東日本大震災の復興及び国内外に展開をしていくかを議論するシンポジウムを開催する。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月16日(月) 開始時間 / 10:00 E 54

ホテルメトロポリタン仙台 千代

**レジリエンス・ダイアログ
～災害に強い社会に向けて～**

The World Bank/GFDRR, the Government of Japan, the European Commission and USAID are hosting a special round of the Resilience Dialogue series as part of the World Conference on Disaster Risk Reduction (WCDRR). To better safeguard aid and development against disasters, this high-level dialogue will explore how to scale up and sustain funding and implementation of disaster and climate risk programs to advance post-2015 resilience goals.

●主催者 / World Bank - GFDRR

3月17日(火) 開始時間 / ポスターセッション10:30
フォーラム13:00 02

仙台市民会館 大ホール

新たな防災教育フォーラム

市立学校が東日本大震災の経験や教訓を踏まえ、保護者・地域住民・関係機関等と連携しながら取り組んできた「新たな防災教育」と「児童生徒による故郷復興プロジェクト」に関するポスターセッション(午前)とフォーラム(午後)を開催する。

●主催者 / 仙台市(教育指導課)

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 E 04

仙台市民会館 第1会議室

サイバー・フィジカル融合社会のレジリエント生活空間の創成ワークショップ

クライシスに強い社会・生活空間の創成をテーマとして、①Big Data駆動のスマート・サイバーフィジカル融合社会システム、②情報システム・サービスの常用性確保、③災害対策Resilientモバイルネットワークについて講演と議論を行う。また、①レジリエント・モバイル・ネットワーク・システム、②レジリエント社会・生活空間のためのICTシステム、③時空間を限定した災害対策個人データ管理の展示を行う。

●主催者 / 東北大学サイバーサイエンスセンター、日本学術振興会 先導的研究開発委員会「クライシスに強い社会・生活空間の創成」

3月17日(火) 開始時間 / 9:00 (E) 05
 仙台市民会館 第2会議室

ポスト 2015 「防災能力の向上：農業、林業、漁業からの教訓」

世界では、25億の人々が、農業で生活をしています。このような小規模な農家、遊牧民、漁民、そして森林に依存し生活する人々は、世界の農業生産の半分以上を担っているが、収穫物や農機具、供給財、家畜、資料、作物そして貯蔵食糧に被害を及ぼしたり破壊すると言った自然災害のリスクに特に晒されている。

農業部門が全体として直面している課題は、防災(DRR)においてより積極的な役割を發揮し、レジリエンスがある生活と一層効率的かつ生産的な食糧システムに向かって進んでいくことであり、同時に、天然資源を保護することで、一層変動しがちな気候のリスクやショックにより対応ができるような状況になることである。

このセッションでは、

- ・災害の予防とその影響を緩和するための農業部門の重要な役割を紹介
- ・地元、国、地域レベルでの農業分野におけるさまざまな利害関係者の役割、能力と責任を強調
- ・農業・食料・栄養安全保障において主要な防災政策からの優良事例や相違点、そして課題について話し合う。

●主催者 / Food and Agriculture Organisation of the United Nations (FAO)

3月17日(火) 開始時間 / 12:00 (E) 05
 仙台市民会館 第2会議室

グッド・プラクティス・レビュー 9：防災

This event will launch the revised edition of Good Practice Review (GPR) 9 and host a multi-speaker panel including a representative of the Japan CSO Coalition (JCC) to discuss the relevance of the book. Entitled "Disaster risk reduction: mitigation and preparedness in development and emergency programming" and written by the international expert John Twigg, the revised edition incorporates new evidence, case studies and thinking on DRR. Since it was originally published in 2004, GPR 9 has established itself as a core resource on DRR for field agencies, training courses and universities. With its wide range of coverage and operational focus, it filled a major gap that other guidance and text books had not addressed. The revised GPR9 includes data, literature and case study material in areas with the most development in the past decade, or in which more evidence has become available (e.g. vulnerability and capacity assessment, urban risk management, long-term recovery, and monitoring and evaluation). The earlier version helped to support the rapidly growing interest in DRR which led to the World Conference on Disaster Reduction in 2005 and the publication of the Hyogo Framework for Action 2005-2015. Similarly, the revised and up-to-date version of GPR9 aims to contribute to the implementation of the new international DRR-resilience regime emerging from the Third World Conference on Disaster Reduction in 2015.

●主催者 / Humanitarian Practice Network, Overseas Development Institute (ODI)

3月17日(火) 開始時間 / 18:00 (E) 05
 仙台市民会館 第2会議室

防災管理への科学の応用のギャップを埋める

The event will bring together the scientific and disaster risk management practitioner communities to have a meaningful dialogue on how the linkages between them can be strengthened. A few successful applications of science for disaster risk management will be highlighted, followed by a facilitated panel discussion.

●主催者 / Asian Disaster Preparedness Center

3月17日(火) 開始時間 / 9:00 (E) 06
 仙台市民会館 第3会議室

Unasur and Caprade

Support among the nations of the South American region through regional coordination drills and simulation exercises as well as strengthening joint capabilities between countries of the Southern Cone.

●主催者 / Secretari-a de Gestion de Riesgos

3月17日(火) 開始時間 / 15:00 (E) 06
 仙台市民会館 第3会議室

学校の地震に対する安全対策に関するパネルディスカッション

Ensuring safety of schools from earthquake risks is emerging as one of the most urgent tasks to be addressed at local, national and global levels. This event aims to bring in experiences to enhance seismic safety in different parts of developing world. It highlights successful cases of cost-effective methods of enhancing seismic performance of schools.

●主催者 / National Society for Earthquake Technology - Nepal (NSET)

3月17日(火) 開始時間 / 18:00 (E) 06
 仙台市民会館 第3会議室

防災管理に向けた官民パートナーシップの促進に関するパネルディスカッション

There are several cases of successes on public private partnership for disaster risk reduction around the world. However, such isolated cases of successes need to be framed into a comprehensive concept and integrated implementation so as to ensure maximum impact. This panel discussion has been planned to comprehensively take forward the concepts and activities.

●主催者 / National Society for Earthquake Technology - Nepal (NSET)

3月17日(火) 開始時間 / 9:15 07

仙台市民会館 第5会議室

塩竈を楽しみながら強くする

- ・Code For Shiogama
Civic Techについて震災復興と防災、地域振興の面から今までの活動を紹介し、会場の人たちを新しい取り組みを考えて行く
- ・よみがえれ!塩竈
防災と歴史の観点から塩竈の歴史を探る。また浦戸諸島という災害が多かった離島の知恵として「保存食」を考える
- ・うらと海の子再生プロジェクト
東日本大震災直後に塩竈市浦戸諸島の養殖漁業復興プロジェクト。クラウドファンディングを達成した軌跡をたどる

●主催者 / Code for Shiogama, よみがえれ!塩竈, うらと海の子再生プロジェクト

3月17日(火) 開始時間 / 9:15 09

仙台市民会館 第7会議室

災害と教育—災害に強い社会をつくるための人づくり

自然災害が激甚化する今日では、人々の紐帯や関係性を日頃からコミュニティの中に育んでおくこと、地域社会のレジリエンス(回復力)を促進し、エンパワメントを生成することが重要である。このシンポジウムでは、東日本大震災等の被災地でこうした教育に取り組んでいる実践者からの報告を踏まえ、上記の学びを支える教育の意義を確認する。

●主催者 / 一般社団法人RQ災害教育センター

3月17日(火) 開始時間 / 12:00 E 09

仙台市民会館 第7会議室

効果的な災害管理に向けた連携：米国および日本での多部門リーダーの教訓

How can the full potential of multi-sectoral partnerships for disaster risk management be harnessed? How do we support implementation of effective partnerships? Multi-sectoral disaster risk management leaders from the U.S. and Japan will discuss implementing effective and sustainable multi-sectoral partnerships. Other efforts exploring similar questions on partnerships in the Asia-Pacific region will also be highlighted.

●主催者 / R3ADY Asia-Pacific

3月17日(火) 開始時間 / 14:00 12

東京エレクトロンホール宮城 401 中会議室

SNS等民間情報を活用した防災対策

多発している局地的災害に対し、従来のセンシング技術による検知を補完するものとして、SNS等の民間情報を活用した小地域情報の収集について検討を行った。災害の種類や局面によっては、前兆、被災地の状況、被災者の需要等においてSNS等の民間情報が有効な道具になる可能性について整理と検討を行った。その検討結果と、その後に取り組んだ災害情報探索用語などについて発表を行う。

●主催者 / 内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室

3月17日(火) 開始時間 / 9:30 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

統合的な防災とリスク削減を通じた地域社会のレジリエンスと安全性の向上

Guided by the Framework for Community Resilience of the IFRC, 189 Red Cross and Red Crescent National Societies work to strengthen community resilience through integrated community-based programs. The event will inform participants of RCRC experiences and lessons learned and provide an opportunity to share ideas on how to enhance contributions to building resilient communities.

●主催者 / International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies (IFRC)

3月17日(火) 開始時間 / 13:30 E 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

HFAの障害者インクルージョンを検証：ポスト2015枠組では約束を実行に移す

HFA2 presents a strong basis for disability-inclusion. Much work contributing to disability-inclusive DRR has arisen from developing country experiences in the Asia-Pacific. The event will present practical disability-inclusive DRR approaches and solutions from leading regional practitioners. This will be of interest to practitioners and policy makers seeking greater inclusion in their work under HFA2.

●主催者 / Disability-inclusive DRR Network (DiDRRN)

3月17日(火) 開始時間 / 17:30  13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

災害環境研究シンポジウム—東日本大震災の経験に基づく災害環境学の確立

東日本大震災での被災地における環境回復や環境創造の経験や取り組みについて、国内外の行政、民間、研究教育機関で共有するとともに、災害と環境という視点から東日本大震災の教訓を活かし、次の災害に備えるための枠組みや『災害環境学』の構築とその実践について議論する。

●主催者 / 国立環境研究所

3月17日(火) 開始時間 / 9:30 14

東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室

「地域防災対策支援研究プロジェクト」成果報告会

文部科学省では、2013年度より「地域防災対策支援研究プロジェクト」を開始し、①全国の大学等における理学・工学・社会科学分野の防災研究の成果を一元的に提供するデータベースの構築、②地元の大学等による防災研究の成果の展開、により地域の防災・減災対策への研究成果の活用を促進している。成果報告会では本プロジェクトに取り組んでいる10機関が今年度の取組状況や成果についての報告を行う。

●主催者 / 文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室

3月17日(火) 開始時間 / 13:15 14

東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室

東日本大震災からの復興まちづくりと今後の防災対策

東日本大震災の教訓を踏まえ、被災地における復興、防災対策の取り組みを紹介する。地域コミュニティに配慮した防災集団移転促進事業、液状化対策事業計画と事業運営、大規模造成地の滑動・崩落地対策、フレア護岸の波浪・津波に対する効果、地域防災計画を通した安心・安全なまちづくりなど。

●主催者 / 株式会社 千代田コンサルタント

3月17日(火) 開始時間 / 17:30  14

東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室

災害時に力を発揮できるための防災教育のあり方

東日本大震災や阪神・淡路大震災の教訓から、命を守り命を救うためには市民一人一人の防災力の向上が求められているが、その鍵を握るのが防災教育である。本セミナーでは、知識を与えるだけの防災教育ではなく、自らが考え判断して行動する能力を身に付けるためのアクティブラーニングの手法を前提とした防災教育について検討する。

●主催者 / 神戸学院大学

3月17日(火) 開始時間 / 10:30  15

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

東北内外の連携・相互協力による災害対応力強化に向けて～東北復興連合会議における東北一体となった取り組み～

今回のシンポジウムでは、東北復興連合会議の概要についての報告や東日本大震災等の被災経験・教訓などを踏まえた域内外の事例紹介のほか、災害対応に係る広域連携や官民をはじめとする多様な主体の連携、平時からの態勢整備の重要性について、基調講演やパネルディスカッションを通して、災害対応力強化の実現に向けた議論を行う。

●主催者 / 東北復興連合会議

3月17日(火) 開始時間 / 17:30  15

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

世界災害語り継ぎネットワーク (TeLL-Net) フォーラム 災害ミュージアムを通じた被災経験の語り継ぎと防災・減災

災害に強い社会を構築するには、被災経験や教訓を風化させず、世代・国・地域を越えて語り継ぎ、得られた知見をさらなる減災活動に活かさなくてはならない。大災害を経験した世界各地でさまざまな災害語り継ぎを展開する組織や団体と先端的減災研究に取り組む機関が一堂に会し、互いの取り組みを共有する。

●主催者 / TeLL-Net(災害かたりつぎ)フォーラム実行委員会

3月17日(火) 開始時間 / 10:00  E 16

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2

防災における最新動向に関するワークショップ

This workshop highlights the fundamental characteristics of the post-industrial risk societies that we live in through hyper-risks, interconnectedness and interdependence of systems and networks and their potential for abrupt failures. In this context, the workshop proposes "reflective DRR" that will promote critical reflective practices and systems thinking in order to tackle hyper-risks related to NATECHs and large scale natural disasters.

●主催者 / Faculty of Safety Science, Kansai University

3月17日(火) 開始時間 / 18:00 E 16

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2

大規模災害時における後見人の役割と責任

東日本大震災による原発事故によって強制避難させられた後見人が、実際にとった行動を紹介する。それにより、体力も判断能力も減退した被後見人をどう保護すべきか、また後見人はどのように行動すべきかを考える機会とする。さらに、東日本大震災で親を亡くした子どもの未成年後見人として活動している日本の司法書士の後見人の状況を報告する。

●主催者 / 日本司法書士会連合会、公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート、宮城県司法書士会、福島県司法書士会、岩手県司法書士会

3月17日(火) 開始時間 / 13:30 17

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3

東日本大震災の教訓 - 東北工業大学における初期対応と復興支援から -

東日本大震災の被災地域に位置する東北工業大学が、東日本大震災から得た教訓を紹介する。ともすれば対立的になる復興への取り組みを通して見えたものから、今後の社会のあり方や考え方を議論するシンポジウムとする。

(1) 主題解説

- ・大学の被災後の初期対応と課題
- ・継続的な被災住民支援と課題
- ・インフラ再整備と課題

(2) パネルディスカッション「復興へのジレンマと将来への展望」

●主催者 / 東北工業大学

3月17日(火) 開始時間 / 17:30 17

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3

高等専門学校機構における防災教育と復興まちづくり支援の実践

東北地区および近畿地区の高等専門学校を中心とした産官学が連携して、東日本大震災と阪神淡路大震災における復興支援および災害対策プロジェクト、教育研究活動報告と専門家を交えたパネルディスカッションから、横断的な防災教育の在り方、自治体および企業連携による復興支援の可能性と課題について考える。

●主催者 / 仙台高等専門学校

3月17日(火) 開始時間 / 9:15 E 18

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 5

地域の防災能力の向上: アジアにおける持続可能なコミュニティ防災活動の実践例、取り組みから学ぶ

Post-HFAに向けた議論においてもLocal Levelの防災能力の向上が重要とされているところ、インドネシア防災庁、JICA等のアジア地域におけるLocal Levelの防災能力向上の取り組みについて情報共有する。また、阪神・淡路大震災における教訓を生かしたインドネシアにおけるコミュニティレベルの防災活動普及に係る事業について情報共有し、今後の地域の防災能力向上のよりよいあり方について協議する。

●主催者 / アジア防災センター (ADRC)

3月17日(火) 開始時間 / 10:00 19

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 6

東日本大震災の経験と教訓～災害時の「弔い」の尊厳を如何に保つか～

当協議会では、仙台市と共に防災訓練に努めてきました。その結果、東日本大震災発生時の折は、行政と連携し、業界の指示系統を一本化、早期初動体制をとることができた。東日本大震災での経験をパネルや映像で掲示し、この教訓を業界・行政あげての他県との連携、棺をはじめ死者を弔うに必要な物資の備えなど、大災害時のご遺体の早期収容と「弔い」のスキームの重要性を提起する内容とする。

●主催者 / 仙台地域葬儀会館連絡協議会

3月17日(火) 開始時間 / 10:00 20

TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール7

気候変動対策と防災に関するシンポジウム

IPCCの第5次報告書の知見を踏まえ、気候変動問題と災害・防災について情報提供と問題提起をはかり、地域社会レベルで取り組み可能なことは何か、幅広い観点から気候変動対策の意義と課題を検討する。家庭エコ診断事業、3.11以後の節電・省エネルギー等の実践を踏まえ、達成度と今後の課題等を論じたい。シンポジウム主体で、会場で、調査結果や活動内容について、展示ブースも活用する。

●主催者 / 東北大学大学院文学研究科

3月17日(火) 開始時間 / 9:30 27

仙台市情報・産業プラザ (AER内) 多目的ホール (5階)

災害看護学教育—世界の動向

看護は災害時に人々の安全保障(人間の生にとってかけがえのない中枢部分を守り、すべての人の自由と可能性を実現すること:人間の安全保障委員会2003)のために、第一線で重要な役割を担っている。災害看護学教育に何を求めるか、国際的観点で保健医療領域組織や災害看護学を推進する大学等の立場から期待することを発表いただき、参加者と討議する。

●主催者 / 災害看護グローバルリーダー養成プログラム(略称DNGL)

3月17日(火) 開始時間 / 14:20 27

仙台市情報・産業プラザ (AER内) 多目的ホール (5階)

森の防潮堤推進シンポジウム

東日本大震災発生から4年。東北被災地では「いのちを守る森の防潮堤」の挑戦が続いている。その実践的取り組みとしてスタートした岩沼市「千年希望の丘」植樹祭は、これまで累計12,500人ものボランティアの皆様を集めてきた。今や復興を象徴する存在になっている「千年希望の丘」の植樹祭映像を紹介しながら、各方面の専門家の方々を集めたシンポジウムを開催する。

●主催者 / いのちを守る森の防潮堤推進東北協議会

3月17日(火) 開始時間 / 10:00 28

仙台市情報・産業プラザ (AER内) セミナールーム (2) (6階)

宮城の学術機関が一丸となって取組んだ「復興大学」からの発信 - 復興に向けて学び活動した、学生からの事例報告 -

復興大学は、平成23年度より5カ年の文部科学省補助事業としてスタートした。今まで多くの学生が本事業に携わってきた。その中で、復興支援リーダーとして活躍できる人材教育、教育現場の復興支援、技術・商品化支援へのプロジェクト参画、ボランティア活動などを通じて、学生たちが実践的に学び活動した事例を報告する。

●主催者 / 復興大学

3月17日(火) 開始時間 / 13:30 28

仙台市情報・産業プラザ (AER内) セミナールーム (2) (6階)

2015 下水道防災シンポジウム in 仙台

下水道に関わる防災・減災をテーマとしたシンポジウムを開催する。震災の経験と教訓を世界と共有するとともに、災害に強いインフラ整備の重要性、防災・減災対策の強化などについて議論し、今後の災害対策の方向性を示す。

また、シンポジウム参加者との意見交換会(レセプション)や南蒲生浄化センター等の見学会を実施し、被災施設や下水道展示コーナーなどを見学する。

●主催者 / 仙台市(建設局経営企画課)、国土交通省、日本下水道協会、宮城県

3月17日(火) 開始時間 / 10:00 29

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホールA (21階)

大規模洪水対策シンポジウム ～低平地都市水害への備え～

地球温暖化に伴う気候変動の影響により、水害などの頻発、激甚化が懸念されており、特に人口・資産が集中する低平地都市では高い水害リスクを抱えている。大規模洪水に対してハード・ソフト両面からどのように備えていくかは重要な課題であり、本シンポジウムでは、講演やパネルディスカッションを通じて、大規模洪水対策や水害の経験から得られた教訓について紹介する。

●主催者 / 国土交通省水管理・国土保全局治水課

3月17日(火) 開始時間 / 第1部 9:30 第2部 13:00 30

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール B (21 階)

障害者の視点からのコミュニティ全体で備える防災まちづくりへの提言～ポスト 2015 インクルーシブ防災

これまでの兵庫行動枠組や各国政府の防災計画・対策において、障害者の視点が十分だったとは言えず、東日本大震災でも大きな困難を抱えた。障害者など多様なニーズに対応した防災を推進するためには、災害弱者対応という特別なものではなく、コミュニティ全体で自然に備えておかなければ機能しない。そういった観点から、2015年以降のインクルーシブな防災のあり方について議論し、世界に向けて発信する。

●主催者 / 仙台市(障害企画課)、日本財団、仙台市障害者福祉協会、障害者の減災を実現する仙台イニシアティブ研究会

3月17日(火) 開始時間 / 9:20 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30 階)

**建物防災シンポジウム
～拠点建築物の機能継続～**

東日本大震災等の経験から、災害拠点の非住宅建築物は、被災後に機能継続する事を期待される。一方、非住宅建築物ストックの老朽化は進み、今後、長寿命化改修と機能継続出来る施設整備が同時に求められる。本シンポでは、最近の災害事例から得た建物防災の視点を学識者が発表し、非構造部材の被害を抑える新たな知見一竜巻による開口部破損や地盤液状化による給排水設備損傷対策一について検討を行う。

●主催者 / 積水化学工業株式会社

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30 階)

土木防災シンポジウム—強靱なライフラインシステムの構築を目指して—

ライフラインは、災害によってその機能が失われた場合、国民生活に深刻な影響を及ぼすばかりでなく、長期的な国力低下の要因ともなり、ハード、ソフト両面からの事前防災対策、早期復旧・復興対応が求められている。既往の災害の教訓から学び、将来の災害軽減に活用すべく、学識経験者による基調講演および各分野の専門家によるパネルディスカッションにてライフラインの今後の防災対策の展望を示す。

●主催者 / 積水化学工業株式会社

3月17日(火) 開始時間 / 17:00 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30 階)

巨大化する自然災害に備える技術者の役割

近年は、巨大地震や津波以外にも、台風・洪水・高潮災害、火山噴火、気候変動など地球規模の自然災害に対する備えの必要性が叫ばれている。それらに対し、市民あるいは社会はどう備えるべきか、また技術者が果たすべき役割は何か。今回の東日本大震災での反省や改善点も踏まえ、全国から産・学・官のスピーカーを招き、今後の防災・減災に関する地域連携や社会貢献のあり方について議論する。

●主催者 / 公益社団法人日本技術士会

3月17日(火) 開始時間 / 9:15 32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30 階)

原発事故から4年～福島学びと地域づくりへの道：地元 NPO の視点から

原発事故から4年、福島は地震・津波・原発事故という複合災害を経験し、現在も12万人以上が避難を続けている。世界でも途上国・新興国を含む各地で、福島同様に都市から離れた周辺部に多くの原発が建設されており、それは地域住民のみならず国家にとっても大きなリスクとなる。福島第一原発事故前後の社会状況とその教訓を振り返り、原発に依存せずに生きる道を模索する市民の取り組みを伝える。

●主催者 / 防災世界会議ふくしまCSO連合

3月17日(火) 開始時間 / 13:30 32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30 階)

東日本大震災を踏まえた防災・減災に資する農業・農村の強靱化シンポジウム

東日本大震災により、東北地方の太平洋沿岸を中心とする地域農業は壊滅的な打撃を受けたが、地元自治体および国は総力を挙げて復旧に努め、被災から3年で多くの地域で営農再開が可能な状況に至っている。東日本大震災からの農業基盤の復旧・復興状況と震災から得られた教訓を国内外の農業・農村の防災・減災対策に活かし、農業・農村の防災力向上を目的としてシンポジウムを開催する。

●主催者 / 農林水産省東北農政局、農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所、宮城県、仙台市、宮城県土地改良事業団体連合会

3月17日(火) 開始時間 / 17:00  32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホールD (30階)

東日本大震災への対応・復旧及び今後の課題等について

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、私達の事業エリア内に甚大な被害を及ぼし、鉄道施設に関しても深刻な被害が発生した。しかし、ご乗車中のお客さまで負傷された方はいなかった。今回のイベントでは、東日本大震災以前に取り組んできたさまざまな震災対策、東日本大震災における対応、更には東日本大震災以降の震災対策、復旧について紹介する。

●主催者 / 東日本旅客鉄道株式会社

3月17日(火) 開始時間 / 14:00 33

仙台市シルバーセンター 交流ホール

町内会企画 大震災から学ぶ災害に強いまちづくりシンポジウム～仙台から始めよう、町内会中心の地域主体の災害対応～

「自助、共助、公助の調和が築く災害に強い仙台のまちづくりや町内会・コミュニティの力」を、特性が異なる地域や各世代の立場からパネルフォーラムとメッセージ発表を通じて世界のすべての地域に発信する。これにより、世界各国から受けた支援への恩返し・謝意を示しながら、世界の至る所で地域主体の災害対応の取り組みが生かされ、継承され、後世の人々の生きた教訓となることを願う。

●主催者 / 仙台市連合町内会会長会、仙台市(地域政策課)

3月17日(火) 開始時間 / 10:00 34

仙台市シルバーセンター 第一研修室

**企業防災体験コーナー
～BCP(みやぎモデル)を体験しよう～**

企業防災活動に関するさまざまなメニューをご体験いただけます。

- ①拠点リスク評価(住所から個別に拠点リスクを評価)
- ②地震メカニズム体験(模型などを使った地震メカニズムの体験)
- ③「みやぎモデル」ワークショップ(BCP策定の体験)
- ④防災アプリ体験(無償で使える防災アプリの体験)
- ⑤BCP訓練体験(地震発生時初動対応の体験)
- ⑥企業防災よろず相談(各種相談コーナー)

●主催者 / MS&ADインシュアランスグループ、宮城県

3月17日(火) 開始時間 / 9:30 35

仙台市シルバーセンター 第二研修室

蒲生に楽しい防災公園を

仙台の高校生たちが、仮設住宅の方のお話、住民集会の傍聴、大学の先生の講義、そして東京への視察などの学習を経験して、1年かかって新たな防災公園を考えた。地域住民の避難場所を計画し、蒲生干潟の自然を守り、貞山運河の遺跡を再生し、仙台市民へ憩いの場所を造る、みんなが幸せになる防災公園を考えた。将来、防潮堤と長く関わってゆく自分たち高校生世代で将来を選択した計画である。

●主催者 / 仙台の高校生で考える防潮堤の会

3月17日(火) 開始時間 / 9:00   36

東北大学川内北キャンパス マルチメディアホール

災害リスクから人々の健康を守る

The protection of people's health is central to disaster risk reduction (DRR). Participants will interact with speakers who will share their successes, challenges and Voluntary Commitments for making health a priority for DRR. Themes include Community Preparedness, Ageing Societies, Safe Hospitals, Health Services for Disasters, Climate and Health, Epidemics and Pandemics, and Lessons Learned from Disaster Recovery in Japan.

●主催者 / World Health Organization

3月17日(火) 開始時間 / 9:30  37

東北大学川内北キャンパス A106

「仙台への道」

ADRRN along with various International NGOs is doing a Road To Sendai campaign to increase awareness about WCDRR among various stakeholders particularly among the vulnerable communities across globe. There will be various events organised by civil societies. This event will showcase outcomes of various events during WCDRR.

●主催者 / Asian Disaster Reduction and Response Network (ADRRN) and Japan CSO Coalition for 2015 WCDR

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 E 39

東北大学川内北キャンパス A205

Accelerating Urban Resilience - Resilient Cities Connect

Many partners also aim to expand their support to cities as part of their contribution towards the UN SG's Climate Summit. Specific commitments are being formulated in preparation for the 3rd UN World Conference for Disaster Risk Reduction in Sendai, Japan March 2015 and the implementation of a post 2015 framework for disaster risk reduction. It's expected that the Sustainable Development Goals and the preparations of the 3rd UN Habitat conference in 2016 will catalyze even further efforts in this regard and will reinforce an integrated approach to disaster risk reduction, climate action and sustainable development. While many processes surrounding urban resilience are ongoing, critical opportunities for support or partnerships are not always seized by local governments because of inaccessibility and lack of awareness. To ensure that a comprehensive array of tools, information, services and support is available to cities - either through bilateral and partner support or through private sector, the concept of a Resilient Cities e-xchange' has been anticipated.

●主催者 / UNISDR

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 E 40

東北大学川内北キャンパス B101

Models as the Universal Currency for Disaster Risk Financing and Management

It remains a challenge to develop detailed exposure data-sets and to understand hazards and vulnerability of the exposed assets. The aim of the session is to draw attention to the attributes of risk modeling that can assist in many aspects of disaster risk management. The reason for this is because we believe that we can better estimate and understand the "true" risk, we can better manage it.

●主催者 / AIR Worldwide

3月17日(火) 開始時間 / 17:30 E 40

東北大学川内北キャンパス B101

投資へのインセンティブ：防災管理に関する共通の利益と新たな事業ケース

This event aims to change the debate on how to incentivize greater investment in DRR through analysis of the wider co-benefits of DRR investments that occur independently of whether or not the disaster event occurs. A lively panel session will draw on study findings by the Overseas Development Institute (ODI), World Bank GFDRR and others.

●主催者 / Overseas Development Institute (ODI)

3月17日(火) 開始時間 / 9:00 E 41

東北大学川内北キャンパス B102

Urban Resilience as an Agent for Learning, Change, Peace and Hope

Making an economic case for resilience building of the need for greater capacity, law enforcement, environmental management and incorporating risk into investment and economic policy, the event will show case Peoples Process approach, lessons learned from the Asia, Africa and Latin America region on mainstreaming DRR in CCA housing, urban planning, and city development strategies.

●主催者 / United Nations Human Settlements Programme

3月17日(火) 開始時間 / 15:00 E 41

東北大学川内北キャンパス B102

次世代により安全な未来を約束する

IRW and our partners such as communities, government and volunteers will be presenting evidence of disaster risk reduction carried out in Bangladesh. We believe it is important to capture innovations and lessons learnt in line with Hyogo Framework of Action. This will encourage all the stakeholders in particular decision makers to have believe in the efforts and initiatives of UNISDR and its partners at international and national level. One of the many examples we are going to promote includes "establishing a localized funding mechanism for DRR"

Outcome:
To develop coherent, evidenced based policy positions on DRR, Climate Change, and other resilience related activities (including urban resilience)

●主催者 / Islamic Relief Worldwide, Bangladesh

3月17日(火) 開始時間 / 9:00 E 43

東北大学川内北キャンパス B104

構築環境防災研究フォーラム

The Forum will showcase research from around the globe that has supported the goals of the Hyogo Framework for Action over the past decade, informing the post-2015 framework with empirical and theoretical advances. A panel of international speakers will share a wealth of evidence spanning hundreds of research projects over the past decade.

●主催者 / International Council for Research And Innovation in Building and Construction

3月17日(火) 開始時間 / 13:30 (E) 43

東北大学川内北キャンパス B104

「防災と人間の安全保障」自然災害時におけるレジリエンス強化と人々の保護のための効果的対応の模索

近年、世界で頻発する自然災害は、紛争やテロと同等に、あるいは時にそれ以上に人間の安全にとって深刻な脅威の一つとなっている。自然災害がもたらす脅威から、どうすれば人々を守ることができるのか。本フォーラムでは、日本が外交の柱として推進してきた「人間の安全保障」の視点がいかに防災分野で有効か検証し、今後どのような取り組みが一層望まれるのかを考える。

●主催者 / 国連人間の安全保障ユニット、外務省

3月17日(火) 開始時間 / 9:00 (E) 44

東北大学川内北キャンパス B200

災害管理に向けた宇宙開発技術とデータ規格共有のための新たなグローバル枠組：UN-Global-Sat イニシアチブ

The workshop will define technical, policy, financial issues, identify initial participants, and frame public/private partnership implementation plan for the proposed UN-Global Nano-Satellite constellation leading to new global framework and data standards for the post-2015 framework. Vision is to create a low-cost, common platform for sharing of space and data segments for national's disaster management needs.

●主催者 / CANEUS International

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 44

東北大学川内北キャンパス B200

科学と実践的防災学 ～防災における大学の役割とは～

近年、学術的研究結果や、最新の科学・技術、情報データを基にした政策立案の必要性が高まっている。特に、産官学などあらゆる機関との連携強化により、学術機関や大学のさらなる貢献が可能となる。このセッションでは、環太平洋大学協会 (APRU) 加盟大学を中心に、国際機関、企業、政府とともに、大学の防災への貢献を高めるためにどのようなパートナーシップや取り組みが必要なのかを議論する。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月17日(火) 開始時間 / 9:45 (E) 45

東北大学川内北キャンパス B201

災害に対するレジリエンスの理解：実態把握

The overarching goal of the post-2015 framework is to strengthen the resilience of people, communities and countries to disasters. This side-event will discuss what is meant by resilience - the key attributes, underpinning principles and values. We will explore different perspectives including disaster, climate and conflict resilience to identify commonalities and differences.

●主催者 / GNDR - Global Network of Civil Society Organisations for Disaster Reduction

3月17日(火) 開始時間 / 16:00 (E) 45

東北大学川内北キャンパス B201

Step Forward for Building Disaster Resilience in The Philippines: emerging strategies for Disaster Risk Reduction and Financing

This seminar is an important and timely opportunity to unite many actors in the Philippines considering DRR and risk financing from different perspectives, and at different levels. The Philippines is currently entering a new phase of considering the relationship and complementarity of 'ex-ante' and 'ex-poste' strategies to protect people and assets from harm, while also putting in place the necessary financial mechanisms for the country to recover when disasters occur. In particular, the panel will explore: (i) how The Philippines is integrating disaster risk considerations into infrastructure investment projects; (ii) what more could be done to insure additional costs are included in future plans; and (iii) how public assets, infrastructure and the community at large could be better protected against natural disasters in the future through public and private sector innovation for example in infrastructure financing and insurance.

●主催者 / World Bank - GFDRR

3月17日(火) 開始時間 / 9:00 (E) 46

東北大学川内北キャンパス C101

第2回アジア太平洋地域における国連災害統計専門家会議

Natural disasters have adversely affected economic growth and social development gains, while the risk from extreme weather events is expected to rise with the climate change in many parts of the world. This challenge calls for the countries to mainstream disaster risk reduction in their key sectors including, but not limited to, agriculture, education, health, housing and transport. To that end, improvement on disaster-related statistics that adheres to agreed standards is needed to provide the basis for more evidence-based disaster risk reduction and climate change adaptation policy making and programming.

●主催者 / UN ESCAP

3月17日(火) 開始時間 / 9:30 E 47

東北大学川内北キャンパス C102

防災技術の共有に向けたインターネット上のプラットフォーム

This event introduces a technology sharing platform for the global network on climate change adaptation and disaster risk reduction (DRR). The platform defines a foundation that provides various products or services and its objective is to allow demanders, suppliers and experts to share DRR technology. The platform is divided into architecture and governance.

●主催者 / Korea Ministry of Public Safety and Security

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 E 47

東北大学川内北キャンパス C102

地域社会のレジリエンス構築に向けた早期警報システムのベストプラクティスの拡大

A sustainable community-based landslide early warning system (EWS) was implemented in 12 provinces throughout Indonesia and Myanmar. The approach includes hazard risk assessment, mapping, and training, and has saved lives. The collaborative project among R3ADY Asia-Pacific, UGM, UH, and PDC explores ways to expand and extend best practices at all levels using tools like InAWARE.

●主催者 / R3ADY Asia-Pacific

3月17日(火) 開始時間 / 17:00 E 47

東北大学川内北キャンパス C102

海岸地域のレジリエンスに関するグローバルな取り組み

How do we protect coastal communities from the risks of natural disasters while maintaining vibrant economies and a high quality of life? R3ADY Asia-Pacific and Peace Boat will bring together both sides of the Tohoku seawall debate in Japan, and hear community members' questions and concerns. International experts will then offer lessons from their countries.

●主催者 / R3ADY Asia-Pacific

3月17日(火) 開始時間 / 9:00 E 48

東北大学川内北キャンパス C105

Universal Design and Inclusive Disaster Risk Reduction

People with disabilities are twice as likely to die in disasters. Accessibility to the built environment and to communications will reduce this horrible statistics. GAATES (The Global Alliance on Accessible Technologies and Environments and CBM (The Christian Blind Mission) have been working to promote accessibility. CBM has worked on accessibility in Haiti since 2010, first on promoting and ensuring accessibility in camps and mainstreaming universal design in the reconstruction, awareness-raising, training and technical expertise delivery. GAATES has developed a Guideline Manual on Inclusive Disaster Risk Reduction in collaboration with the Asia Pacific Broadcasting Union and the Asia Disaster Preparedness Center. The document outlines the major components of an inclusive disaster risk reduction strategy from accessible early warnings to training on evacuation techniques, elements of Universal Design, accessible information and communications technologies and working with the community of persons with disabilities. Drawings, photographs and case studies compliment the document.

●主催者 / Global Alliance on Accessible Technologies and Environments (GAATES)

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 E 48

東北大学川内北キャンパス C105

Working with Disabled Persons Organizations

Pakistan is one of the most disaster prone areas of the world. An earthquake of over seven magnitude, centered near Kashmir jolted the whole country in October 2005. Last year, due to a huge flood, the death toll was over 75 thousand, leaving uncouned people injured and homeless. The United Nations estimates that more than 21 million people have been left homeless. Women, older persons and persons with disabilities were the most vulnerable. Disabled peoples organizations in Pakistan such as STEP have been working to provide training, on the ground support and develop inclusive protocols for food, shelter and rehabilitation. GAATES (The Global Alliance on Accessible Technologies and Environments), working with organizations of persons with disabilities, has partnered with the Asia Pacific Broadcasting Union and the Asia Disaster Preparedness Center to promote inclusive early warnings, broadcasting and accessibility of the built environment. A partnership between these disabled persons organizations, international NGOs and disaster management agencies is the key to success.

●主催者 / Global Alliance on Accessible Technologies and Environments (GAATES)

3月17日(火) 開始時間 / 17:00 E 48

東北大学川内北キャンパス C105

Accessible Broadcasting, Communication and Evacuation of Persons with Disabilities in an Emergency: A Planning Guide

Lack of awareness of the intricacies of planning and implementing emergency broadcast, communication and evacuation procedures for persons with disabilities is a world-wide, systemic problem that is only beginning to be addressed. Understanding the various communication methods (such as sign language, captioning, described video, video relay, and augmented communication) of people with disabilities remains a gap in current disaster preparedness and communication strategies worldwide. A preliminary scan indicates some recent policy development and technical procedural documents have been developed, but are generally limited. The Accessible Broadcasting, Communication and Evacuation of Persons with Disabilities in an Emergency: A Planning Guide developed by GAATES in partnership with the Asia Broadcasting Union (ABU) addresses: inclusive early warning communication methods to reach all vulnerable groups; pre-disaster planning, including emergency evacuation planning, communication of planning information, practice and drills, shelter site selection and fit-up; and emergency and evacuation situations, including: the communication of information, transportation and evacuation assistance, the provision of shelter, health care and disability specific assistive devices and aids. The project reviewed legislative and policy issues, including the obligations of the CRPD and national human rights legislation, that impact communication (especially early warning systems) and evacuation and emergency planning existing policies and procedures, identified gaps, identified international best practices and developed a Guide Document to be used to enable capacity building of broadcasters, emergency management organizations, governments and NGOs on accessible communication and disaster preparedness for persons with disabilities.

●主催者 / Global Alliance on Accessible Technologies and Environments (GAATES)

3月17日(火) 開始時間 / 9:00 **E** 49

東北大学川内北キャンパス C106

R!SE Disaster Risk-Sensitive Investments

The event will explain why risk-sensitive investments are critically needed in DRR strategies and present the UNISDR R!SE Initiative for Disaster Risk-Sensitive Investments. The event will showcase how the activity streams of R!SE and the strong partnerships made with key players from the private sector can help to achieving concrete improvements in making investments risk sensitive.

●主催者 / UNISDR

3月17日(火) 開始時間 / 13:00 **E** 49

東北大学川内北キャンパス C106

Pakistan Road to Resilience

- 1) Presentation on Post 2015 Framework on Disaster Risk Reduction by NDMA
- 2) Presentation on achievements in DRR by NDMA
- 3) Presentation on JICA Support for Enhancing Resilience in Pakistan by JICA Pakistan
- 4) Presentation on Capacity Building for Enhancing Resilience by ADPC
- 5) Presentation on Earthquake & Rescue by ERRR & Rescue 1122

●主催者 / National Disaster Management Authority NDMA, Pakistan

3月17日(火) 開始時間 / 17:00 **E** 49

東北大学川内北キャンパス C106

チリでの災害後対応の見直し：開発途上国の状況での教育面、物流面、一般参加面での課題

In this forum, we will discuss ways for designing and implementing better post-disaster response policies in the global South, from a multidisciplinary perspective. Drawing on the case of Chile, a disaster prone country, focusing on four dimensions of post-disaster response: preparing for disasters, health and mental health response, humanitarian aid, engaging citizens in this process.

●主催者 / CIGIDEN

3月17日(火) 開始時間 / 14:00 **E** 50

東北大学川内北キャンパス C200

Building Effective Partnerships towards resilient SIDS in the post-2015 world

SIDS continue to grapple with the effects of disasters which impedes the achievement of their sustainable development aspirations. They continue to be disproportionately affected by disasters and it is crucial that they strive to build resilience, strengthen monitoring and prevention, reduce vulnerability, raise awareness and increase capacity to respond and recover from disasters.

●主催者 / UN-OHRLLS

3月17日(火) 開始時間 / 13:30 **E** 51

東北大学川内北キャンパス C201

震災と宗教者の役割

東日本大震災における犠牲者の弔い、慰霊祭、被災者を対象とする傾聴活動といった宗教者の活動を踏まえて、公共空間において超宗派超宗教的に宗教的ケアを行うことができる「臨床宗教師」の役割について議論し、提言を行う。

●主催者 / 東北大学実践宗教学寄附講座

3月17日(火) 開始時間 / 13:30 **E** 52

東北大学川内北キャンパス C202

被災地でのジオパークを考える ～大地の災いと恵み～

自然科学教育と防災教育、日常的対策、遠隔地や後世への伝達や伝承の視点で、地域の特性と向き合っの意見交換の場とする。

1) 被災経験に基づく地域活動の紹介、2) 災害と向き合うジオパーク間の意見交換、3) 地域の活動を支援する専門家の役割、の3つの観点から、ユネスコ担当課長のMcKeever氏と、JGNの杉本真一氏より基調報告を行った後、パネルディスカッションを予定する。

●主催者 / 東北大学災害科学国際研究所

3月17日(火) 開始時間/9:00 E 53

東北大学川内北キャンパス C205

Platforms for risk data sharing and participative governance, from national to local

Main features and achievements of the French risk data sharing PPP platform are presented by public and private project partners, end user representatives including from the research and education area. The objective is to exchange on good practices with the audience and discussants, from countries and international organizations advanced on the topic.

●主催者/MRN, on behalf of ONRN Agreement (PPP Partnership)

3月17日(火) 開始時間/13:00 E 53

東北大学川内北キャンパス C205

低所得 OIC 加盟諸国での効果的な災害リスク管理能力の構築

The disaster-prone low-income OIC member countries lack critical institutional and technical capacity and resources to effectively manage disaster risks. This side event aims to bring relevant stakeholders from governments, international organizations and civil societies with a view to strengthening cooperation and solidarity with these countries to develop capacities for effective management of DRM.

●主催者/SESRIC and Islamic Development Bank

3月17日(火) 開始時間/17:00 E 53

東北大学川内北キャンパス C205

統合的なリスク管理と政府の役割

The side event focuses on the issues of government and governance in DRR from different perspectives, including political institutions, economic development, science and technology, culture and social participation, and aims to bring together government officials, scientists from various countries to share achievements and experience, to identify challenges and bottlenecks.

●主催者/China National Commission for Disaster Reduction Co-organized with UNISDR Asia Pacific Office

3月17日(火) 開始時間/13:00 E 54

東北大学川内北キャンパス C206

変化する環境での気象サービスと災害に向けたその応用および気象リスク管理

DRR and CCA community are facing common challenge of managing climate change. Therefore framing a systematic process for climate services and linking that to regular practices of DRR and CCA has been a priority. This should further strengthen in post-2015 framework. The session highlights practical experience of ADPC, NHMSs and technical organizations in strengthening climate services for DRR and CCA.

●主催者/Asian Disaster Preparedness Center (ADPC)

3月18日(水) 開始時間/10:00 02

仙台市民会館 大ホール

コミュニティとインターネットによる減災の未来

東日本大震災時にはソーシャルネットワークによる情報発信、共有が数多く行われた。ここではネットメディアに関わる有識者によりネットによる減災の可能性についてディスカッションし、ネットワーク時代の新しい減災の仕組みを見出していく。

●主催者/株式会社ウェザーニューズ

3月18日(水) 開始時間/9:30 03

仙台市民会館 小ホール

2015 下水道防災シンポジウム in 仙台

下水道に関わる防災・減災をテーマとしたシンポジウムを開催する。震災の経験と教訓を世界と共有するとともに、災害に強いインフラ整備の重要性、防災・減災対策の強化等について議論し、今後の災害対策の方向性を示す。

また、シンポジウム参加者との意見交換会(レセプション)や南蒲生浄化センター等の見学会を実施し、被災施設や下水道展示コーナー等を見学する。

●主催者/仙台市(建設局経営企画課)、国土交通省、日本下水道協会、宮城県

3月18日(水) 開始時間 / 9:30 04

仙台市民会館 第1会議室

災害と人間の安全保障

本フォーラムでは人間の安全保障の観点から災害を考察する。フォーラム第1部の基調講演では国内の被災地から政治家や行政関係者を、海外からは「人間の安全保障」の専門家を招いて行う。第2部では甚大な災害にあったことを想定して行うロールプレイングゲームを実施する。

●主催者 / 東北大学大学院ヒューマンセキュリティ国際連携教育プログラム

3月18日(水) 開始時間 / 13:30 10

せんだいメディアテーク スタジオシアター

災害時に人々の安全を確保するためにICT（情報通信技術）と地域FM放送はどのような役割を担うかを考えるシンポジウム

仙台を代表するIT企業群と東北大学IIS研究センターおよびFM仙台が共同で、災害時の安否確認ならびに身を守るための災害情報の取得と、自治体や救援組織における災害情報・被災者情報の収集・集約・保全・共有・配信・伝達に関して、情報通信技術とFM放送の役割および住民によるその活用について、事例や技術の紹介と参加者によるディスカッションを通じて考える。

●主催者 / 先進ICT活用による地域防災を考える会

3月18日(水) 開始時間 / 10:00 11

東京エレクトロンホール宮城 大ホール

平成26年度防災シンポジウム・第10回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム

震災の経験を風化させず、地域の力でまちを守るために、地域のさまざまな活動事例などをうかがいながら地域防災について考えることを目的に開催する。①防災に関するさまざまなテーマについて有識者から講演をいただく「防災基調講演」②地域の活動事例を紹介する「ワンポイント・防災セミナー」③救護の技術を競い合う「救護の達人コンテスト」を軸に本市の防災を世界にアピールしていく予定である。

●主催者 / 仙台市(減災推進課)

3月18日(水) 開始時間 / 10:00 12

東京エレクトロンホール宮城 401 中会議室

V-Low マルチメディア放送による防災情報配信～新時代のファーストインフォーマーとして～

VLowマルチメディア放送が2015年から日本で始まる。この放送は各種情報を一斉配信する機能を有し、地域の防災安全情報を伝える新たなICTインフラとして期待されている。本シンポジウムでは、VLowマルチメディア放送による防災安全情報の伝達についてその思想から技術、運用までを紹介し、またファーストインフォーマー（一次情報提供者）としての役割を自治体や識者を交え議論する。

●主催者 / V-Lowマルチメディア放送自治体連絡会

3月18日(水) 開始時間 / 9:30 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

地域社会のレジリエンスとキャパシティ・ビルディングー被災地での岩手大学の実践と検証ー

岩手大学は、震災直後から緊急対応、地域コミュニティの再生、防災教育・研究、なりわい再建の支援、防災・危機管理人材育成プログラムの開発などを実施してきた。復興支援活動の事例を提示し、震災復興に向けた被災地と大学との協働の歩みを紹介して、レジリエントな地域社会づくりについて参加者の皆様と議論し、ポスト2015フレームワークにおける被災地にある大学の役割を明確にしたい。

●主催者 / 岩手大学

3月18日(水) 開始時間 / 13:30 13

東京エレクトロンホール宮城 601 大会議室

災害に強くなやかな社会の創造を目指して ～防災研究の新たなパラダイムとファンディング機関の役割～

JSTでは2011年以前より、SATREPSやRISTEX等の事業で地震等に関する研究開発を継続的に支援し、東日本大震災以後も、被災地における科学コミュニケーションの実施や復興促進センターの設立などにより、防災・減災分野において活動を展開してきた。これまでJSTが各事業で取り組んできた研究開発・社会実装のコンセプトや成果を総括し、さまざまな連携・橋渡しの可能性を探り、当該分野における活動の方向性を検討する。

●主催者 / 独立行政法人科学技術振興機構

3月18日(水)	開始時間 / 9:30	14
東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室		
在日イタリア人による支援組織「ITALIANS FOR TOHOKU」の陸前高田市への復興支援活動の現状報告と今後の計画		
<p>在日イタリア人による支援組織「ITALIANS FOR TOHOKU」が岩手県陸前高田市で行ったさまざまな復興支援活動と、同市民たちがどのように受け止めてくれたのか、その現状をビデオやスライドで報告する。さらに、今後に向けて準備している同市に向けた計画を紹介する。</p>		
●主催者 / 東北復興のためのイタリア人会		

3月18日(水)	開始時間 / 13:30	14
東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室		
コミュニティ・オーガナイズングと東北におけるコミュニティ形成、強化の可能性		
<p>東日本大震災から4年経ち地域で暮らす市民がリーダーシップを発揮し事業を立ち上げコミュニティづくりを行っている。そのような活動を行っているリーダーがどのような経緯で活動を始め、人を巻き込み、災害に強い街づくりに取り組んでいるかを『パブリック・ナラティブ』というストーリーを語る形式を通じて発表し、お互いの活動を知り、横のつながりを作り支え合うプラットフォームを作る。</p>		
●主催者 / 特定非営利活動法人コミュニティ・オーガナイズング・ジャパン		

3月18日(水)	開始時間 / 9:30	15
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1		
シンポジウム より良い復興に向けてー福島大学の挑戦と貢献ー		
<p>本シンポジウムでは、福島の実験を今後世界で起こり得る大規模災害、複合災害に生かせるよう、福島大学つくしまふくしま未来支援センターのこれまでの取り組みと、人類が初めて経験する複合災害からの「学び」を世界の参加者と共有することで、兵庫行動枠組および後継枠組のインターナショナル、ナショナル、ローカルレベルでの実践に貢献する。</p>		
●主催者 / 福島大学つくしまふくしま未来支援センター		

3月18日(水)	開始時間 / 13:00	15
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1		
漁業地域の津波防災シンポジウム		
<p>東日本大震災により、沿岸域に位置する漁業地域は甚大な被害を受けた。現在、地域の漁業者とともに水産庁、関係省庁および自治体はその復興に全力を注いでいるところである。このシンポジウムは、東日本大震災による漁業地域の被災とその復興および今後発生危険が指摘されている巨大地震を踏まえ、学識経験者などにより全国の漁業地域の津波防災対策について議論する。</p>		
●主催者 / 水産庁、全国漁港漁場協会、漁港漁場漁村総合研究所、水産土木建設技術センター、全日本漁港建設協会		

3月18日(水)	開始時間 / 9:30	16
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 2		
日本大学 N. 国際救助隊 ー大学の『知』で社会に貢献できることー		
<p>災害が起きたら現地に向かう救助隊という意味よりも、災害復興支援、教育支援、医療福祉支援に貢献できる教育・研究活動を、遠隔地で社会実験できる「スマートモビリティシステム」を開発し、80以上にのぼる支援プログラムを実践する救助隊です。学生たちと協同で地域の問題に取り組んだ結果から、大学に何が出来るかを考え提案し議論します。</p>		
●主催者 / 日本大学		

3月18日(水)	開始時間 / 13:30	17
TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 3		
アジア太平洋地域の防災・減災の研究・実務者ワークショップ		
<p>アジア太平洋地域の若手・中堅の防災研究者・実務者が、各国における防災政策上の課題・研究の最前線について発表を行う。また、参加者相互のディスカッションに基づき今後のアジア太平洋地域の防災対策のあり方についての提言を行う。また、本ワークショップの参加者を中心にアジア太平洋地域における防災実務者・研究者の情報交換のプラットフォームを構築する。</p>		
●主催者 / 地域安全学会、韓国・防災学会、台湾・危機管理学会		

3月18日(水) 開始時間 / 10:00  27

仙台市情報・産業プラザ (AER内) 多目的ホール (5階)

国際砂防シンポジウム

海外の主要な国・地域から砂防行政・研究者等の参加を得て強靱な国土および社会づくりに寄与するため砂防技術や政策、戦略等について議論し、一定の方向性を得ることを目的としたパネルディスカッション方式の国際砂防シンポジウムを開催する。

●主催者 / 国土交通省砂防部

3月18日(水) 開始時間 / 9:30 28

仙台市情報・産業プラザ (AER内) セミナールーム (2) (6階)

防災情報社会デザインを考える ～ポスト2020を見据えて～

ロンドンオリンピック(2012年)やブラジルワールドカップ(2014年)における防災を中心とした安心安全の取り組みの事例発表を行う。その発表を受け、東日本大震災以降我が国における情報通信技術およびデザインの防災活用に関して集約した知見を踏まえ作成した東京オリンピック・パラリンピック開催時における災害の対応シナリオ案を発表、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年時点における我が国の情報面での防災などの到達目標を提示する。事例報告とシナリオ発表を踏まえ、有識者を交え今後の取り組みのロードマップと2020年以降の世界の防災への貢献のあり方について議論する。

●主催者 / 慶應義塾大学SFC研究所防災情報社会デザインコンソーシアム

3月18日(水) 開始時間 / 10:10  29

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール A (21階)

津波警報と周知啓発活動 ～地域社会の強靱化に向けて～

2004年12月に発生したインド洋津波から10年、2011年3月の東日本大震災からはほぼ4年が経過した。この10年における地震津波災害の様態、社会構造の変化、地震・津波予測技術の進展等の背景を踏まえ、世界各国での地震情報/津波警報提供と住民への啓発活動による地震津波災害リスクの軽減に向け、国際的連携の強化や国連に求められる役割などについて議論する。

●主催者 / 気象庁

3月18日(水) 開始時間 / 14:30  30

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール B (21階)

「観光フォーラム：東北観光の課題と今後の方策」

風評被害の払しょくに向け、安全・安心に対する理解を広めるとともに、復興ツーリズムや防災・減災学習など、震災からの復旧・復興過程を通じて獲得した産業観光資源等も紹介しながら、復興を加速化する「東北の新たな魅力」を世界に発信する。

●主催者 / 一般社団法人東北経済連合会

3月18日(水) 開始時間 / 10:30 31

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール C (30階)

「復興支援インターン」に関するシンポジウム～東日本大震災からの復興に向けた学生・地域・行政の協働について～

復興大学災害ボランティアステーションが運営する「復興支援インターン」に関して、第1部では、「復興支援インターン」参加学生による事例報告会を行う。第2部では、第1部の報告会を受けて、今後、東日本大震災からの復興に向けて大学生、地域、NPO・社団法人等の団体、行政等の協働についてグループディスカッションを行う。なお、第2部終了後閉会時に第1部の報告会の表彰式を行う。

●主催者 / 復興大学災害ボランティアステーション

3月18日(水) 開始時間 / 9:15 32

AER TKP ガーデンシティ仙台 ホール D (30階)

次世代地域社会における交通システムの提案

東北地域は元々、集落が分散し過疎・高齢化が進行している上に、今回の震災で沿岸地域をはじめとして甚大な被害を受けた。東北大学次世代移動体システム研究会は、先進技術を結集・融合し安全・円滑・快適で環境に優しい次世代自動車・次世代交通による移動の研究・開発を行っている。これにより人にも環境にも優しく災害にも強い移手段の導入により、地域の特性に根差した新たな地域型の社会モデルの提案を行っている。本イベントにて、それらさまざまな研究開発の最新状況を報告する。

●主催者 / 東北大学 次世代移動体システム研究会

3月18日(水)	開始時間 / 14:15	33
仙台市シルバーセンター 交流ホール		
水道減災シンポジウム ～みんなでつなごう命の水～		
東日本大震災の経験を踏まえ、地域における相互協力による主体的な応急給水体制づくりなど、市民とともに進めている水確保の取り組みや、他都市の水道事業者、民間事業者などとの間で構築してきた協力・連携体制とその強化に向けた取り組みについて、多様な立場の方々のパネリストに招いて議論を深め、協働と連携の力による「命の水」をつなぐ水道の災害対策モデルを発信していく。		
●主催者 / 仙台市(水道局総務課)		

3月18日(水)	開始時間 / 9:30	34
仙台市シルバーセンター 第一研修室		
命の水を守るために ー地震に強い水道をみんな で考えようー (水道耐震化推進プロジェクト)		
プロジェクトのこれまでの活動成果を踏まえ、水道施設の耐震化推進における広報活動の重要性ならびに必要性等について議論する。		
●主催者 / 水道耐震化推進プロジェクト		

3月18日(水)	開始時間 / 14:00	34
仙台市シルバーセンター 第一研修室		
災害に強い社会を創るために ～企業の視点から～		
第一部では、地域性、業種、規模等を踏まえた企業における自然災害の対策のポイントと防災・減災の観点での東京海上日動の取り組みを紹介します。第二部では、東京海上日動が世界最大の災害早期復旧専門会社ベルフォアと提携して以来10年間の活動を振り返り、実際の復旧事例を紹介しながら、企業が万一、自然災害や事故に遭った場合に、どのような手順で早期復旧を行うのが有効であるかを説明します。		
●主催者 / 東京海上日動火災保険株式会社		

3月18日(水)	開始時間 / 13:00	E 43
東北大学川内北キャンパス B104		
Elders Leading the Way to Inclusive Community Resilience		
After the Great Japan Earthquake and Tsunami of 2011, the elders of Ofunato, Japan established Ibasho Café, which operates as a sustainable business and serves as a resource for building resilience to future hazards. Elders in Ormoc, Philippines have organized in a similar way after Typhoon Haiyan to help their community recover. The session will present a short documentary film on the experience, followed by a discussion with elders from Ofunato and Ormoc, and the Mayor of Ofunato.		
●主催者 / World Bank - GFDRR		

3月18日(水)	開始時間 / 9:30	44
東北大学川内北キャンパス B200		
『生きる力』市民運動化プロジェクト推進のためのシンポジウム		
本プロジェクトでは、“災害と共存して「生きる力」”を高めるための市民運動・啓蒙活動の推進している。本シンポジウムでは、今年度までに実施した「『みんなの防災手帳』の配布・普及」「被災訓練プログラム『SENDAI CAMP』の開発・実施」に関する報告と「『生きる力』を高めるために」というテーマでのパネルディスカッションを行う。		
●主催者 / 「生きる力」市民運動化プロジェクト東北大学災害科学国際研究所		

青森県・岩手県・宮城県・福島県で開催されたシンポジウム・セミナー

東日本大震災で大きな被害を受けた青森・岩手・宮城・福島各県の各県が震災の経験と教訓を発信することを目的とし、それぞれの地域においてシンポジウムを行います。

青森県会場

- 青森から「防災公共」の発信
～人命を守る防災・減災対策とは～

主催／青森県

会場／八戸グランドホテル

日時／3月15日(日) 13:00～16:20

概要／東日本大震災等近年の大規模自然災害が想定を上回る被害を発生し、今までの構造物による防災対策に限界があることを認識させられた。このため、減災を行いながら、災害時に人命を守ることを最優先に「孤立集落をつくらない」という視点と「逃げる」という発想を重視した防災対策と危機管理体制の強化などのハード・ソフト一体となった取り組みを「防災公共」と提唱し、最適な避難経路、避難場所を確保するなどの対策を行う「防災公共推進計画」策定に取り組んで来た。「防災公共」を進めることにより、災害時に人命が守られるという取り組みをフォーラムにおいて世界に発信するものである。

岩手県会場

- 「高齢者・障害者と防災シンポジウム」復興の力：ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりに向けて

主催／国連開発計画(UNDP)、日本障害フォーラム(JDF)、陸前高田市
会場／陸前高田市コミュニティホール

日時／3月16日(月) 13:00～15:30

概要／2011年3月11日に発生した東日本大震災で犠牲となった障害者の割合は、全住民の割合の2倍であると言われています。陸前高田市では、犠牲となった障害者のうちおよそ9割が65歳以上の高齢者であった。

誰もが安心して笑顔で暮らせる住み良いまちを創るために、陸前高田市が進める復興へのまちづくりと「ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり」の新たな取り組みを国内外に発信する。(同時通訳あり)

- 「文化財と防災」シンポジウム

主催／岩手県

会場／ペリーノホテル一関

日時／3月17日(火) 9:30～14:00

概要／東日本大震災津波により、岩手県太平洋沿岸では甚大な津波災害を被り、多くの文化財が深刻な被害を受けた。文化財は、地域コミュニティの精神的支柱となり得ることから、「文化財の防災」の重要性を提起する。

- ・地元の高校生等による防災の取り組み
- ・岩手県の復興状況の報告、岩手県からの防災・復興に関する提言
- ・専門家による講演・パネルディスカッション
- ・世界文化遺産平泉の視察 など

宮城県会場

- 石巻市防災シンポジウム

主催／石巻市

会場／石巻専修大学

日時／3月15日(日) 11:00～16:30

概要／本市では、平成26年4月1日に制定した石巻市防災基本条例において、毎年3月11日を含む7日間を防災週間として設け、市民、事業者及び防災関係機関等と連携し、防災意識の高揚とともに、被災地としての体験を風化させることなく、東日本大震災の経験から得た知識および教訓を全世界および後世の人々に伝承するための活動を実施することとしている。また、「石巻市防災シンポジウム」は、防災週間のイベントおよび国連防災世界会議関連事業として位置づけ、市民の防災意識の高揚、防災における市民、事業者および市の役割、震災の伝承等に関する基調講演、パネルディスカッション等を実施する。

- 男女共同参画・多様な視点からの防災実践講座

主催／宮城県、多賀城市(共催)

会場／多賀城市文化センター 第3・5会議室

日時／3月18日(水) 13:30～15:30

概要／東日本大震災の教訓として、男女のニーズの違いや多様な生活者の視点に配慮した防災・減災対策、地域住民の自助・共助の取組の重要性が指摘された。災害時も性別や年齢、障害の有無、国籍等にかかわらず、避難所等において被災者一人ひとりの人権が守られ安全に安心して生活ができるようにするために、地域防災力を高めることを目的に避難所運営を含めた防災・減災対策について県民に対する研修を行う。

福島県会場

- ふくしま復興を考える県民シンポジウム

主催／福島県(主催)、福島大学(共催)、日本赤十字社(共催)

会場／ホテル辰巳屋

日時／3月15日(日) 12:40～16:30

概要／本県の復興の推進力となる方々が、広い視野に立って意見を交換し、本県の情報の発信と今後の展望を共有するとともに、震災の教訓を踏まえた災害対策について発信することを目的として開催する。

- 国際シンポジウム 複合災害からの復興と災害復興学の確立

主催／福島県、福島大学、つくしまふくしま未来支援センター

会場／コラッセふくしま 多目的ホール

日時／3月16日(月) 13:00～17:30

概要／本シンポジウムは、福島大学が実施している災害復興の学術体系確立を目指した研究プロジェクト「東日本大震災を契機とした震災復興学の確立」による支援および研究活動の進捗を報告するとともに、今後の福島復興に関する方向性を示すことを目的としている。また、自然災害と原発事故対応について先端的な研究を行っている海外の研究者を招き、幅広い視点からの討論を行って、将来への展望を提示する。